328-25

社寺と人生

明治
43. 5. 21
内交

謹で斯書を故兒玉大將閣下の墓前に献ぐ

著者

自序

逝く歳月は流水よりも速く、自分が社會改良に身を投じてから、既に星霜二十を經過した。此の間口に筆に、社會の改良せねばならぬことや、又之を如何にして實施せねばならぬかといふやうな問題に對しては、論じもし、又説きもした。而して其の稿積んで二函に充つるに至つた。尤も輿論の起すべく、實施の促すべきものは、時に應じ、機に臨んで論述したものであるから、或は警察、監獄の兩雜誌や、或は宗教の雜誌や、或は社會的新聞雜誌等に掲載されたが、而かも其多くは自分が主幹して居る『人道』誌上に於て論述したのであつた。當時自分が張胆明目して唱道した問題の中には、今や既に事實の問題と

して解決せられたものもある。譬へば感化院設立の如き、刑の執行猶豫の如き、或は癩病患者療養所の設立や、特種部落の改善等は、其一例であるが、更に今少しく近い例を云ふと慈惠救濟事業に對して、政府が相當の奬勵保護を加ふるが如きも、亦其主なるものであるが、斯く多くの宿題が着々實際問題として解決せられつゝあるのは、聖代の惠澤こして、實に祝すべく、且つ喜ぶべきことである。而かも未だ解決せられない問題に至りては、恰も千里の荒野の如く、其範圍頗る廣漠である。自分は顧みて私かに其微力を嘆かざるを得ない。けれども江湖の志士仁人と共に社會的無限の荒野に向つて步一步を起を擧げなければならぬと思つて居る。

自分が本書に於て論じた社會的諸種の問題は、其材料の多くは實地に於て得たもので、之を理論の上や圖書館の裡で得たものとは、聊か其撰を異にして居る。敢て議論の奇拔を求むることが出來ないとしても、實際の事實に迂遠ならざらんことは、精々注意した積りである。自分は幸にして內務行政の一たる慈惠救濟即ち廣き意味の社會事業に關係して、十有餘年の間之が調査研鑽の任に當り、一年三百六十五日の大半は、全國を巡遊して、其實勢を視察するの便宜を有して居る。然れば其材料の如きも、他に於て得ることの出來ない幾多の好材料を有することは、偏に府縣廳及民間有志者たる斯學に趣味を有する人々の賜なりと謂はねばならぬ。自分は聞めて此等の好材料を極めて有益に利用したいと思つた。けれども本書に於て十分之を表はすことの出來なかつたことは、一

自序

は自分の多忙なるによるのと、他は不敏の致す所とで、こは實に遺憾千萬である。故に更に他日を俟つて、此遺憾を償ふ丈けの研究を積まんことは、自分が本書を著すに當つて、最も切實に感ずる所である。

明治四十三年五月中浣

於家庭學校

著者識

凡例

一　本書は主として著者が歐米並に我國を周遊して得たる材料を以て、論述したる視察記、見聞錄とも見るべし。博士文士が萬卷の書を涉獵して著述したるものとは、聊か其撰を異にす。

一　本書は日露戰爭以前に筆を起し、其以後、時と、處と、事と、物とに應じて、著者の意見を筆錄したるもの多ければ、現時の狀態に適合せざる論文、又は講演なしとせず。其不用となりたれたるものと見て大過なからん。

一　本書の論文及講演は、間々同一比喩を、時と處とを異にして引例したるものあれば、自然重複の嫌なきを保せず。こは十有餘年の久しきに成りたるものなれば、讀者幸に之を諒せられんことを。

一　本書は原と之を社會、敎育、慈善、感化、監獄、宗敎の六大編として編輯したりしが、其頁數積んで千數百に上る故を以て、書肆の乞を容れ、前四

凡例

大篇七百五十頁を以て、一先づ本書を結了することゝせり。著者に於ては多少の遺憾なきにあらざれども亦是れ止むを得ざるなり。後の二大篇は、後日更に別題を附して出版し、是正を天下に問ふ所あるべし。

一　本書の論文及講演は主として予が主宰せる『人道』に掲載したるもの、其他は五六の新聞雜誌に掲げられたれば、句調文體一ならず。尙ほ雜然として落葉の林間に散在せるが如きか。而かも大體の本旨は全卷を通じて一貫せるを信ず。讀者若し其錯雜を咎むるなくんば幸也。

一　一括して本書を見れば、二十年前は今日の如く、今日は尙ほ二十年前に似たるものなからずとせず、而して感慨の極めて多きを覺ゆるは、尙是れ曾遊の道路を辿るに似たるものあれば也。一夜假寢の草枕、尙綿々の情あり、本書固より一片の枯草朽木に過ざれども予に於ては豈に夫れ多少の感慨を價せざらんや。

社會と人道

目次

第壹編　社會　頁

一、グラスゴー市の社會事業……一
二、學ぶべき英國……二四
三、地主と小作人……三四
四、救貧論……四三
五、國民と勤勞……五五
六、青年會の社會的位置……八一
七、浮浪徒と失業者……九〇
八、救世軍現時の成功……一〇〇
九、都市と公園……一〇五

目次

十、公園の道徳的……一一六
十一、健康は賜なり……一一七
十二、學生風紀問題……一二六
十三、誰れか最善の教師たる……一三三
十四、傳道の姉妹事業……一三五
十五、大阪府圖書館……一四七
十六、社會と警察……一五四
十七、休暇の利用……一六八
十八、都會と田舍……一七一
十九、山と人……一七五
二十、教育家の社會的任務……一七七
廿一、貧民の階級と救世軍……一九〇
廿二、民政と實行及風俗……一九六
廿三、女子と犯罪……二〇一

目次

廿四、現今社會に於ける二大勢力……二〇六
廿五、犯罪の豫防と青年會……二一四
廿六、新平民の研究……二一〇
廿七、新平民の改善……二一五
廿八、市町村自治の四角同盟……三〇〇

第貳編　教育

一、ペスタロジーと近世教育……三三三
二、教育家の社會的位置……三三三
三、婦人と慈善及教育……三四二
四、教育の粗品濫造……三五六
五、教訓に充ちたる與進小學校……三七二
六、天命の伸縮……三七八
七、ラスキンの教育觀……三九二

八、家庭と婦人……四〇一
九、金訓四則……四〇五
十、精神教育の中毒……四一〇
十一、老教育家……四一一
十二、嗚呼白河樂翁公……四二六
十三、結婚の小哲理……四三〇
十四、家庭の主腦者……四三四
十五、育兒の主義……四四二
十六、如何に子供を育つべき乎……四六一
十七、家庭の中心……四九三
十八、人生の三大學……五〇七

第參編　慈善

一、慈善政策……五一一

二、慈善事業の三大要素……五三〇
三、富豪の慈善……五三七
四、慈善事業の危機……五四二
五、慈善院と其名稱……五四七
六、軍人の家族と生業扶助……五五二
七、社會の進運と慈善事業……五七〇
八、慈善事業と政府の奬勵……五七四
九、廢兵處分……五七七
十、戰時に於ける慈善的設備……五八三
十一、慈善的寄附問題……六〇六
十二、慈善事業の『ツラスト』……六一四

第四編　感化

一、感化教育論……六二一

目次

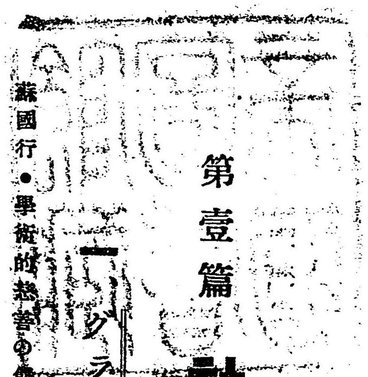
二、感化事業私見……六四九
三、不良少年の感化……六六〇
四、感化教育……六六八
五、不良子弟の増殖……六七八
六、境遇と不良少年……六八〇
七、家庭と不良少年……六八六
八、免囚保護の實驗……七〇五
九、犯罪を防遏する二大關門……七一三
十、我國の慈善問題……七二六
十一、石井十次氏と岡山孤兒院……七三三
十二、慈善事業の二大「活」……七五〇
十三、感化事業回顧十年……七五五
十四、無爲の化……七六〇

社會と人道目次終

社會と人道

留岡幸助著

第壹篇　社會事業



一、クラスゴー市の社會事業

蘇國行・學術的慈善の創見者・彼は一大電流の如し・最も愛好すべき瑞西と蘇國・宿屋・星爛々何ぞ人傑を輩出せることの多きや・宛として英雄國・世界歴史上の寶玉・其建設・其人口・其産物・其市政・計畫の壯大島國民の膽を奪ふ・港灣及船渠・浴場と洗濯場・不潔と貧民・潔癖は我國民の祝福也・公設浴場・入浴も亦一の教育也・游泳場・體操場・洗濯場・公園・一握の花卉尚神往の眺めあり・公設貧民長屋・一長屋の中に百三家族・貧民の一大恩惠・違反者の處分法・模範木賃宿・寡夫寄宿舎・好個の一對・以て其寂寞を醫すべし・カー子ギーの美擧・

第壹篇　社會

昨年余が歐米各國を漫遊するや、余は所謂世界一週切符なるものを購求したり。此の世界一週切符は、紐育より、リバプールを經由して、龍動に至るを常とするものなれ共、グラスゴー行きの航路を取るも、亦多く妨げざる也。故に余はグラスゴー行の滊船『アーネシア』號に搭じて蘇國行を企てたり。是敢て奇を好みて而か爲せしにあらず。余は當時少くとも二個の理由を有したりき。(一)グラスゴーは市政に於てバーミンガムと共に世界の模範市として重きを爲し(二)グラスゴーは近世科學的慈善の鼻祖として有名なるトマス、チヤルモルを産出せし所、此の二特長は余を彼地に吸引するに於て最も力ありしもの也。トマス、チヤルモル彼抑も何人ぞや。彼は實に一七八〇年に生れ、一八四七年に歿しぬ。其十八世紀の末葉より十九世紀の半に渉る六十七年間の生涯は、其理想の爲めに遺憾なく消費せられたるが如し。彼は牧師として哲學者を兼ね、又一面神學者經濟學者として、優に一家を爲せるもの。吾人の探る所の科學的慈善の方法は實に彼の創見せし所にして、グラスゴー市セントジョンの貧民部落に於て、近世の科學的慈善を實行し、且つ輓近世界

を動かしつゝある聯合慈善協會の如きも、亦實に彼の創見に屬せり。然れば好し他の凡てを皆無として目を閉ざさしめんも、而かも只だ此の人物を生產せし一事は、宛がら一大電流の如く、余をしてグラスゴー市に牽念するを禁じ得ざらしめしなり。況んや其市政は既に卓爾として一頭地を世界に拔くものあるに於てをや。是に於て余の船は、九月十二日を以て紐育ホドソン河畔に纜を解き、越えて二十二日グラスゴーに着しぬ。全體此グラスゴーにはクライドと名くる河ありて、遙にグリノークに流る。普通は即ちグリノークより滊車に乘じて、約三時間の後グラスゴーに着す可きなり。

蘇蘭士人

グラスゴー市の社會事業を語るに先ち、吾人は少しく蘇人の性格を語らざる可らず。

余が歐米を歷遊して、最も愛好に堪ざりしは、瑞西と蘇國との二國なりき。前者は其の天然の美麗に於て、後者は其の人文風俗の醇美に於て。英人口を

開けば、即ち漫りに『スコッチ』と呼び、以て嘲笑の語氣を洩らすと雖も。

宿星爛々何ぞ人傑を擧出せること多きや

性情素朴にして、清健剛直なる氣象に至つては、何れの國か能く蘇人の右に出づるものあらん。實にや幽蘭の在る所其土薫ばし。美風の欝勃するところ、之を政治家に求めては

冠さして英雄國

サー、ロバード、ピールとなり。ウヰリアム、ピットとなり。現宰相バルフオーアとなり。之を文學家に求めてはスコットとなり。バーンスとなり。トマス、キャンベルとなり。扨ては近代の彈劾者一世の鼓吹家たるトマス、カーライルとなり。或はダビット、ヒユームの歴史家たるに於ける。或はジョン、ノックス。ダビッド、リビングストンの宗教家たるに於ける。或は又アダム、スミスの經濟家たる。トマス、チヤルモル及びアンドリウ、カーネギー等の科學的慈善家たる、如上幾多の英豪は是れ皆世界の歴史を飾る宿星にして、世界の文明人道の發展に、貢献せること大なる、今更吾人の絮説を俟つを要せざるに似たり。蘇國の歴史的地位、豈等閑に附すべきものならんや。

然れども蘇國の尊重すべき、獨り此れのみに止まらざる也。今や世人の多く使用して、少しく注意を拂ひつゝある蒸汽機關は、元是れ蘇人たるゼームス、ワットが一七六三年、世界各國に先鞭して發明したる所也。爾來幾十年を經て、ヘンリー、ベルなる者、其天賦の奇才を揮つて、茲に初めて世界最始の蒸滊船を造り、之を彼の有名なるクライド河に泛べたり。是れ實に一八一二年のことなりき。誰か當時僅にグラスゴーとグリノーク港とを往復したる小滊船が五洲を航して倘屢き足らざる今日の如き盛事あるを想はんや。實に水は花を浮べて流る。二十世紀の文華クライド河の流水に負ふ所尠なからざるは花に此の如し。況んや文明の寄與者たる幾多精神上の豪傑を加へて、更に一段の光彩を添ふる蘇國こそ、なか〳〵に世界歴史上の寶玉とも稱すべけれ。

世界歴史上の寶玉

グラスゴー市畧史

其建設

既に蘇國及蘇人に就き概觀したる吾人は、今少しくグラスゴー市に就き語る所あらんとす。

▲其建設　該市は西暦五百六十年宣教師聖マンゴーの創設せし所にして、蘇國中商工業の中心點たり。其の造船業を以てリバプールと爭ひ、製造業を

以てマンチエスターと競へり、興運隆々覇氣天を衝くの概あり。

其人口

▲其人口　一九〇一年の調査に依れば、人口七十六萬〇四百二十三人にして、其附近の地を合すれば人口百萬に近しといふ。市はクライド河に沿うて立てられ、鋼鐵の製造業を以て殊に名高く、大英國中造船の三分の二は、該市に於て造成せらるといふ、豈亦盛ならずや。

其産物

▲其産物　物産の重なるものは、鋼鐵の造船に加へて鐵、毛織物（羊毛織最も多し）鐵管汽罐、カリコ、玻璃、陶器、晒布、金巾、石炭等也。

其市政

▲其市政　市政の設備は大英國中第一流に位するものにして、今市の事業に屬するものを擧ぐれば、瓦斯、水道、電車、公園、圖書館、公設洗濯場、公設模範木賃宿、貧民長屋、商館、寡夫止宿場、病院、殊に肺病患者の病院、電話、博物館及公衆衛生等の事業なり。

就中水道事業の如きは驚くべき設備にして、余が恰もグラスゴーに滯在するや、市吏に請うてその水源地たる貯水池を見んことを以てせしが、市吏余に問うて曰く、幾日か能く滯在するやと。余は僅々四日間の滯在なるを以て

計畫の壯大島國民の膽を奪ふ

答へぬ。彼れ再び言をなして曰く、水源地は市を距る凡そ四十二哩の遠距離たるロック、キャツライン湖にありと。流石の余も此語を聞きて茫然自失せざるを得ざりき。其計畫の壯大なる、眞に吾等島國人民の膽を奪ふものあり。然れば其經費の如きも、亦無慮二百五十萬ステリングを費したりといふ。

港灣及船渠

▲港灣及船渠　グラスゴー市の事業をいふ者、先づ指を港灣と其船渠とに屈す。而して港灣と船渠とを說く者にして、市を一貫せるクライド河に言及せざる者殆んど稀也。グライド河は今を距る五十年前迄は川幅百八十呎、深さ三呎なりしが、市の事業の發達に連れ、愈々河川の改良に盡力せるを以て不絶取泥器を以て河底を浚渫せし爲め、現今の如きは深さ二十四呎に達し、其川幅の如きも亦四百八十呎の廣きに及びぬ。堅忍不拔の氣象あるに非ずんば、焉んぞ好く斯の如きを致さん。而して一八四五年之に費したる經費は一千萬磅、（我一億萬圓）に及びたり。斯て川床 The river bed. より泥土を浚除せし總量五千萬キユービック、ヤード也といふ。又以て其盛大を稱すべきに非ずや。且つ港灣の面積二哩半は河畔に沿うて擴張せられ、船渠は百六十エーカーに

して埠頭の如き全體の長さ六哩以上に及べり。

吾人は之れよりいよ〳〵グラスゴー市の社會事業に就き、少しく述ぶる所あらんとす。

浴場と洗濯場

▲浴場及洗濯場　西諺に "Cleanliness is next virtue to Godliness" 『清潔は敬神に次ぐの德也』との語は、泰西各國に於ける窮民の狀態を調査したるものゝ容易く首肯し得る所なり。蓋し歐米各國に於ける貧民の家屋、貧民其れ自身の身體の不潔不淨は名狀すべからざるものあれば也。於是乎貧民の改良に最も熱心なる都市若くは最も進歩したる市政の內には、公設浴場及公設洗濯場の設備あらざるなきに至れり。苟も貧民の狀態を改良せんと欲せば、其急務の一として先づ彼等が住居せる家屋を清潔ならしめ、其身體を洗淨にするの習慣とを敎へざる可らず。我國の貧民の如き、不潔は即ち不潔なりと雖。之を歐米貧民の不潔に比するに、未だ多く言ふに足らざるものあるを見る。由來日本人は凡ての事清潔を好むの性情あり。こは天資既に潔癖の強きに由るべけれ共、抑も亦宗敎の關係最も然らしむるに非ざるなきか。彼の讀敎を見るに

貧民の不潔と貧民

潔癖は我國民の祝福也

水を以て身體を潔め、而して後神前に跪く也。故に其祈念に曰く『拂へ給へ、潔め給へと』然れば我が貧民中には往々其屋內に洗浴室を有するものなきにあらず。歐米の貧民は即ち然らず。啻に自己の屋裡に浴室を設くるを夢想する能はざるのみならず、幾旬幾月を重ぬるも、更に一浴を試みざる程のものゝ比々皆然り。是れ（一）は天性洗身の性情薄きによると、（二）は入浴料の比較的高價なるとに原因せずんば非ざる也、獨逸にあつては中等旅館にて入浴するに一馬克を要し、米國は一弗又は五十仙を一回の入浴料として拂はざる可らず。ロンドン亦概ね然り。如此入浴料は貧民の容易に堪ふる所に非ざる也。

公設浴場

▲公設浴場　以上叙述せし如くなるを以て、最も進歩したるグラスゴー市の如きは、貧民の部落に沿うて市內に十二ヶ所の浴場及洗濯場を設置せり。此の如き設備は不潔云はん方なき貧民の爲には非常なる敎育なりと謂はざる可らず。今其の十二ヶ所を類別すれば、

一、洗濯場　三箇所
一、浴場及洗濯場　一箇所
一、浴場、洗濯場及游泳池　一箇所
一、洗濯場、浴場及游泳池　六箇所

入浴も亦一の敎育也

公設の浴場設備は市の行政としては、歐米各國何の都市に往くも必要の部分とし鋭意經營せらるゝ所、其の起因を尋ぬるに二個の理由あるものゝ如し。米人リー氏は最近の著述 "Constructive and Preventive Philanthropy" に述べて曰く

公設浴場を設備するの原因は凡そ二個の理由あり（一）は南北戰爭後衛生の改良上より公設浴場を設備するの風勵行せられ（二）は教育上の見地より清潔を一種の道德として教ふるより之が設備を奬勵するに至れり。而して今日の所は衛生の見地よりに非ずして、寧ろ教育の點より米國各市に於ては公立浴場設備せらるゝに至れり。

と、此二個の理由は少くとも、グラスゴー市が模範的公設浴場及洗濯場を設備するの動機たりし也。

グラスゴー市に行はるゝ浴場中には其種類凡そ三つあり（一）浸浴 Tub Bath（二）驟雨浴 Shower Bath（三）蒸風呂 Turkish Bath 即ち是也。而して此蒸風呂より上りし後に按摩の設備あり。當に大人の爲めに入浴を設備するのみならず、少年子女の爲にも、亦能く自由に入浴し得る樣になれり。一週中三日は男兒

來りて游泳池と浴室とに入り、殘りの三日は女子來りて、男兒と同じく入浴及游泳する也。然れば少年子女の爲めには、此日は趣味と愉快とに圍繞せらるゝの日也。浴場の入口は男女の兩部に分る。其入浴料は、

大人　二片（八錢）　少年（十六才未滿）　一片（四錢）

但し蒸風呂の假は一志六片即我七十四錢也、

而して『シーヅン、チッケット』なるものありて、此切符を購ふ者は、其割合頗る便利なり。

入浴料（普通）（一年分）12/8（六圓二十錢）男子
同　（半年分）10/（五圓弱）同
同　（九箇月）4/（二圓）女子
同　（六箇月）3/（一圓五十錢）女子

上等浴室 "Private hot Bath"

一等　六片（二十四錢）男子
二等　四片（十六錢）同
三等　三片（十二錢）同

但し女子は凡て三片の入浴料にて何れの上等浴にも入浴し得る也。

以上の如き入浴價格なりと雖も、小學兒童は凡て無料にて入浴することを得る也。如此にして一箇年總ての入浴者を調査するに、一九〇二年に於ては、其入浴者數六十餘萬人、即ち人口千に對する入浴者の數七百八十の多きに達せる也。

同市中ホワイト、ベール區の浴場及洗濯場を設備するには、その總經費實に三十七萬圓也。尤も此設備費中には土地の價格も含有し居るものと知らざるべからず。

グラスゴー市何れの浴場にありても、體操室と游泳場及書籍支館のあらざるはなく、浴場といへば必ず此等を併置するを意味せり。蓋し是れ大に理由のありて存する所也。

▲游泳場　余が視察したりし游泳場には常に十萬ガランの水を湛へ、其長さ七十五呎、幅四十呎、深さ平均四呎にして、温度七十三度也。之を以て寒暑を通じて游泳に便益を添ふ。游泳場周圍の二階、譬へばホワイト、ベール

區の如きは集合場として造られ、五百二十人の座席と二百五十人を容るゝに足る立席とあり。何れの游泳場にも男子と女子とは、素より嚴劃せられて設置しあるものと知るべし。

▲體操場　體操場と入浴場とを合同併置するは、甚だ良法といふべし。體操を盛に行はゝ必らず發汗するを以て、直ちに入浴するの必要あり。此體操場には專門の敎師ありて、體操科目は十二に分ち、一科の敎授料一志即ち五十錢にて敎授する也。體操場には木馬あり、鐵棒あり、梯子あり、棍棒あり、ダンベルあり、敎師は愉快と趣味とを加味して、熱心敎授に從へり。余が訪問せし時の如き、一敎師自ら體操を行ひたりしが、其巧妙なる一種輕業を見るの感ありき。

▲洗濯場　は必らず浴場に接續して設備せられ、日、月兩曜日を除くの外は、一時間一片を拂はゝ、何人も來りて之を使用し得る也。即ち朝七時より夕刻六時迄を以て限りとすれども、土曜日は午後二時を以て閉場す。而して此洗濯場には熱湯、冷水は勿論、麭を殺す設備即ち衣服を煮ること、乾燥す

一握の花卉尚神往の眺めあり

る、火熨斗を掛ること等諸般の必要物備はらざるなく、其設計眞に至れり盡せるものあり。ホワイト、ベール洗濯場の如きは、一時に六十六人の婦人を、入浴せしむるに足るの設備あり。因に言ふローマ、ポンペーの舊跡の證左する所に據れば、其の昔既に公設浴場なるものありたるが如し。

▲公園　グラスゴー市は實に二十二個の公園と、十個の小公園とを有せり。就中グラスゴー、グリイン及クインス公園は最も整頓せり。而して後者のグリイン、ハウスの如きは珍草奇花を收集して觀者の目を娯ましむ。吾が東京の如き人口實に百八十萬の大都會にして、僅々數公園を有するに止まるは、一は是れ戸外散策の盛ならざるに由るべしと雖も。抑も亦東京の地た、到る處に樹木點綴し、家々一歩の庭内花卉を賞するの餘地あるが爲めに非らざらんや。只だ歐米の都會や此の如きを望む能はず、即ち必要の條件として公園の數從て多きを加ふに至りぬ。今夫れグラスゴーの如き、此必要的設備の爲に毎年費す所の總經費、實に三十八萬圓に上るといふ。如何に公園に重きを置くかを見るべき也。且つグラスゴーにては輙もすれば兒童の性質

を薄弱無趣味ならしむる家庭教育の甚だ不可なるを悟り、近時公園内に植物を採集し、又毎日曜日に音樂を奏し、專ら戸外遊戲の慣習を養成せしむるに努めつゝあり。嘗て女皇金剛石祭の當日、兒童祭を執行せしに、小學兒童の來り集まる者、無慮十萬の多きに達し、爾來毎歳春期に一回之を催すの例なりと云ふ。此外同市には兒童遊戲場なるものを市内の各所に設置して、子女をして盛に遊戲せしめつゝあり。蓋し市の當局者は子女を能く遊戲せしむるは一種の教育なりと信ずるが爲め也。

▲電車　は市設事業の一部に屬するを以て、乘車賃金一哩半片、二哩一片也。故に公園及遊戲場に往復するには頗る便利にして、貧民も亦公園を利用するに多大なる便宜を得る也。電車に關する一九〇二年の報告に據れば車輛三百十六個一個輛一日十六時間づゝ馳するを以て一年の哩數は八百六十餘萬哩也。乘客數一億二千七百餘萬人にして、乘車賃の如きは五萬三千七百餘磅に上り、而して純益金は三萬磅なりと云ふ。

▲公設貧民長屋　グラスゴー市は十九世紀の下半紀よりして、著大の發

展を爲し、當時市の邊隅たりし所は、今や市街樞要の場所となりたるが爲に衛生、道德、治安上、市の發達を妨害すること、甚しきを以て、一八六六年法令を發布し、市は貧民窟の家屋及土地を購入して、新建築をなすことに決定せり。而して其土地家屋の評價は相互の間に決定し能はざる時は、裁判官これをなすことに定められたり。此等の長屋に住居するものは、勞働者及其日暮しの商工業者等なるが、四圍の事情に適應せしめんが爲に、中流に位する機械工業職工又は商人の爲めに商館、模範木賃宿、洗濯場、浴場等を建造するに至れり。長屋の建築は三階又は四階造りにして（法律上三階より高きものを建ること能はず）概ね下階を商館として賃貸せるもの少からず。余が視察したるものは多く此類なりき。家賃は一室一箇年平均五磅八志（五十四圓）、二室は八磅一志（八十五圓）三室は十二磅十三志（百二十六圓五十錢）而して最も便利なるは、一室と雖も、二室と雖も、皆何れも家持を爲すに適當なる樣結構せられたること也。余の見たる長屋にては、一室位のもの百三家族ありき。其賃金を見るに此內八十三家族は一週一磅二志、四家族（主婦にし

十志　十六人の寡婦は重に他人の救助によりて生活せる者也。長屋に住居する者の內容斯の如し。以て其梗概を窺ひ知るに足らん。

▲長屋制度と法律　長屋制度法に依れば一室の立方積は千立方呎以上ならざる可らず。（此は概ね我が長さ二間、幅一間半、高さ一間半位の割）而して一人の住居の室は四百立方尺の規定也。（十歲未滿の小兒は半人分と見て可也）之を以て千立方呎なる一室には二人半を住居せしむるに足る也。故に一家族三人を有するものとせば、二室の家を借らざる可らず。

▲勞働の特權　市に所屬する長屋を借宅するに勞働者には先占權を與へあるを以て、勞働者以外の人は、申込の前後如何に關せず、勞働者に先じて借宅すること能はず。斯の如く貧民を保護するの趣旨を以て築造せられたる長屋なるが故に、室內は空氣の流通よろしく、光線の射入に適し、ありふれた る貧民長屋の如く陰鬱なること なく、從て淸潔と秩序の如きは、整然として勵行せられつゝあるを見る、是れ豈貧民に對する一大恩惠に非ずや。

▲營利的貧民長屋の取締　グラスゴー市は斯の如きの設備を以て貧民を

市所屬の長屋に收容すと雖も、限りなきの貧民を限りある家屋に收容すること能はず。於是乎私人に屬する貧民貸長屋に住居するものゝ取締の必要生ずる所以也。市は家主をして私設の長屋は出來得る丈空氣の流通、光線の射入、清潔法等に注意せしめ、以て暗憺たる室內、不潔なる家屋のなき樣に力を致せり。而して何立方の室には何人を住居せしむべしとの嚴重なる取締法あり。一人住の室は二千キユービック、フイート、スクエアー以下なる可らず。之が勵行は衛生課員をして午後十一時三十分より、翌朝四時迄毎夜百戶宛の調査をなさしむ。かゝる取締を受くべき長屋はグラスゴー全市を通して七千戶なり。之を三區分して一區域內二人の吏員を派して視察に從事せしむ。故に六人の衛生局員はグラスゴー市を毎夜巡回して違反者を取締れり。或は二人を制限するものに、六七人同居するあり、或は五人制限の一家族に時としては二十有餘人を止宿せしむるが如き失態なきを保せざる也。されば如何にして能く調査し得べきかといふに例へば二千キユービック、フイート、スクエーアならばチッケッテッド、ハウス Ticketed house なる標札を門戶に張り八百キユービッ

ク、フイート、スクエーアとあれば二人住ひ二人」といふ標札を貼る也。然れば其種類の家は何時にても市が檢査することを得る也。若し二人規定の家屋にして其規定以上に他の一人にても住ましむるときは注意を與へ、若し二人の住宅に五人も住居するあらば初めは說諭を加へ、尙聽かざるに於てはブランク、ペーパー即ち用紙にその理由を記して裁判官に申告し、裁判官の認印を取り裁判所に於て戒諭に付する也。如斯にして尙命令に服從せざるが如きとあらば、更に罰金刑を申渡して其罪を質す。以上は即ち違反者の處分法也。而してこは一に『サニタリー、デパートメント』即衛生局の管轄に屬せり。此外一週二十二志以上を儲くると能はざるものは、一室以上の室を借宅すべからざる規則あり。バルチック町の長屋に住居するものは一週二十二志八片を儲くるもの八十三人、十志を儲くる婦人四人、他家より救助を受けつゝある寡婦十六人、其他家屋の取締役即ち Caretaker 一人、總計百四十人也。此バルチック町の長屋は一九〇二年四月末に落成したるものなりしが、借宅人は其一年前早く已に申込をなしたるものなりと謂ふ。素よ

り市は貸屋の目的を以て之が廣告をなさず、而かも倏忽として結果前述の如きものあるを見るに至りては、如何に貧民に取りて長屋の設置が利益多きかを知るに足る也。

模範木賃宿

▲模範木賃宿　Lodging house, 市役所は市内七箇所に模範的木賃宿を設置せり。屋内には（一）浴場あり（二）洗濯場あり（三）厨屋あり（四）食堂あり（五）遊戯室等あり。其他宿泊者の爲に必要なるものを設備するが故に、其宿泊料の如きは一泊三片半、四片、四片半の三等に區別せり。洗濯場にては自由にシャツ、ハンカチーフ其他の衣類を洗濯して之を少時間内に乾燥し得るの設備あり。又食堂の一隅には大なるストーヴありて、自由に宿泊者をして自炊せしめ得る也。その傍には煮物店あり、一品半片又は一片の代價を以て自由に求め得るの便宜あるのみならず、其他の日用品も亦能く廉價にて購求し得べき也。此七個の木賃宿は合計二千四百三十人を一時に宿泊せしめ得るに足る。一年を通して一夜の平均止宿者は二千三百六十六人なれば、百に對する九十七强を充たせるを知るに足る也。尤も上等の木賃宿は一夜六片のものあ

寡夫寄宿舍

りと雖も、斯の如きは僅々三四室に過ぎざる也。市役所所屬の外に尙ほ私設の營利的木賃宿なきにあらず。此の私設木賃宿の一泊料は四片若くは五片にして、之を公設の木賃宿に比較するに頗る劣等なりと雖。歐米各國に於ける他の都市の營利的木賃宿に比較せば、尙遙かに勝るものあるを見る。是れ公設模範木賃宿の爲に營利的木賃宿が其設備を改良したるを知るに難からざる也。私設木賃宿は衛生委員の命令により、在宿者の凡に種痘をなさしむ。而して其經費は一年を通して參百五圓を支出せり、其他便所の改良等の爲にも亦少なからざる經費を費やせりといふ。

▲寡夫寄宿舍は　Family home, と名け、其妻を失ひたる寡夫の寄宿する所にして、余が歐米各國漫遊中他の都市に於て、未だ曾て其類を見ざりし所のものなりき。同寄宿舍は三階立にして丁字形を爲し、一棟中百餘室を有す。一室の立方積一千キユービック、フイートスクエーアにして、父子四人を入るゝに足る。此等寢室の外に兒童遊戯場、子守場、書籍室、倶樂部及食堂等を有す。又兒童の爲め別室を要する者ある時は、之に應ずるの設備あり、躾母

好個の一對

以て其寂寞を醫やすべし

をして晝夜之が保育の任に當らしめ、然らざる者には當舍に於て幼稚園敎育及遊戲等を爲さしめ、以て終日之が保育を爲す。故に在宿者たる父は後顧の憂なくして、日々の勞働に從事し得る也。全體此事業は今より七年前に開始せられたるものにして、エルベルフェルド市が孤兒女の爲めに設置したる孤兒院と、好一對の慈惠的設備にして、名聲世界に高し。

▲宿料　父子四人なれば一週五志六片而して一子女に更に一室を與ふる時は、八片の增加を追徵す、食事は朝飯二片半より四片迄也。晝飯は三片より六片まで、夕飯は二片半より四片迄也。如上は大人の食料なるが、兒童は一週一志十片を徵せらる。一九〇一年の在宿者平均數は寡夫百十五人、子女二百九人なれ共、昨年余が往訪せし時は在宿者なる寡夫百〇五人と子女百九十六人とを有したりき。而して監理者夫婦の外に料理人、洗濯婦及媬母等合計二十四人ありて周到懇切に彼等を保育せり。斯の如き趣旨と設備なるが故に、彼の愛妻を失ふたる寡夫も、亦以て其寂寞を醫し、其無聊を慰むるに足るものあらんか。

カーネギー氏の美擧

▲圖書館　該館は一八七七年十一月の開館にして當市の博愛家ミッチェル氏は莫大の金圓を寄附して之が設立の基礎を爲せり。本館は年々新著五千部宛を購求するの設備あり。現今藏むる所の卷數十五萬冊にして新聞二千種、雜誌四百五十種の多きに及べり。本圖書館はグラスゴー市本部圖書館として此外十四ヶ所に支館あり。支館は何づれも皆書籍を貸出せども、本部圖書館は寄附者の遺言に依り之を許さず。是當圖書館の一大缺點也。近來家庭内に書籍を愛讀するの美風興起せしを以て、新に圖書館支部を市内に設置せんとの議ありし折柄、夫の有名なるカーネギー氏五十萬弗を當市圖書館の爲めに寄附せり。既に市内十四箇所に支館を設置して「ミッチェル」圖書館の缺乏を補はんとせり。而してカーネギー氏の寄附せし五十萬弗は其支館の創設費にして之が維持費は專ら市に於て任ずるの條件なりしといふ。此外カーネギー氏は蘇格蘭土全國五十個所へ圖書館を設立するの目的を以て、數千萬弗を寄附せしと謂ふ。又以て善事の偉大壯觀なるを見るに足るべき也。

二、學ぶべき英國

先入主の國・米國より も英國・獨、伊、佛、英の異る點・英人は實際的なりのみ・政府は中ば慣例・怪大的倫敦・英人の宗教は心情の中にあり・教養ある支那人・英國的自負心・英人の常識・是れ事功の擧る所以・海綿的性質・蓋し英國は世界の名門・八分の人物・依然天下の覇王・ジョンブル・執着力と最後の勝利・持久的精神の表現・豪族なり大名なり・

先入主の國

米國より も英國

米國●●、余が先入主の國●●なり。今を距る十年前、笈を負うて渡米、姑らく米國及び米國人に學びたる點より云ふも、將た又た其少壯時代に當り、師と して多くの米國人を有したりし點より云ふも、英國より寧ろ多く米國を賞揚親昵するは、余に於て蓋し當然の事に屬せり。然れども、吾等日本人民の就て以て學ぶべき國民は、米國に あらずして、寧ろ英國なるべしとは、常に余が腦裡を去らざりし所の思想なりき。昨夏余は再び海外旅行を企て、米國よりスコツトランドに渉りグラスゴー、エデンバラを經て倫敦に入り、倫敦よ

り、和蘭、獨逸、瑞西、白耳義、佛蘭西の諸國を歷遊して、近頃漸く歸朝せしが、若し人あり余に問ふに、列強何づれを以て最も學ぶべき國なりやと云ふを以てせば、余は即ち是れ英國なり、英國民なりと答へざるを得ざる也。

獨、伊、佛、英の異る點

英人は實際的也

嘗て佛のモンテスキユー、英國を旅行して、歸來早々、「萬法精理」なる名著をなしき。其中に英國に關する偶感の一つを漏して曰く、

獨逸は旅行に適し、伊太利は滯在に適し、佛蘭西は棲住に適し、英國は思想するに適す。

と。然らば何をか思想するやと云ふに、即ち英國の習慣、風俗、文物、制度を思想すること是也。余は大凡二ケ月を英國に費して歸朝し、顧みて歐米觀光の跡を思ふ毎に、倏ちモンテスキユーの此の名言を思ひ、更に大に英國の學ぶべきを想起して、轉た多量の感慨を禁じ得ざるものあり。乞ふ姑く余をして英國の特長に就いて語ることを許せ。

第一、英人は實際的也。何には扨て措き、先づ吾等の學ぶべきは、此點なり。日本人が曩に佛國に學び、近來頻りに獨逸を學びたるの結果、單に重き

を純理原則に置きて、實際に遠ざかること甚しく、これが爲に社會一般の事物動もすれば、其弊に堪へざらんとす。見よ威儀三千の法律にして、比較的功果の乏しきが如き、或は組織原則の效績、擧げて見るべきもの少きが如き、是豈純理々說に傾きたるの弊害にあらずして何ぞや。左なきだに日本人は理窟好きの國民なり。役に立つと、立たざるとを問はずして直ちにミル、スペンセルを擔ぎ出し、壇上舌を揮つて、理論を翻弄するもの、是即ち學者也との時代は、早く既に過去に屬せるが如きも、然も只是衣粧を變じたるのみにして、當年空思想の血液は、今尙國民の腦中に流れつゝあるが如し。これに反して英人が如何に實際的なるか。これが解決を與へて曰く。

机上の空論家のみ

抑も吾が制度は憲法と同じく、其發達極めて自然的也。故に又不規則たるを免れず。形式については、政治も、憲法も共に變則なり。故に今に至りて尙此等に關する普通の條文は、學者を惱まし、士民を煩はすの例少なからず。英人は規則や、形式に拘泥するとなく、調和を重んずるよりも、寧ろ實益を重んず。實に吾が英國に於ては、政府は半ば慣例よりなれるが故に、一方に有力なる提出あるも、他方に於て必ず、これが反對あるを免れず。これを以て調和は到底達し難き理想に過ぎず。

政府は半ば慣例

と。實に、人口六百萬を有する怪大的倫敦は、即ち正に此言を證明して餘りあり。倫敦は自然に發達したる大都市なるが故に、其街頭に立ちて、往來の不便を感ずるは、獨りポット出の田舍者のみにあらず。地方制度、都市發達の上に於て已に然り。況んや宗教、學術に於て、亦此の如き傾向あるは理の當然のみ。「獨逸に於ける都市及町村生活」の著者ドーソンは、英獨に於ける宗教に關する比較論を爲して曰く。

怪大的倫敦

獨逸に於ては、宗教は多く頭腦の問題にして、自己と宗教との關係は、甚だ稀薄也。反之英人は宗教を頭腦以上に說けり。英人の宗教は、頭腦の中に非ずして、心情の中にあり。英人の博愛と自由は、宗教より流がれ出づる結果にして、宗教は決してお祭騷ぎの問題に非ず。英人の宗教は、寧ろ日常生活の中に活躍せりと云ふを以て適當なり。

英人の宗教は心情の中にあり

又、獨人にして永く英國に住み、英國の事物に通曉せる某は曰く。

吾等獨逸人は、恭しくも宗教を棚の上に安置す。左り乍ら英人は宗教を棚の上より取下して

親しく之を日常の事物に應用す。

と、此の如く英人はヨシヤ天使の激賞する程の學理學說ありとするも、苟も實際役に立たざるものは、之を尊重するを欲せざる也。故に英人は徹頭徹尾口舌の人にあらずして、實利實益の人なり。其學ぶ所にして、悉く實益以外に功力なき時は、敢て寸毫も之を心に止めざるが如し。總括して敎養ある支那人と云ふ。蓋し其眞髓を得るに庶幾か。佛人ラビッヂエトは同國大學の巨擘

なり、彼れ嘗て論じて曰く。

曩に英國の一青年あり、余に言って曰く、余を以て學者と信ずるなかれ。吾英國の學校に於て、學ぶ所は社會に於て、如何に身を處するかと云ふことの外、餘りに多くを勉強せざる也。

と、彼の「アングロサクソン、スペリオリチー」を著して大喝采を博したるズモランは、此言に附記して曰く

此謙遜なる言葉の中に、如何に嘆賞すべき英國的自負心あるかを見よ。余は此青年が佛人的學問を羨みて、かゝる言葉を發せるとは信ずる能はず。若し兩者の位置を交換せんと言はゞ、此青年は必ず是を拒絕せしならん。

倫敦に於ける二ケ月間の余が小滯在は、何物よりも優りて、直に余に英國を紹介せり。彼等が學理を探求し、眞理を研究するは、別に六ケ敷議論あるに非ず。要は厚生利用の根本に據り、自他の福利を增進せんが爲めのみ。徒らに筆舌を弄して、空論橫議するは、小說的ならざる彼等の爲すを欲せざる、又爲し得ざる處なり。是余が獨逸を學ばずして、英國に學ばざるべからずと云ふ所以なり。

第二、常識。 次に學ぶ可きは英人の常識に富みたること也。英人は一つの會社を立て、若くは協會を起すに當りても、先づ初めに長き規則を作り、此の規則を論ずるに、數回の會議を催し、議論沸騰、口角泡を飛ばすが如きとなし。彼等は最も行はれ易き數條を定めて、直ちに之が着手に從事す、是れ英人特長の一なり。余はしば〳〵英人と談話せり、殊に余が專門の事に關しては、彼等と議論を上下せしことも亦少なからざりき。然るに今以て忘れ難き事は、彼等が談論中屢〳〵繰返して健全なる常識と言へることなり。故に英人は、如何なる理論を研究するも、健全なる常識に外づるゝこと稀也。是を以て其

事業着々として成就し、其企圖妄りに多く失敗を招かざる所以なり。吾日本人が特に此點に於て英人に師事するは、最も安全の道たるを疑ふべからず。

海綿的性質

第三、蘊蓄力に富めること也。英人は總して海綿的性質を有す。換言すれば、吸收力に富めり。此特性は、其衣服に顯はれ、建築に顯はれ、其他社會百般の事物に顯はれざるはなし。春暄靴を踏んで鄉關に入る所、茅屋四五十、中に衙門嚴めしき一家あり。其構造必らずしも華麗ならず、又壯大ならず。而かも鄉人に就て聞く、曰く是一鄉の名門、幾代の大家、財や測る可からずと。此くの如きの光景は吾人が日本の村落に於て實見する所のものにして、又移して以て英國一般の民情を髣髴するに足る。英人は門戶を張らず、然も一たび其門戶を潛りて、屋裡の情態を見るに及んで、此小門內、此の如き家具裝飾物の蓄在せるかと驚き、且つ怪まんばかりなるは是英人の特長也。故に外部より見たる英人と、內部より見たる英人とは、雲泥の相違あり。此の點より云へば、佛國民及び吾が日本人民の如きは、俗に謂ふハデな人民にして、英國人は即ちジミな人民と謂ふ可し。故に彼等は、十分の人物にあらず

盖し英國は世界の名門

八分の人物

して八分の人物なり。其百事皆なヒカへ目にして、無きものを、有るが如く世に誇張するは、彼等の最も厭ふ所なり。世人或は思はん。世界萬邦の信用を負うて、天下の金鍵を握る英蘭銀行は、必らずや輪奐空に聳えて、壯麗人を驚かさんと、而かも是れ思はざるもの而已。一見矮小にして石面已に燻盡し、外觀見るべきものなしと雖も。只だ能く宇內の信用を繼ぎ得ば、英蘭銀行たるに於て何の不足か是あらん。茲に於て余は思ふ、英國の大、列強尙ほ未だ容易に及ばずと。今や米獨相競うて工業に商業に、英國を壓し、取つて以て換はらんず意氣を示すと雖も、英國の實質は、依然として尙天下の覇王たるに背かず。彼の南阿の戰爭に於て、二年と八ヶ月に、無慮二十五億萬圓の巨額を費やすも、倫敦の金融界に些の影響を及ぼさゞりしが如きは、偶々以て英國民の强大なる蘊蓄力を示すものにして、環視の列國をして顏色なからしめたるも、亦宜なりと謂ふべし。

依然天下の覇主

ジョン、ブル

第四、執着力に强き事なり。英人を渾名して「ジョン、ブル」と言ふ「ジョン、ブル」とは番犬の名なり。彼一たび人を噛むや、首を斬らるゝも終に離さず。

英人を目して「ジョン、ブル」と言ふも、亦之れが爲めなり。吾人は茲に於て、英人が天下を我物顔に横行するに至りたる所以の、敢て偶然に非ざるを知るなり。今や吾人は吾人が運命を決すべき露西亞と戰へり。勝敗の數や、算じ得たるが如きも、全戰勝利の名を謳はんは、必らず尚遠きを期せざる可からず。此時に於て區々たる小成敗に妄動して、自家の秉る可き道を忘るゝは、決して大國民の襟度にあらず。自信に立ち、自覺に立ち、從容として萬難の去來に應ず。今日の事、要するに執着力の強弱如何にあり。何ぞ國債と言ひ、外債と言はんや。

執着力と最後の勝利

第五、持久的精神の旺なること也。 彼等の作品は、高價なれ共、其代り堅固なり。余の今回持ち歸りたる土産の中、獨逸のものは已に壞れて、英國のもの、獨り安全なりき。只だ僅々此一小事を以て見るも、英國人の心懸や、洵に欽すべきにあらずや。其華美を欲せずして、黑のゴッ〳〵したる衣裝を纏ふ所、其不格好なれ共、大なる石を築き上げて家屋を建つる所、皆な持久的精神の表現にあらざるなし。かの水道や、道路や、學校や、病院や、是れ總て一夜造りのものにあらずして、百年を目睹し、子孫累世の大計を立つ、世の英國に學ぶものをして一種蒼古の念を惹起さしむるは、一に其歷史的古國なるに由る可しと雖も、亦實に如上事蹟の景象あるに由らずんば非ず。英國は、俄か身代の成り上りものにあらずして、豪族なり、大名なり。新進の猛氣を負うて、天下を取らんとするものは米國なり。之れに反して傲然群小を睥睨するものは英國なり。此の二大國民こそ、廿世紀の大立物と謂ひつべけれ。知らず我國民は、此二大國より何にをか學ばんとはする。

持久的精神の表現

豪族なり大名なり

三、地主と小作人

極端より極端●社會問題中の大問題●一種の社會現象●農工商は社會上の三位一體●山麓、山腹、山嶺●農は立國の本●太宰春臺と白川樂翁●黄金珠玉飢不可食●古今を通ずるの確論●我國亦此の病あり●地主と小作人との協同●地主は夫、小作人は其妻而して土地は子と知るべし●地主の愛●農民の勞苦●樂翁公稼穡の篇●感謝の情通くを禁ぜざらしむ●

極端より極端

社會問題中の大問題

文明の進歩するに隨ひ、社會問題の愈々喧傳せられんとするは、物質的文明の極端に發達せるを證明するものなり。若し現下の趨勢をしてこの儘に打ち棄て往かしめんか、愚者は益々愚に、貧者は益々貧なるの境涯に陷るべし。社會問題、社會改良の聲が、愈々強く且つ高からんとするは、もと自然の數にして、天の配劑亦其宜しきを得たるものと謂ふべし。今夫れ社會問題の中最も大問題とも稱すべきは資本家と勞働者と、地主と小作人との關係即ち是なり。前者は主として都市と金錢とに關係せるものにして、後者は農村と其土地とに關係せる者たり。今吾人の茲に論せんとするは、前者にあらずして却て後者に在り。

一種の社會現象

近時農村の愈々寂寞となり、小作人の數益々減少せんとするの傾向あるは、掩はんとして蔽ふ可らざるの事實なり。之を以て本年九月、奈良縣農會に於ては特に「地主會」なるものを催ほし、農産の增殖、農村の改良等につきて、縣下有數の地主三十有餘名を集め、親しく協議を凝らしたり。頃日靜岡縣の濱名郡に於ても亦、地主七十有餘名を會同せしめ、如何にすれば能く農村を興し、小作人の位置を高め得可きかにつきて研究する所ありたりといふ。是れ其の一二の例證に過ぎざれども、我全國を通じ、斯る問題につきての會同を引例し來らば、其數決して尠からざる可きを信ず。是れ時勢に伴へる一種の社會現象にして、此の問題の圓滿に解決せられざる以上は、其弊の波及する處、啻に農業界のみに止らず、延いては禍を商工業に及ぼすに至らんことを憂ふ。今試みに吾人の棲める此社會が如何なる要素によりて組織せらるゝやといふに、其重なるものを擧ぐれば、農なり、工なり、商なりと謂はざる

農工商は社會上の三位一體

山麓、山腹、山巓

農は立國の本

太宰春臺と白川樂翁

べからず。農工商は我社會を組織するの三位一體なり。この三位一體が均一に平等に圓滑に、相頼り相助けて、共に發展するにあらずんば、社會は到底圓滿幸福の狀態を保ち得べくもあらず。鄙見を以てすれば、社會は山の如きものか。山は山麓と中腹と山巓との三要部によりて形成せらる。如何に中腹と山巓と而已其美觀を呈することあるも、若し山麓にして確乎動かざる所なくんば、其永遠に存立し得ざるや固より言を俟たず。社會も亦此の如し。農は即ち山麓にして、工は其中腹に當り、商は其山巓に擬すべし。若し農業部落にして、堅固なることを得ずんば、社會てふ大山は長へに聳え得ざる可し。この意味に於て、農は立國の本なりといふも、誰か異議を唱ふるものあらんや。太宰春臺は其著「經濟錄」に叙して、

四民は國の寶にして、其一を缺くも國を成し難し。然れども農は本にして、工商は末なり。農民少なければ、衣食乏し。故に先王の治には、殊に農を重んず。

と云ひ、白川樂翁も亦其名著「國本論」に於て人君を警むるの語に、

黃金珠玉飢不可食

古今を通ずるの確論

今人君の貴ぶ所は、金銀珠玉にして、賤む所は米粟也。貴ぶ所は豪富の商賈にして、賤む所は貧困の農民なり。今君これを賤しめば國民競ひて之をいやしむ。こゝに於て農民は化して商賈となる。有司これを禁ずれども、元より人君の使令する所なれば止事なし。古語にも黃金珠玉飢不レ可レ食といへり。今其本をすてゝ、其末をこのむ、實に愚なりといひつべし。

といへり。本をすてゝ其末をこのむ、愚之れより大なるはなし。樂翁公の本とは、農のことを云へるものにして、封建の治下に於ける農と、立憲政體の下に於ける農とは、其所謂農本の意義に於て、固より異なる所なきにあらずと雖も。農業が立國の基礎を鞏固ならしむる所以の意義に至ては、古今を通じての確論と謂はざるべからず。其證據には、商業を以て立國の主義とせる英國に在りてすら、近來農村の衰頽して國礎の固からざるを憂ひ、如何にすれば能く大英國を鞏固ならしむべきかとの議が、今方さに英國に於ける大問題の一たるに由つて見るも明かなり。

飜て我邦現下の農村を通觀するに、商工業の發達に臨ひ、農村の衰兆を呈

しつゝあるは、最も憂ふべき現象の一にして。今や憂國の志士が此點に關して考案熟慮、畫策經營を怠らざるは蓋し其所なり。聞くが如くば、奈良縣宇陀郡の一村、神奈川縣某地に於ける一二ケ村の如きは、其近接せる地に在て、近來工業の著しく發展せるが爲め、農民陸續として他に移轉し、全村今や殆んど荒廢に歸せんとすといふ。若し夫れ我全國一萬二千有餘の町村を仔細に點檢し來らば、其度に於てこそ異なれ、同一の運命に遭遇せるものも亦少からざる可し。何が故に農村爾かく衰頽して荒廢の兆を呈するに至るかと云ふに、商工業の發展は即ち其一たるに相違なきも、他に又有力なる一原因なきにあらず。即ち地主と小作人との關係親善ならざること是れなり。然るに今農村を改良して國礎を鞏め、產物を興して以て民の衣食住を豐かならしめんとするには、土地を肥沃ならしむるに如くものなし。土地を肥沃ならしめんには、勢ひ先づ地主と小作人との間柄を圓熟親善ならしめざる可らず。凡そ富を造出するに三ツの要素あり。曰く資本、曰く勤勞、曰く土地即ち是也。方今其要素の一たる土地が、漸を以て荒廢に歸せんとするは、主として地主

と小作人との間柄圓滑ならざるに依る。土地に對する地主と小作人とは、恰も夫婦の關係の如きものあり。即ち地主は夫にして、小作人は其婦なり。子女の成育せざる原因多々あるべしと雖も、夫婦の相親まざるは其重因の一たるを失はず。若し夫婦相和せず、協同的作用亦行はれざらんか、子女は次第に惡化して不良の行爲をなすに至るべし。等しく地主と小作人との間に在るものは土地にして、土地は地主と小作人との間に於ける子女の如きもの也。故に田圃の荒廢は全く地主と小作人との關係が冷淡不親睦なるより來るものと知るべし。其證據には地主と小作人との間柄よく圓熟親善なる所には土地必ず肥沃して、菽麥穰々たるの實績を現出せり。是れ吾人の夙に目擊する所なり。

如上述ぶる如くなるを以て、農村を繁榮ならしむるの方策固より多々あるべしと雖も。其第一要義とも稱すべきものは、地主が小作人を愛撫せんことの即ち是也。今日の農民殊に小作人程憐むべき者はなかるべし。彼等は寒暑を通して營々勞役し、粒々辛苦の糧に食まざるべからず。彼等は敢て辛苦を辭

するものにあらずと雖も、現下農民の狀態を察するに、生計は困難にして容易く衣食するを得ざるものあり。嘗て農村を視察し、戸々につきて其生活の狀態を調査したるに、小作人にして優に生活をなし得るものは極めて少く、彼等は辛うじて辛苦に衣食し得るのみ。若し一朝不意の出來事に遭逢せんか、彼等は忽ち負債を生じて債鬼に呵責せらるゝの運命に陷らざるを得ず。樂翁公曾て農民稼穡の勞を叙したる一節に左の如く云へり。

夫れ稼穡の疾苦實に憐むべし。凡そ天下の事、見るは聞くよりも切に、其身これにあたるは見るより又切なり。予幼より深窓に養はれて、稼穡の苦しみを知らず。之を聞くも亦うとし、いかで其情其勤を知るべき。然れども遠く察し近く怨して、其大概を知る。夫れ農は四體の勤をわすれて、三時の務めに赴く、其勞甚し。春寒未だやまず、曉霜いまだ融けざるに、飢をしのび、寒を忍び、耒耜を手にして田野に出で、或は荆棘をきり、蓬蒿を刈る。凍寒に堪ざれば草火をたきて自らあたゝむ。或は春氷をくだき、墾耕して根料をつくす。墾耕再にしてやまず、三にして休せず、水を引、

糞をほどこし、遂に牛馬を以て之を耕す。こゝに於て時をはかり、宜を知りて、沒種し、終に其種を布く。其生じて稍長ずるに及べば、男は出て泥土を平らかにし、婦女は田に入て苗を植う。泥土體にまみれ、傴僂ついばむが如し。爰に於て晨興して其稂莠をさる、懊氣金を鑠し、田水わくが如きに、衣を脫して田に入り、背をさらしてゆびのびず、傴僂して腰折れんとす。今日の耘する所既につくれば、昨日の耘する所また莠を生ず。休まんとすれども休む事能はず。晨より夕に至るまで、之を以て常とす。熱爍濕蒸に苦みては、田水を掬して呑み、身體疲倦すれば、田器を枕にして、畔上に眠り。老父幼女を伴ひて餉を送る。こゝに於て皆畦上に登り、泥土を拂はずして、手にて是を食ふ。耘耔の苦しみ既に終れば、浮根浮葉を去り、又は田水を損益し、鳥獸を逐去す。寒風冷露の肌を侵す頃、草を集めて田中に守舍を造る。方數尺にして漸く膝を容るべし。寒夜眠らず、風霜骨を砭す。爐火の設けもなく、楮絮の溫もなし。幸にして堅好與翼にいたれば、水を落して刈穫す、婦女みな出て舂撿簸踩す。

感謝の情湧くを禁じさらしむ

是れ稼穡の大概なり……夫れ農の苦みを是の如くにして常に賤しめられ、常に虐げらる、實に農の不幸は擧て云ふべからず。

と、吾人は封建制度の治下に於て、絶倫の大政治家と呼ばれたりし樂翁公の如き人によりて、多大の同情を農民に寄せられ、其勞苦の狀を「國本論」の一頁に叙せられしを讀み、身自ら農業に從はざるも、坐ろに感謝の情湧き來つて自から禁ずる能はざるものあり。如何となれば、吾人は居常農村を巡回して、彼等農夫の實景を目擊するものなればなり。左れば吾人は地主が其小作人を愛撫し、土地を肥沃にして、穫々たる產物を造出し、以て同胞の生活を潤澤ならしめんことを冀望すること切なり。且つや既に地主と小作人との關係が、農村繁榮の一大原動力なることを知る。之を以て吾人は、小作人の改良と農村の發達とが、我邦刻下の急務にして、且つ最も趣味ある一大問題なること、毫も英國に異ならざる者あることを茲に一言せざるを得ず。

四、救貧論

偉大なる政治家と貧民救助●英國地方行政の主なる範圍●牧民官の好題目●自己の家庭なりとの觀念●居は氣を移す●無職業は苦痛也●健全なる職業は人生に活動を與ふ●日比谷の大題擡●貧民の道德●貧兒の教養●救貧問題の燒點●貧兒教養は積極的事業●古人今人感共に同じ●之を遠洋漁業家に聽く●富豪と救貧問題●日本の富豪家●貝原益軒の金訓●貧民を惠澤せん爲めの富●警語至言●共に其分を盡すべし●

人の世に處す、苦惱を感ずること、固より尠なからず。然れど着るに衣なく、喰ふに食なく、住むに家なき程苦しきことはなかるべし。之を以て政治家は單へに如何にすればより勝れたる生活を與ふべきかを講究し、宗教家は如何にすれば能く社會多數の貧人を慰藉すべきかに苦心するなり。蓋し世に民人多しと雖、其の最大多數を占有するものは貧人なればなり。昔より政治に多大の効績を現はしたるものは、社會多數の貧人を救濟進歩せしめたるものなり。リンコルン然り、グラッドストン然り、我が白河樂翁亦然らざるな

英國地方行政の主なる範圍

し。思ふに國家の最大多數を占有する貧人を善導し以て彼等を安樂の郷土に到らしめたる政治家は、能く其任務を全うしたるものと謂はざる可からず。予曾て、英人ブレーキ、エドガー著『地方行政』"Local Government." なる一書を閲みし、今に至りて尚其一節を記せるを覺ゆ。曰く

英國地方行政の關係せる範圍は教育ある上流社會と云はんよりは、寧ろ勞役社會の人々にありと謂はざる可からず。蓋し社會多數の勞役者は教育普ねからざるが爲に、行政上之を上流人士と比し其の之を統治するに於て困難を感ずること頗る多し。かるが故に地方行政が職工及勞働者に對する關係は實に密實なるものあり。而して其關係せる所以のものは曰く初等教育、曰く貧民救助、曰く公衆衛生等則ち是なり。

牧民官の好題目

と、余惟へらく我國に於ても地方行政の多くは是れ下層の勞役者に關係する所多く、若し中流以下の人々をして其所を得せしめなば地方行政の任や十の八九を遂げたりと謂ふも誣言にあらず。牧民の任にあるもの豈に勞役社會を忘却して可ならんや。この意義に於て吾人は救貧事業の邦家の興廢存亡に關鍵するところの重且つ大なるを信ずるものなり。救貧問題其れ豈宗敎家や慈善家等の閑問題ならんや。故に吾人は政治の意味に於て一杯の牛乳、一椀の飯をも、より多く庶民に與へんことを苦衷せる牧民官及政治家の輩出せんことを祈りて止まざるものなり。然らば則ち如何にすれば能くかゝる黎民を救濟して、安固なる生活狀態に置き得るか。其方策固より一にして足らざるべし乞ふ吾人をして少しく其方策の二三に就きて語らしめよ。

自己の家庭たりとの觀念

第一、貧民の住宅……輓近救貧問題中貧民の住宅を如何にすれば可なる可きかの問題ほど緊切なるはなし。是歐米各國に於て住宅問題"Housing proolem."の熱心に唱導せらるゝ所以なり。人に獨立の思想權利義務の觀念を扶殖するものは、精神の修養與つて力あるべきは言を俟たずと雖も之を外にしては其の棲住する所は自己の家庭なりとの確固たる觀念衷に存するに非ずんば、焉ぞ能く高潔崇高なる思念を懷抱して人類に相應はしき行動を爲し得んや。萬邦人多しと雖も、英人程獨立の思想、職分の觀念、强大なるものはなかるべし。吾人は多くの原因が、彼等をして茲に至らしめたる理由なるべきを信ず。

左れど其原因の一にして、且つ最も重大なる原因の一たるべきは英人個々に『我が家庭』（My own home.）の觀念旺盛なるが爲めたらずんば非ず。自己及其家族の定住せる屋舍もなく漂々浪々として喪家の狗の如く流浪するものにして誰か又能く道義の念裡に燃え、外之を職務に發現し得る者あらんや。故に貧民を改善して健全なる邦家の一要素たらしめんと欲せば、彼等に住む可きの家屋を與へざる可らず。否家屋を所有するに至る方策を授けざる可らず。英米獨に於ける勞働者の爲の建築會社、住宅協會の設立は貧民をして比較的廉價に比較的便利に家屋を所有せしめんと欲するにあり。語に曰く「居は氣を移す」と、今に至りて古人の我を欺かざるを知るなり。

居は氣を移す

第二、貧民の職業……職業は人類が生活を全うする上に於て一日も缺くべからざるものなり。精神を爽快に、身體を健全に、生活を安固に保維する上に於て、適當の職業は、一日もなかるべからざるもの也。其の無かるべからざるは、人類の生活に空氣や水の一日もなかるべからざるが如し。貧民に職業のなきは啻に生活に動搖を來す可き恐あるのみならず、精神を動亂せしめ

無職業は苦痛也

以て意馬心猿の狂態に陷らしむるものなり。俚諺の所謂「貧の盜み」なるものは其原因貧なるにあるを言へるものなりと雖、焉んぞ知らん、其貧なるは生活し得るに足る可き健全なる職業なきが爲なるを。於是乎救貧制度に於ける職業の設備、勞働の紹介は最も樞要なる位置を占有するものと謂はざる可らず。其故に近世的意味に於ける救貧事業なるものは、如何にすれば能く貧人に職業を與へ、勞役を設備し得べき乎にあり。徒らに金錢と物品とを與へて救貧の能事了れりとなすが如きは、畢竟救貧事業の近世的意義を了解せざるもの也。人の善惡を知らんとせば其友を見るに如かざるが如く、又之と同時に其職業の有無及從事せる職業其物を見ば、概ね其人の良否如何を推測し得るに難からざるべし。人世は多忙にして人や一日も空手にして過す可らず。健全なる職業は人生に活動を與へ、人心を道義に聯結せしむるものにて、人類の幸福は懋りて此一事にありと謂ふも敢て過言にあらず。貧民部落に盜竊の多數なるは、啻に貧窮なるが爲のみと云ふに非ず、其貧窮なりと謂ふは要するに職業なきが爲めのみ。昨冬數萬人の貧人が大英國の首府倫敦に向て一

健全なる職業は人生に活動を與ふ

日比谷の大騒擾

大恐慌を與へたるは、一に彼等が失業せるが故なり。近くは我が東京日比谷公園の大騒擾の如き、或る一面に於ては國民的義憤の奔逸にありと謂ふと雖も。吾人の社會眼に映ずる者は、擾亂者の大多數が生活に不如意にして、日々失業したる結果而已。人は「パン」を求めて止まざると、尚赤子の乳房を求むるが如し。求めて得ざれば悲鳴を擧ぐるか、擾亂を釀すか、二者其の一を撰ばざる可らざる也。於是乎救貧事業に於て最も緊切なる者は、職業の設備、勞働の紹介にありと謂はざるべからず。或意味に於て貧人に「パン」を與ふるは「德」を與ふると同一なり。管仲の『衣服足知二榮辱一、倉廩實知二禮節一』とは、經濟と道德との交叉點を言明せるものにて。德を以て業を與すことも、業を以て德を與す經濟問題も、亦實に緊要なるものたるを忘るべからず。否寧ろ貧民の道德は此點より起さゞる可らざる也。

貧民の道德

貧兒の教養

第三、貧兒の教養……救貧問題の關聯する所、其範圍極めて廣汎、或は經濟に或は道德に或は宗教に或は教育に一を採つて以て解決すること能はずと雖も、貧兒の教養は實に救貧問題の焼點と謂はざるべからず。貧乏人の子實或は彼等が貧困なるは其一因子女の多數なるによるなきを得んや。

救貧問題の焼點

救貧事業は之を他の事業と比較するに、消極的の觀なき能はずと雖、貧兒の教養問題は消極的範圍を超脱して、積極的範圍に侵入するもの也。我恤救規則に依る七十歳以上の老耄者を救濟するは、單に之を扶養するのみにして、そが恤救中生産的意義を存せず。然るに貧兒の教養は消費の意義を脱却して生産の意義を含有するもの也。而して貧兒の教養は救貧と云はんよりは、寧ろ防貧と云ふを以て優れりとなす。蓋し幼弱なる貧兒を適當に教養せば、恐らく將來には必ず良民を起し得可く、國家は之によりて少くとも健全の度を増すべし。貧兒教養のことたる啻に消極的事業たらざるのみならず、大に前途望を屬すべき積極的事業たり。古來英雄と學者と事業家とは、多くは是れ貧人の家庭より生れ出でたるもの。二宮尊德、新井白石、アブラハム、リンコルン、ヘンリー、スタンレー等皆此の模型に屬せざるはなし。貧兒教養の理想

貧兒教養は積極的事業

一つに偉人豪傑を造るに存せざると、事業其物の副産物として、豈又時に偉人豪傑を得ることなきを保せずとせんや。其は兎も角も、貧児の救養は、救貧問題の焼點と謂はざる可らず。之れ大に事業其物に希望の存在する所以なり。左れば該問題を以て孤児の救養、不良少年の感化、白痴者の訓練等に比し固より、同日の論にあらざるや推して知る可き也。

古人今人感共に同じ

遠洋漁業家に聞く

一千八百十二年ドクトル、チヤルモルがスコットランド國グラスゴー市センドジョンの救區に於て救貧問題に逢着するや、忽然彼の胸奥を打ちたるものは、如何にすれば能く多數なる貧児を救養し得るかにありき。瑞西の博愛家ペスタロッチが絶世の精力を傾注して膺りたるも、亦是れ貧児救養の問題にてありき。語に曰はずや『敵を射んと欲せば先づ馬を射よ』と。馬既に斃る、敵の運命知る可き而已。斯如貧民を救はんと欲せば、先づ囊に貧児を救養せざる可らず。吾人之を遠洋漁業家に聞く、漁者の鯨を捕へんとするや、先づ囊に子なる鯨を捕ふ。子なる鯨を捕へば、親鯨は子の近側を離るゝに忍びず、

遂に又捕獲せらるゝに至る。貧民は容易に改善せらるべきものにあらず。蓋し其習癖既に年を成せば也。然りと雖何れの世、如何なる國を問はず、子を慈まざる父母やあるべき。子女既に博愛家によりて救養せらるゝに於ては親たる貧民豈其れ改善の途に就かずして止まんや。是れ子女を通して積習甚だしき貧民を改善する所以なり。

第四、富豪と救貧問題……富と貧とは社會的階級の兩極端にして、其間の懸隔甚しく容易に接近すべからざるが如しと雖も、其實や然らず。男と女とは其性兩極端にして而かも互に相接近し易きが如く、富者も貧者を離れて富者たる能はず。貧者も富者を去りて幸福なる能はず。社會の幸福安寧は寧ろ貧富兩階級の接近和合にありと謂はざる可らず。吾人は即『貧富相和して財寶生ず』との眞理なるを唱道するものなり。然れども當代我國の富豪に向つては大に言ふ所なかる可らず。彼等の多くは徒らに富を山積して、之を有害無益に雲散霧消しつゝあるが如し。かるが故に彼等を圍繞せる貧人は、彼等に向つて怨嗟の聲を放ち、彼等も亦貧者に向つて一顧の勞だに酬いざるが如

きは、社會の安寧を保維するに於て、健全なる徴候と云ふべきものならんや。吾人は世の富豪なるものが、今少しく此點に留意して、社會公共の爲に盡瘁せんことを希望せざる能はず。

抑も富豪の財力を掌握する所以の者は、一己の私慾を恣にせんが爲にあらず。飽までも其蓄積したる富を利用して、國家民人を益せんが爲なり。然るを其私慾を飽充して、貧民を顧みざるが如きは、元來の趣旨に違背せるもの甚だ大なりと云ふべし。貝原益軒の語に

天地の我に財祿を多く與へて富貴にし給ふは、必ず我一人の爲に厚く惠み給ふには非ず。我力を以て貧しき者に財を施し惠まんが爲に我に多の財祿を與へ給ふ理なれば、人に施さゞるは天の御心に背く理なれば恐るべし。我財を惜むべからず。若し天心に背き財多くして、人に施さゞれば禍出で來るものなり。

と。絶代の富豪カーネギーも亦曰はずや

我に富を集積せしむるは、富を以て貧人を惠澤せしめんが爲の天の聖旨に

外ならず。故に我は貧人を保護せん爲の理事者たれば、其集積したる富を私慾の爲に使用す可らず。

と、彼は斯語を以て富に對する訓戒となすもの、如し。是れ最も吾人の意を得たる警語なりと謂はざる可らず。吾人は斯意義に於て富豪を尊敬し、且つ歡迎するもの也。而して世の貧人たるもの、其境遇如何に困難なるも、其位置如何に不利益なるも、運命を天に任せて勇往直進、正實と勤勉とを標榜し以て、富者の位置に昇進すべし。徒らに怨嗟の聲を放ちて袖手傍觀するは策の得たるものにあらず。

之を要するに經世家は社會制度を改善して、以て下層者の爲に立身の道を開き、富豪者は自己の富力を利用して、貧人の幸福を圖り、貧人は不遇を身外の事物に托して、空しく時日を過さず、鋭意奮勵自己の手腕を振つて前途の幸福を開拓すべし。斯くて社會は安寧に個人は幸福なる可き也。世人若し此等の點に注意して、貧窮を現實社會より驅逐するあらば、娑婆は變じて樂園となるべし。斯くなりてこそ我が地球は吾人々類の接住するに價するもの

となるなれ。

五、國民と勤勞

余が演說のコンデンス、ミルク●人は何ぜ働かねばならぬか●繁殖的國民は幸福也●日本の死活問題●勤勞に對する深き道念●英佛兩國民の比較●働き其物を愛す●是英人の成功する所以●開發とは何ぞ●彼の勤勞に對する根本的觀念●祀神祭天の眞意義●之を歐米と比較せよ●土百姓菜町人●堂々たる男子病人扱されて得々たり●米の不足にあらず勤勞の不足のみ●勤勉なる獨逸國民●町村勤情の標準●實際的たるを要す●實際的英人の自負●儉約は勤勞より來らざるべからず●カーライルの學校●歐米の歡迎は考へ者也●

諸君私は國民と勤勞主義と云ふ題にて御話申上げたいと思ひます。一升の牛乳を約めて之を「コンデンス、ミルク」にしまするとと、一合の鑵の內に這入つて仕舞ふ。私の四十分か一時間の講話を「コンデンス、ミルク」にすれば、今云ふ通り國民と勤勞主義になつて仕舞ふ。併しながら、之を延ばして見ると色々の物が其の內にあります。「クリーム」もあれば、水もあり、糖分

もある。それで其の糖分を食ひ、「クリーム」を食ひ、其の水分があるので矢張味があるのでありますから、私の話を約めて「コンデンス、ミルク」にして差上げまするとと、國民と勤勞主義になるのですが、しかし雷だ是れ丈けの御話で御免を蒙むると云ふ譯には參らぬのであらうと思ひます。（聽衆笑ふ）

人は何ぜ働かれねばぬか

で此勤勞主義と云ふのは一體ドウ云ふ事であるかと申しますと、人生の理想と云ふものが働かんければならぬと云ふ事である。さうすると或人は、雨の降るのに遠方から來てそんな事を云はずと、人間が此世の中に生きて居ると云はるゝ方があるかも知れませぬが、去かし尙ほ一歩を進めて、なぜ働かねばならぬかと云ふ事が今日私の茲に暫く論じて見たい問題であります。我が全國を通じて米が幾ら出來るかと云ふと、凡そ五千萬石出來る。麥は何んぼ出來るかと云ふと、凡そ三千五百萬石位出來ませう。此麥の三千五百萬石、米の五千萬石を何人して食つて居るかと云ふと、四千八百萬の人間が食て居る。四千八百萬の日本國民が五千萬石の米と三千萬石以上の麥を食つて不足しない乎と云ふと、勿論不足

するのであります。米ならばもう二千萬石、麥なれば千五百萬石、又は二千萬石も增作しなければ四千八百萬の同胞を養ふ丈けの物はない。で此同胞が生活して行くに缺く可らざる所の米が足らぬと云ふ時は、どうしても奮發しなくてはならぬのである。まだ明日も食ふ米がある、來年も食ふ米がある。來月も食ふ米がある。大に怠るものでない。大に怠るものでありますが、もう食ふ米がないと云ふ塲合に遭遇して居るならば、茲一番働くと云ふ事を考へて來なければなるまいと思ひます。で現在四千八百萬の同胞があつて尙は米は二千萬石麥が千五百萬石足らぬと云ふ事である上に、我同胞は殖えつゝあるか、減りつゝあるかと云ふと、勿論殖えつゝあるのであります。で殖えるが宜いか減るのが宜いかと云ふと是は一寸と考へ者であります。食ふ物が無いのに人間がどし〳〵殖えて來ると云ふ事は、どうも餘り宜い事ではない。是が貧乏人ならば子供を他所に遣るとか、或は捨子をする事になつても殖えつゝあるのが宜いかと云ふ氣になつて來る。然らざれば一生懸命に働かうと云ふ氣になつて來る。併ながら國の性質の上から云ひますれば、殖える

國民が宜いのであるか、減る國民が宜いのではないかと思ふ。で我國民は年々何んぼ位殖えて居るかと云ふと、凡そ五十萬人位殖えて居る。五十萬人宛年々殖えて行くとすれば、是が十年經つと、五百萬の人間が日本に餘計に出來て來る。さうすると歐羅巴各國で例を引いて見れば、一番初に我日本へ貿易に來た和蘭と云ふ國が、今日人口六百萬であります。それから最も工業の盛んな文明の國であると云ふ白耳義も、亦六百萬の人口を有する國である。又世界の最小國である瑞西と云ふ國は、人口三百萬であります。さうすれば十二年經つと、人口の上から此白耳義と云ふやうな國が日本に出來て來る。又廿四年經つと和蘭と、白耳義とを合せた程の人口が我日本に出來て來る。それ程の國であつて、我邦は現に四千八百萬の人口を有して居る。然るに米が二千萬石、麥が千五百萬石足らぬと云ふ事であれば、國民は茲に一つ大に考ふべき問題があると思はねばならぬのであります。さうして今日此日露戰爭の後を享けて居る我國人、即ち天地開闢此の方、世界の歷史の上に絶えて其例の無い程の大戰爭を遂げた我

繁殖的國民は幸福也

日本の死活問題

國人は、正に大に考へねばならぬ時機に際會して居る。換言せば、日露戰爭は日本の死活問題である。軍資の爲には二十有餘億の負債をして居る。而して人民は益殖えて來る。千歲一遇の此塲合に遭遇して、我等は大に考ふべき所の問題が澤山にある。其考ふべき問題の中でも、分けて國民が勤勞すると云ふ事を國是としてやるのが、最も必要であると思ひます。私の話の要領は勤勞哲學とでも名を付けますか。先づ何んの爲に人間が働かなければならぬかと云ふ事より、精しく御話して見たいと思ふのであります。

何にが爲めに人間は働かなくてはならぬ乎。食へぬから働くと云はゞ、餘程卑しくなつて來る。又食ふ事の爲にのみ働いて居るのでは、諸君、人間を以て萬物の靈長であると誇言することは出來まいと思ふ。何せならば食ふ事に付ては、犬猫でも心配せずには居らぬ。夫であるから食ふ事のみが人間の働く目的であるとするならば、人間程卑しいものはなからうと思ふ。左すれば此の國民と勤勞主義と云ふ事に付ては一つ茲に考へる價値があると信じます。食へぬから働くとか、着る事が出來ぬから働くとか申す事も、決して惡

勤勞に對する深き道念

い事ではありませぬが、萬物の靈長たる人間が、働くと云ふ事に付ては、もつと深い所の道理がなくてはならない。若し食ふ事、飲む事、着る事が、人間の働くと云ふ事の目的であるならば、衣食住足つたならば、それで働きはせなくとも良い事になる。夫れでは甚だ不都合なる結果を來たす事になります。數年前佛人でブーミーと云ふ人が『英國人の政治的心理』と云ふ書物を書きましたが、是は餘程有名な書物であります。同じ佛人ズモランが「アングロサクソン、スーペリオリチー」と『云ふ書物を書きまして、數多の讀者を稗益致しました。其處で慶應義塾は之を『大國民』と云ふ書名で飜譯して居りますが、其ズモランの『アングロサクソン、スーペリオリチー』と並稱されてをる此ブーミーの『英國人の政治的心理』と云ふ書物は、實に有益で面白い書物であります。其書物の中に斯う云ふ事が書いてある。それは佛國人と英國人の比較です。人が働くと云ふ事に付ては佛國人又は歐羅巴大陸の人は二つの目的を持つて居る。（一）つは働いて金を儲けると云ふ事である。百姓ならば生産物を收穫する事の爲に人間が働く。それから、（二）つには名譽

英佛兩國民の比較

働き其物を愛す

を求むる爲に働くと云ふ事である。是れが佛國人又は其他の諸國民が働く所の重なる動機であります。英人になると働くと云ふ事につきて、も一つ大切な動機があります。働いて金を儲けるとか、働いて名譽を得るとか云ふ上に、英國人は外の國の人々に乏しい所の觀念を持つて居ります。それは何であるかと云ふと、働き其ものを愛すると云ふ性情であります。是が英人の事業に手を出して成功する所以である。だから働いて名譽を得る事も、決して惡い事ではありませぬ。又働いて金を得たり、或は生産物を收穫する事も斷じて惡い事ではない。併しながらもー一つ働くと云ふ事が、如何に樂しく喜ばしいことであるかと云ふ、働其物を好愛する觀念が必要であります。是に於てかカーライルの所謂勞働其物が神聖であると云ふ意味になるのである。此麗しい觀念を英人が持つて居る事に依て、英國の殖民地が他國の殖民地に勝りて成功し、英國の諸工業が他國の諸工業に卓越して發展するのであると云ふ事をブーミーが其著書中に云つて居りますが、是は餘程面白い觀察であると思ひます。所が人間が働をするのは物を得る事、名譽を求むる事、及び働

是れ英國人の成功する所以

を愛する事等の爲めのみならず、人間の働かなければならぬと云ふ事にはも一一つの深い道理があると思ひます。此道理を研究するに當り、敢て遠い外國の例を求むるに及びません。現に我邦に今から五十一年前、即ち安政三年に亡くなりました二宮尊徳と云ふ先生に就いて、能く此道理を學ぶことが出來る。是は皆さんは御承知のことであらうと思ひます。此人は働くと云ふ事に付てどう云ふ觀念を持つて居つたかと云ふに、凡そ私が讀んだり聞いたりした書物の中で、二宮尊徳と云ふ人程、此働くと云ふ事に付て貴い考へを持つて居た人は、我國に於て未だ多く其例を見ないのであります。二宮先生は勤勞と云ふ事を二つに分けて居る。即ち物質的勤勞と精神的勤勞とであります。抑々精神的勤勞と云ふ事は如何なる事であるかと云ふと、先生は凡そ人間の事業の中で一番むづかしいのは己の慾に克つと云ふ事であると斯う考へた。己の慾に克つ——克己をする事が、即ち人間の働きの中で、一番むづかしいことである。換言せば總ての事業の中で、一番むづかしいことである。故に「我敎は己に克つを以て第一とす」と云ふやうな事を二宮先生が申して居ります。

是から勤勞と云ふ事が始るので、之を精しく云へば己の心の中にある所の罪惡に打勝つと云ふ事が、此二宮先生の勤勞に對する精神的の方面である。而して其物質的方面は何んであるかと云ふと、開發と云ふ事である。二宮先生は天明七年七月廿三日に、小田原から一里半程山手に這入つた栢山村と云ふ所で生れられた人である。天明七年と云へば丁度徳川の治世中で、最も大政治家と云はれた松平定信、即ち樂翁公が、天下の政權を掌握して居られた時であります。其當時に先生は生れて、それから死ぬるまで、七十年間の生涯何が先生の主義であつたかと云ふと、開發々々と云ふ事であつて、常に此開發と申す事を口にせられたと云ふ事であります。開發と云ふ事は、今の開墾と云ふ事と同意味でありまして、田地を開き、山を開き、野原を開くと云ふ事が、先生の主義であります。其開くのは何を以て開くのかと云ふと、只人間が勤勉努力すると是れのみであります。即ち人間が力行すると云ふ事がないならば、開發と云ふ事は出來ないのであります。其處で二宮先生の生れ出られてから、死する迄の總ての歷史を、細かに研究して見ますと、先生は

實に此勤勞主義の人であつた事が知れます。而して二宮先生の勤勞哲學とでも云ふべきものは、どう云ふ事であつたかと云ふと、名譽を求むる爲に働くと云ふ事でなかつた。金を儲ける爲に働くく愛すると云ふ事も、先生の働きに關する重要な主義ではなかつたのである。先生に於ては何が勤勞の動機であつたかと云ふと、先生の勤勞的動機は人間以外の存在物、何んと云ひますか、神佛とでも云ひますか、先生の言葉を藉りて云ふと天照大御神でありましたが、更に他語せば此天地を造られたる神と共に働くと云ふのが、先生の勤勞の根本である。尙精しく云はゞ天照大御神の御事業を贊成すると云ふ事が、先生の働きの依て出る根本であります。先生は或時に斯う云ふ事を云はれた。眞正の禮拜と云ふものは『天意を奉戴し、天賦の德性を擴充し、以て天地の化育を贊成するにあり』と。味ふべき言である。そこで本當に神を祭ると云ふ事は御馳走をしたり、神樂を上げたり、御祈禱をしたりする事ではないと云ふのです。先生の神を祀ると云ふのは天の大御心を奉戴して、天が人間の心の中に道德と云ふものを植付けて居る。

其仁義禮智信の德性を發展して、而して神が好み玉ふ所の仕事を、眞面目に盡すと云ふ事であります。是が人間の勤勞せざる可らざる所以の大理由であると敎へられて居る。天地の化育を贊成し、天地人三才の德を助ける、言ひ換れば天照大御神と、共同的事業をすると云ふ事が、人間の勤勞の依て生ずる所である。そこですから先生は頻りに開發と云ふ事を云はれた譯であります。然らば其開發と云ふ事は、何んであるかと云ふと、天が立派に爰に土地を與へて下さつた。其土地に草木が生へて居る。又或土地は荒廢して居る。此儘に棄てゝ置くと、益々荒廢に歸するく。天が是までにして下されて居るに人間が之に少しの力をも加へぬならば、之は天に對する大なる罪であると信じ。之を立派な田地や、山林に仕爲すのが、人間の貴き務であると斯う二宮先生は信ぜられた。而して此開發を成し遂ると云ふ事に付ては、一生懸命に働かなければならぬと云ふ事を、我々に敎へられました。二宮先生は晉に之を口で敎へられたばかりでなく、身を以て敎へ、精神を以て敎へた人であります。洵に勤勞と申す事は、人世一日も缺く可らざるものであると云ふ事を、

先生の生涯を以て、我々に敎へられたのであります。其證據には先生は「子に臥し寅に起き」られたので、云はゞ夜はタッタ四時間しか休眠れなかつたのであります。斯の如き事實を通うしてぬかと云ふことを考へて見ると、唯食ふ爲に働く、名譽を得る爲に働くと申すよりも、勤勞に關しては、今一層深い所の意味があると云ふ事を、先生の敎に依て我々は知る事が出來るのであります。人に親切を盡すと云ふても、あの人に是丈の親切を盡せば、後で是丈の酬が來ると云ふ事を考へて、親切を盡すのでは、甚だ面白くないと思ひます。本當の勤勞と云ふものは、酬いを求むる心よりするのではない。酬は求ないが、眞正の勤勞には、必ず酬が附隨して來るのであります。さう云ふ風に考へて見まするとと、人間が此の如き意味の勤勞をせねばならぬと云ふ事は、深い所の意味があるのであります。

そこで我邦に四千八百萬の人間が居つて、此麗はしい土地や山川を持つて居ると云つても、米が二千萬石足らぬ樣では始末がつかない。麥が千五百萬石足らないので、實に其所にも饑渴に迫る者があり、此處にも困窮する者があ

ると云ふ事は明かな事實であるが、而かし之は甚だ悲しむべき事實である。又聲へて言ふならば、私共の仲間に一人職業を失ふた者ありとせんに、我邦では劫々く他の職業を見付ける事は、容易に出來ません。なせ仕事の口が少ないかと云ふと、人間が多いから、どうも一人職業を失ふと容易に他に職業を見出す事は出來ないのであります。そこで米が二千萬石、麥が千五百萬石足らないで、人間は年々く五十萬人宛殖えて行く。然らば其代りに我國民は一體勤勉な國民であるかと云ふに、自分の考ふる所によると、餘り勤勉なる國民ではないやうである。之を歐米各國に比較して見て、日本人は非常に勤勉なる國民であると保證を立つることは、頗る大膽な仕業と謂はねばならぬ。私は云ふ積ではありませぬが、概して日本人が歐米各國の人々と比して、勉强するとの出來ないのは、甚だ遺憾なことであると思ひます。私は之を英米人と比較し、若くば獨逸人と比較して餘程劣つて居る點を發見するのである。勿論國體が違ひ國情を異にして居りまする

之を歐米と比較せよ

すから、一概に論ずる譯には參りませぬが、我國には未だ働く事を恥かしいと云ふやうな考を持つて居る人がある。それは儒教の結果か、武士は非常に貴い者で、農工商は卑しき者としてあつた其結果から、人間が働くと云ふ事を卑む樣になつたのでありませう。天秤棒を擔ぐとか、算盤を彈くとかすると、彼奴は素町人である、土百姓であると云やうな心がありまして、幾分か此勤勞と云ふ事が原因して、さう云ふ事を輕蔑する樣な、氣風を增長したかも知れません。加之總じて我國人は、勤勞と云ふ事に對し、歐米各國の人が重んずる程に、強い觀念を以て重んじないことは事實であります。其處で日本では人物が少しゑらくなると、餘り働かぬ樣になつて來るのであると、外人が皮肉を云ひました事があります。曾て『時事新報』に大西洋人と署名した人が投書をしたのが其中に日本國で紳士と云ふ者は、丸で病人扱にされて居ると云ふ事を書いて居りました。それはどう云ふ事であるかと云ふと、先づ車で宿屋に着くと、車夫が靴を脫がして呉れる。夫から上ると婢が三四人も出て來て、帽子

をとつて呉れる。風呂敷包を持つて呉れる。外套を脫がして呉れる。手を引いて客間に通して呉れる。夫から風呂に這入ると、又浴衣を脫がせて呉れる。身體を拭いて呉れると云ふやうな風で、丁度病人が看護婦から取扱はれて居るやうな有樣である（聽衆笑ふ）。で日本人がエラクなつて來るから家の内で、主人が妻君なり子供なり下女なりに物を命ずるにも、皆顚の先で使つて決して自分は動かない（聽衆笑ふ）と斯う云ふことが書いてありました。洵に能く穿ち得た觀察であると思ふ。斯の如き事實はどうも日本人が、勤勞を歐米人と同じ樣に好んで居らない事の一つの證據であります。私は二回ほど歐米に行きまして、あちらの家族の内にも出入して、能く人々の働く模樣を見て居りましたが、其點は餘程我國人の學ぶべき所があると存じます。そこで私が今日『國民と勤勞主義』と云ふ題を掲げて、此勤勞主義に關し諸君と共に研究して見たいと思ふ譯柄であります。

或人は我國は狹い、又歐米人の如く多くの殖民地を持つて居ないから、米

が足らぬのも無理はないと云ふ説を唱へる人がありますが、私は縱令人口が年々五十萬宛殖えても、又日本國が小さくても、も少し日本人が勉強する事になつて來れば、二千萬石の米や、千五百萬石の麥は、此狹い日本國にでも作り出す事が出來ると思ふのであります。耕地の整理をしたり。或は種子の改良をしたり。農具の改良をしたり。夫に加へて國民が一層勉強すると云ふ精神になつて來れば、二千萬石や千五百萬石の米麥を作り出すことは決してむづかしい事ではあるまい。畢竟物産を拔へる上に於て、一番大切なものは、土地と勤勞との二つである。土地が無くては物を作る事が出來ない。併ながら土地があつても、此土地の上で働く所の人々が、非常に勤勉でなかつたならば、どうしても物産を澤山に拔らへると云ふ事は出來ないのであります。私が曾て澁澤男爵に向つて、あなたは何故商業に身を御投じになつたのであるかと問ひました時に、男爵の答に、自分は維新の際英國に渡り、なせ英國の海軍が強いかと云ふ事を研究せしに、英國の海軍の後には、健全に發達して居る商工業と云ふものがあると云ふ事を見て、自分は政府の役人であつた

けれども、英國の強く且つ富んで居るのは、海軍の後ろに健全なる商工業が發達して居つて、是が國を重からしむる所以であり、又此と同時に英國の海軍を強からしむる所以であると云ふ事を知つたから、遂に歸朝の後役人を罷めて、商工業に從事するやうになつたと云ふ事でありますと云はれた。此事は直接私に話された事でございましたが、其商工業の發展を來すのは、何に由るかと云ふに詰まり、國民が非常に勤勉努力すると云ふ事に歸せねばならぬのであります。なせ獨逸が新進の國であつて非常に商工業が發展して來るか。なせ學問が進歩するかと思つて調べて見ると、夫れも其筈、獨逸人ほど文明國の中で、勤勉なる國民は少ない。田舍の方へ行つて見ると、日本と餘り違はぬ所が澤山ある。とても英米の社會ほど、獨逸の社會は發達しては居りませぬ。田舍に行つて見ると、臨分憐むべき程の寒村が尠くはない。云はゞマア獨逸は貧乏の國である。然るに其貧乏の國を、今日の如く盛に成すに至つたのは何んであるかと云ふに、獨逸人の勤勉と云ふ事である。學問が世界第一であると云ふ事も、今日の英國を凌駕せんとする程の工業の發達を

米の不足にあらず勤勞の不足のみ

が足らぬのも無理はないと云ふ説を唱へる人がありますが、私は縱令人口が年々五十萬宛殖えても、又日本國が小さくても、も少し日本人が勉強する事になつて來れば、二千萬石の米や、千五百萬石の麥は、此狹い日本國にでも作り出す事が出來ると思ふのであります。耕地の整理をしたり。或は種子の改良をしたり。農具の改良をしたり。夫に加へて國民が一層勉強すると云ふ精神になつて來れば、二千萬石や千五百萬石の米麥を作り出すことは決してむづかしい事ではあるまい。畢竟物産を拵へる上に於て、一番大切なものは、土地と勤勞との二つである。土地が無くては物を作る事が出來ない。併ながら土地があつても、此土地の上で働く所の人々が、非常に勤勉でなかつたならば、どうしても物産を澤山に拵らへると云ふ事は出來ないのであります。私が曾て澁澤男爵に向つて、あなたは何故商業に身を御投じになつたのであるかと問ひました時に、男爵の答に、自分は維新の際英國に渡り、なせ英國の海軍が強いかと云ふ事を研究せしに、英國の海軍の後には、健全に發達して居る商工業と云ふものがあると云ふ事を見て、自分は政府の役人であつた

けれども、英國の强く且つ富んで居るのは、海軍の後ろに健全なる商工業が發達して居つて、是が國を重からしむる所以であり、又此と同時に英國の海軍を强からしむる所以であると云ふ事を知つたから、遂に歸朝の後役人を罷めて、商工業に從事するやうになつたと云ふ事でありますと云はれた。此事は直接私に話された事でございましたが、其商工業の發展を來すのは、何に由るかと云ふに詰まり、國民が非常に勤勉努力すると云ふ事に歸せねばならぬのであります。なせ獨逸が新進の國であつて非常に商工業が發展して來るか。なせ學問が進歩するかと思つて調べて見ると、夫れも其筈、獨逸人ほど文明國の中で、勤勉なる國民は少ない。田舍の方へ行つて見ると、日本と餘り違はぬ所が澤山ある。とても英米の社會ほど、獨逸の社會は發達しては居りませぬ。田舍に行つて見ると、隨分憐むべき程の寒村が勘くはない。云はゞマア獨逸は貧乏の國である。然るに其貧乏の國を、今日の如く盛に成すに至つたのは何んであるかと云ふに、獨逸人の勤勉と云ふ事である。學問が世界第一であると云ふ事も、今日の英國を凌駕せんとする程の工業の發達を

成さむとして居ると云ふ事も、一つは此獨逸人の勤勉努力にあると謂つてもよい。さうして見れば獨逸よりは天然の富があり、實に此國其ものが豊かである我日本が、一層此勤勞と云ふ事を、奬勵して行くならば、二千萬石の米や、千五百萬石の麥を增作するとは愚なこと。尙其上にも非常なる商工業の發展を見る事は、決して難きとでなからうと思ふのであります。幾ら善事の爲に金を出さうと思ひましても、幾ら社會の爲に盡さうと思ひましても、金が無くては出來ないとであります。其金を造るには、如何すれば良いかと、云ふに要は唯我國民が一層總ての點に於て勤勉になる事であります。そこで此勤勞主義を實行して行く上に於て、私は二の考へなければならぬ事があると思ふ。一つは何んであるかと云ふと、時間を大切にすると云ふ事である。勤勉努力の人間が時間を粗末にしたならば、どうしても物を造出す事が出來ない。で此時間を大切にすると申す事は、物産を興し、富を生ずるとの必要條件であります。西洋の諺に「時は金である。"Time is money."」と云ふ事がありますが、是が實際大切な事であると思ひます。私は屢々社會事業を取調べ

る爲に、內務省から出張しますが、一縣下で二千戶、若は三千戶位ある町に行きまして、此處の人は能く働く人であるか、働かぬ人であるかと申す事は、一日や二日滯在して居たのでは、中々分りませぬ。併ながら茲に其れを知る所の極く簡單な方法がある。其れは何であるかと云ふと、其家に掛けてある時計を見る事であります。此家の時計は今何時になつて居るかと云ふと、唯今なら丁度四時である。（講師時計を示して）所が或家の時計は四時の所にちやんと針が行つて居る。又外の家へ行つて見ると、三時三十分になつて居る、又或所へ行くと三時四十分になつて居る。是は人間が働かないと云ふ證據を示して居るのであると思ふ。なぜなれば新橋へ行つて瀧車に乘らうとしても乘る事は出來ませぬ。さう云ふ風で、國民が勤勉努力の精神に富んで來ますと、時間を大切にする事になつて參ります。時間を重んずる事になりませぬと、勤勞主義を實行する事が出來まいと思ひます。それからもう一つは勤勞主義を實行するには、人間が實際的でなくてはならぬ。試みに日本人は

實際的であるか、理論的であるかと云ふに私の見る所に由ると、日本人はどうも理論を好む方が多いと思ふ。で理論を多く好んでは、此勤勞主義と云ふものはなか〳〵實行は出來ませぬ。英人と佛人とを較べて見ても、スグ分る佛人は理論を重んずるが、去かし英人は實際を貴ぶと云ふ傾向がある。此一事に依て見ても兩國の盛である事、盛でない事の理由を、明白に判斷することが出來る。英人は理窟よりも實際を重んじて居る。私は數年前倫敦に往きまして、監獄改良や社會事業抔を取調べまして、第一に倫敦の內務省監獄局に行き、色々監獄の事を問ひましたが、私が會談致しました方はタッフヒーは申す監獄局の巡閱官でありました。何を問ひましても、向ふでは書物の事を一も云はない。斯う云ふ書物があるとか、どう云ふ學者が云ふたとか云はずして。貴君が英國の監獄の事を調べて歩くには、茲に一番よい物がある。それは英國中の各典獄から、內務省に送つて來た報告書である。其報告を集めたものを「ブルーブック」と云つて、一つの年報書が出來て居る。之れを見るが一番宜いと云ひました。去かしどうも報告書位では、理窟好きの日本

人は滿足する事が出來ませぬから、何か書物は無いか、何か立派な學者の書いた物はありませぬかと尋ねると、巡閱官の申しまするには、あなたは學者の云ふやうな事を信じてはいかぬ。實際長い間罪人を取扱うて、罪人と云ふ者は、斯う云ふ者であると云ふ事を、自ら直接に目擊した典獄が報告した年報書がある。それを見れば本當の英國の監獄の事がすつかり分る。監獄の內部の事も何も知らぬ所の學者、即ちあちらの書物、こちらの書物を取つて書いた學者の論說抔を重んずるやうな事る譯には行かぬと云ひましたが、私も之には大變に感じて戻りました。私は決して學者の說を輕んずるのでも、卑むるのでもありませぬが、學者の說を重んずるよりは、實地家の說を重ずる事になつて來ないと、本當の仕事は出來まいと思ひます。そこで我邦に多くの物產を起すとか、或は地方の行政を擧げるとか云ふ樣な事は、書物ばかり見て、それで滿足に往き得るものではない。實際事に當つて眞相を知り悉くすと云ふ精神から割出して勤勉努力する事にならないと、本當の仕事は出來まいと思ひます。斯う云ふ風に考へま

儉約は勤勞より來らざるべからず

して此の勤勞の主義を實行して行くと云ふ事になりますれば、縱令我邦が狹くつても、五十萬の人間が年々殖ゑ行きましても、米が二千萬石、麥が千五百萬石足らないでも、結構立ち行く事にならうと思ひます。此の頃勤儉貯蓄が盛に唱導せられて、東京府下に於いても、儉約と云ふ事を、非常に奬勵されて居る。此の郡ではどうか知りませぬが、私は北豐島郡に住んで居る者でありますから、郡長さんより儉約をせよとの訓諭見たやうなものを貰つて居りますが、さて儉約と云ふ事も、實際勤勞から出て來る所の儉約でないと、本當の儉約は出來ないのであります。私は數年前秋田青森山形の諸縣へ時局に關する調査に出掛けまして、秋田や青森の山の中に行つて見ますと、稗は愚か木の皮や、草の根を米に交せて食つて居る者があります。さうして其處に矢張儉約々々と云ふ事を非常に說いて居る。で私は或當局者に向ひまして、斯う云ふ所の人々に儉約をせよと云ふのは、寧ろ乞食になれと云ふのと餘り違はありますまい。故に此地方では餘り儉約を說いてはいかない。斯る人々に向つてはもつと働けと云ふ事を勸めなければならぬ。なせならば概して云

ふと秋田青森のやうな雪國の人は働かないのです。さうして山を見ても、原野を見ても、山には木の生へてない山が澤山ある。又原野は未だ開墾してない所が澤山ある。それで一方には木の根を堀つたり、或は蕨の根を堀つたりして、之を黍や稗に交せて、團子を拵へて食つて居る人間に、儉約せよ、儉約せよと云ふのは、乞食になれと云ふのと同じ事であるから、さう云ふ事を云はずに、もつと働け、働いて貯蓄して往けと云はなければならぬと申しました。で私は專門ではないが、小學校生徒の貯金などを、時々調べて見ることがあります。貯金も大切ではあるが、子供に仕事を與へずして貯金計りさせると弊害が出來て來る。無茶苦茶に親に强請つて、金を貰つて貯金する樣になつたり。甚だしきは親の物を盜んで、先生の所へ持つて行つて貯金する樣になる者も中にはあります。そこで學齡兒童の貯金を奬勵しやうとするなれば、子供に學問の外に仕事を授けるのである。或は害蟲を驅除させる、或は雜草をぬかせる。そして金を與ふるとか、家にありては兩親が特別に復習の外に、何か仕事を授けて五厘遣るとか、一錢遣るとかして其何分の一を學校貯金にす

ると云ふやうにして、此勤勉努力から得た所の金を以て、貯金させて行く事にしなければ、本當の貯蓄と申す事は出事ない。そこで儉約の元は人間が働くと云ふ事になつて來るのであります。

カーライルの學校

ライルと云ふ所がありますが、其所に亞米利加の土人……と云ふても黒ん坊と違ひます、「アメリカン、インデアン」と申しまして亞米利加の土人であります。其土人の爲に學校が出來て居つてカーライルの學校と云ふたら敎育界では名高いのであります。其學校の生徒が貯金する事がハミルトンと云ふ人の著はした「貯金及貯金制度」と云ふ著書に書いてあります。此學校の貯金が米國の學校貯金中では、一番能く行はれて居ると申すことであります。其理由は生徒の夏期休暇中、校長が諸方へ口入をして、給仕人或は下僕として遣はすのであります。で夏の一ケ月か一ケ月半學校を出して十分働かせる。さうすると米國では能く働くと一ケ月に五十弗位得る事は、決してむづかしい事ではありませぬ。即ち一ケ月働けば五十弗。一ケ月半働けば七十五弗も持つて歸るから、其內から貯金させるやうにしてあります。ですからカーラ

歐米の歡迎は考へもの也

イルの土人學校の貯金は基礎がありますから永續致します。それと云ふのも勤勉と云ふ事の根底があつて、其根底に貯蓄と云ふ果實が出來るからのことであります。こう云ふ風に考へて見ますると、儉約と申す事も勤勉と云ふ礎の上に立たなくては、成功するものではありませぬ。殊に日本人は貯金と云ふ事には一層注意しなければならないと思ふのは、西洋各國を歩きまして宿屋に泊り、又は仕度屋に這入りますると非常に日本人を歡迎する。米國に行つても佛國に行つても、英國に行つても、どこへ行つても、日本の旅行者を非常に歡迎する。なぜ歡迎するかと云ふと、西洋人は馬鹿な金は使ひませぬのに、日本人に限りて茶代などを無茶苦茶に澤山やるものですから、何處へ行つても日本の中等以上の旅行者は歡待される。で日本人は心が奇麗で、西洋人のやうにしみつたれでないから、ぱつぱと綺麗に金を使ふ癖がある。私は金を貯へると云ふ習慣を作る事は生產を起す本でありますから、是非奬勵せねばならぬと思ひます。去かし儉約と云ふ事も私が申上げましたやうな風の意味で實行しないと、本當に成功は致しますまい。若し積極的に貯金をすれ

ば貯金が一つの資本になるのですから、今度はそれを色々の事業の上に應用する事が出來ます。百圓溜めたものは二百圓になり、二百圓のものは三百圓にも四百圓にもなりますから勤勉と云ふ事と、貯金と云ふ事は、原因結果を爲して、國家の中に一大富源を作るものであります。尙ほ私は米國人の勤勞に付ても御話して見たいと思つたのでありますが、何分此話が大分長くなりまして、諸君も御疲れであらうと思ひますから、今日は是丈にして、私の責を塞ぎたいと思ふのであります。

六、青年會の社會的位置

木の葉を潜る岩清水●墮落を防遏する萬能藥●誘惑の藪淵●四大事業●宗教と制慾●教育は青年に最も必要●獸身にして人心●都會は墳墓也●娯樂の設備●第二のホーム●社會的現象の最も大なるもの●

社會的潮流として基督敎界に流れて居るものが二つある。一つは救世軍の潮流にして、他は青年會の潮流である。この二大潮流は啻に歐米各國に橫溢するのみならず、十有餘年前から我が東洋にも其の餘波を及ぼし、今や我が國に於ては、益々其潮流が強き流れをなして、社會の汚濁を清めつゝあるのである。余が茲に論せんとするものは『青年會の社會的位置』と云ふことである。

基督敎青年會の起原を繹ぬるに、英國の片田舍に生れたジョージ、ウイリアムスと云ふ一青年が、西曆一八四一年即ち其二十歳の時倫敦の紳商ジョージ、ヒッチコックの店舖に入り、丁稚や番頭等と交り、彼等が道德的狀態を目擊す

木の葉を潜る若清水

堕落を防遏する萬能藥

るに、田舍青年の眼孔に映ずる都會青年は、如何にも華美柔弱にして素行の如きも如何がはしい點が多いので、熱烈なる信仰心と、津々たる同情の念とに富めるウイリアムスは、都會青年の腐敗せる狀態を看過することの出來ないので、ヒッチコックの店舖に入りてより、二年の後、遂に店員と共に聖書の研究や、祈禱會を始め、丁稚番頭等の精神狀態の改良に力を盡すに至つたのである。而して其の翌年一八四四年ウイリアムス二十三歲の時、同志の者十二人と共に『基督敎青年會』"Young Mens Christian Association"なるものを組織したのである。之が今日世界萬國に膨脹しつゝある所の基督敎青年會の起源である。故に青年會の都會にあるのは青年が精神的、身體的、社會的に墮落せんとする其の墮落を防遏する所の萬能藥である。

一七六三年ゼームス、ワットが蒸汽力を發明し、一八一二年ヘンリー、ベルが蒸汽船を造成してスコットランドの海岸を快走奔馳したる以來、歐羅巴人の迷夢は初めて醒めたのである。眠より覺醒たる彼等は其の蒸汽力を各種の工業に應用して、機械力の發達を神速ならしめた。是に於てか工業に一大革命

を起し、其の結果として田舍漢は日を追ひ月を重ねて、都會に集合して來たのである。都會に集合したる田舍漢の內にも、最も其の多數を占めたるものは、即ち青年である。此多數の青年が都會に來て、何をするかと云ふに、或は學窓に學ぶものもあらう。或は工場に働くものもあらう、或は商店に事務を執るものもあらうが、兎に角田舍より來りたる青年の多數は都會の空氣を呼吸するや否や、腐敗し初めたのである。哲學博士ドッゼットが著したる「基督敎青年會の沿革」"A History of The Young Men's Christian Association"なる書物に據つて、青年會の創設せられたる前後に於ける英國農民の狀態を調べて見ると、農民が田舍より都會に集合する有樣は實に驚くべきものがある。一八三一年英國農業勞働者の總數は九十八萬人なりしに、以後五十年の間に、其數は減じて八十七萬人となつた。然るに英國の人口はどうかと云ふに、此の五十年間に於て一千三百九十九萬人のものが、二千六百十萬人に增加したのである。之は人口の田舍より都會に集合した所の證據ではあるまいか。倫敦の人口は第十九世紀の初め即ち一八一八年に於ては百十一萬九千人なりしに、現今と

なりては五百萬人以上を有して居る。倫敦のみの數を以てするも、其人口は年々優に十一萬五千人を增加するのである。都會に人口著しく增加するのは倫敦のみではない。伯林、巴里、新克約、斯俄古、さては我が東京も同一である。統計家の調査せし所に據れば、倫敦の青年は其の數、百萬人。新克約は四十萬人。伯林、斯俄古は各三十萬人であると云ふ事である。伯林、斯俄古と我が東京との人口は髮髴たる者であるから、少くとも我が東京にも青年の數は三十萬や四十萬に上るであらう。これ等の青年が誘惑物の多き都會にあつて、墮落より免かるゝことは殆に至難の業である。下宿屋に於ける冷淡なる待遇。劇場、寄席、飮食店さては遊廓惡友等を以て充滿せる境遇にあつて、墮落を餘儀なくせらるゝ勢力より脫却する事は中々六ケ敷いのである。基督敎青年會は何が爲に起りたるかと云ふに、誘惑の多き都會にありて、墮落の境に立つ所の青年者の爲に、師父となり、善導者となり、慰藉者となり彼等の身體上、社交上、精神上に少なからざる助をなさんとするものである、故に青年會の仕事を四つに分ちて四大事業（フォー、フォールド、ソルク）と云ふ。抑々

青年會の四大事業とは何であるかと云ふに

第一は宗敎である。……宗敎の青年に必要なる、恰も荒れ馬に轡、激浪に漂ふ船舶に錨の必要なるが如くである。人の物慾に迷ふ有樣を喩へて意馬心猿と云ふが、別けても青年は慾の强きもので、意馬心猿の境涯に莅むことが數次ある。この誘惑の强き青年を利の衢に入らしめず、慾の海に溺れしめざる樣にするのには、法律や道德の制裁のみでは、中々力の及ばざる所がある。制慾の點に於ては蒸汽力や電氣力が物を動かす如く宗敎の强き力によるにあらざれば、到底青年は誘惑の强き時期に品性を全ふすることが出來ないのである。故に青年會に於ては日曜日の午後に於て說敎や、聖書の講議や、祈禱會話會抔をなし、青年を宗敎的に向上せしむるのである。然し青年會は敎會でないから、信仰箇條や、儀式抔を强ゆる樣なことはない、又洗禮抔も施さない。可成の信仰心が萌へ出づれば、銘々好む所の敎會に於て、洗禮を受け其の敎會員となつて、差閊のないのである。宗敎は以上述べたる如く、人類には一日缺くべからざるものであるが、宗派と宗派心とは甚だ宜しからざるも

のである。宗派爭の醜態は夫婦喧嘩の其れと同じく「ゼンツルマン」の屑とせざる所である。青年會は此の點に關しては最も深き注意を拂ふが故に、どの宗派の人でも來りて會員となることが出來、又どの教會に往きても其の會員となることが出來るのである。宗教は教へても宗派は教へないといふ事が一寸注意すべき點である。

教育は青年に最も必要

第二は教育である。……教育は老若男女、何れにも、必要であるが、別けても青年に、最も必要である。故に青年會は夜間に於て種々なる學科を設けて、青年を教育するのである。各國の語學も教ふれば、簿記も教へる。其他講演會、演說會、文藝會、討論會抔を開いて、青年の智的方面を開拓するのである。加之圖書館には有益なる圖書、縱覽所には新聞雜誌を備へて、夜間教育の缺乏を補ふのである。鄙見によれば青年會の教育といふは教育上、謂ふ所の補習教育である。所謂學校教育の不足せる點を補ふ所の補習教育であるから、商家の子弟、丁稚番頭の教育上には實に適切にして必要なものである。啻に補習教育として必要であるのみならず、斯くして青年子弟が夜間

を有益に利用するとせば、青年の陷り易き惡所通ひや、惡所に通はざる迄も、不健全なる娛樂に時を移すが如き弊風より免かれ、知らず識らずの間に智識を蓄へ、人格を高むることが出來る。夜學の效力も實に大なりと謂ふべきではないか。

獸身にして人心

第三は體育である。……人の子をして圓滿なる發達進步を遂げしめんには、精神狀態に注意することは固より、亦大に肉體の上にも心を用ひなくてはならない。福澤先生の子弟を教育する上に於て、最も睚められたることは、何であるかといふに即ち體育であつた。先生の主義は『先づ獸身をなして然る後人心を養ふ』といふことで、子弟の身體は猛獸の如く强健に養ひ立てゝおいて、然る後道心を入れるのである。青年會の見る所少しも之に異らない。大に體育を奬勵し、道念を與ふるに先だちて獸身を造るのである。故に青年會の體育部には專門の體操教師ありて體操術を教へ、游泳池ありて游泳術を教へ、浴場ありて體操後に入浴せしめ、其他端艇の競走、自轉車の遠乘、郊外の散策等時宜に從つて、體育を奬勵することに怠らないのである。青年會

が人口の稠密なる都會に設立せらるゝを以て見れば、身體の軟弱なる都人士に體育を奬勵することは、最も其必要に應ずる所以の道である。

都會は墳墓也

第四は社交である。……都會はルーソーの所謂墳墓の地である、一度び墳墓を發掘せんか、骸骨を以て充されてゐるのである。青年の田舍を去つて都會に來るや、先輩なく、親戚なく、知友なく、睹る所のもの、悉く物慾を挑發せざるはなく、逢ふ所の人も亦悉く行路の人ならざるはなしと云ふ有樣である。都會なる者を「コンデンス」すれば、沒趣味であり殺風景であり、冷淡刻薄であり、沒道義にして而かも利己一偏である。かゝる境遇に曖き愛情の存する謂れなく、趣味ある娯樂の設備せらるゝ道理がない。この缺乏を充さん爲めに青年會なる者は、清健にして而かも教訓に充てる娯樂を設備して青年を慰藉するのである。故に青年會には音樂會あり、講談會あり、遊戲室あり、談話會あり、人一度青年會の娯樂室に入るあらば、場內は即ち悉く春にして和氣靄然たるものあるを見るであらう。都會に來りて沒趣味の下宿屋に住めるものに取りては、青年會は第二の「ホーム」とも見るべく、實に

娯樂の設備

第二の的ホーム

快然として掬すべき愛情の充ち滿てる所である。愛は社交の源にして凡ての娯樂に味を付けるものは即ちこれである。娯樂室が青年の爲めに慰樂の中心となるのは、即ち如上述べ來りたる理由がある爲からである。

之を要するに、青年會は如上の理由により、都會青年の必要に應じて發達し、今や世界萬國の大都市として知られたる地には、青年會の設立せられざるものなく、之によりて青年の蒙むる利益は、實に莫大なる者である。我が青年會が、或は心靈的感化力を以て、或は補習的教育力を以て、或は社交的慰藉力を以て、腐敗せる都人士を淸めつゝあるとは、社會的現象の最も大なるものゝ一として、沒了するとの出來ない事實である。然らば即ち社會の青年會に負ふ所の債務も亦決して、些少ではない。吾人は今後青年會事業が更に一大發展をなして、物質的腐敗と精神的墮落をなしつゝある都會を潔めて、之を神の王國となさんことを祈禱して止まないのである。

社會的現象の最も大なるもの

七、浮浪徒と失業者

最も大なる問題●社會的ミアズマ●社會の破壞者●浮浪徒二万人以上●放逐政策●一道の光明●失業者と犯罪●監獄費なる重稅●勞働紹介所●土木工事●殖民制度●保險金庫●

最も大なる問題

社會問題として論究す可きもの、元より一にして足らざれ共、就中浮浪徒と失業者とは、最も大なる問題にして、且つ最も解決に苦む處の問題なり。文明各國が此二箇の問題に對して、如何の狀態を保持せるかを觀察するに、未だ以て完全なりと謂ふ能はざらんも、夫れ〳〵解決の方法を講じて、着々改善の途を辿りつゝあるは疑ふ能はざるの事實なり。然るに我國に於ては、其等浮浪徒の處遇、失業者の措置に關して、未だ何等の形式を以てするも、其解決の法案を見出さゝる也。抑も知らず、現狀斯の如くにして推移久しきに渉るの時は、國家治安の上に於て、國民風化の上に於て、恐る可き結果を來

社會的ミアズマ

すの患れなきか。思ふて茲に至らば余輩そゝろに寒心の情に堪えざる也。浮浪徒と失業者との對句は、社會問題の姉妹語にして、兩々相並んで、そが討究を遂げ、且つ其解決をも與へざる可らず。空氣の中に一種の病毒即ち「ミアズマ」なるものありて、常に人の呼吸に通じ、體内に侵入して不測の危害を人類に及ぼすことあり。浮浪徒と失業者とは、正に社會的「ミアズマ」にして、人間社會一たび此の「ミアズマ」に犯さるゝ時は、如何に健全なる社會も、如何に安固なる國家も、漸々衰頽するを免れず。左れば苟も社會の健全を保有せんと欲せば、此の「ミアズマ」を處分するを忘る可らざる也。浮浪徒と失業者とは、平素にありては殊更ら猛烈なる力を以て社會を荼毒するものに非ずと雖、只だ一たび社會の治安が害せられ、國家の安固が緩弛する時は、此等浮浪徒と失業者とは、宛がら洪水の氾濫するが如く、恐る可き勢力を以て社會を破壞せずんば休まざる也。過般平和問題に不滿を懷くの徒蜂起して、輦轂の下一時殺氣の掩ふ處となりたりしも、彼等暴動の手足となりしものゝ中に、浮浪徒及び失業者等が「江戸の敵を長崎で討つ」と云ふが如

社會の破壞者

き意味合を以て、擾亂を極めたるの形跡あるは、終に誣ふ可らざるの事實たるにあらずや。續いて橫濱の騷動の如きも、其巨魁は軍用「ビスケット」の解傭者なりと傳へらる。之を以て觀るも浮浪徒や失業者の處分の一日も忽諸に附す可らざるを知る可き也。然らば即ち政府當局者も民間有志家も、共に力を協せて、此問題を講究解決せざる可らざるや、洵に見易きの理のみ。

今我國に於ける浮浪徒の數を知らんと欲するも、未だ的確なる統計のこれなきは、甚だ遺憾に堪へざる處なり。之を英國社會學者に聽くに、同國に於ける浮浪徒の數概ね三萬、救世軍の大將ブースの調査に據れば、實に十六萬五千人の多きに達せり。而して獨逸に於ては、浮浪徒の數少なき時に四萬人、多き時には二十萬人なりと云ふ。元より英獨を以て直ちに我國を律する能はざらんも、少なくとも我國の浮浪徒を以て二萬人以上なりと云ふも、亦多く不可なかる可し。然るに之は如何に處分しつゝあるかと云ふに、單に警察官が乞食狩と稱して、之を追ひ拂ふに過ぎざるにあらずや。吾人が曩きに何等解決の法案を見出す能はずと云ふも、以て過酷の言と爲す可らざる也。吾人

は之れより少しく泰西諸國が如何に浮浪徒を處分しつゝあるかに就き、學ぶ處あらんとす。

▲泰西諸國に於ける浮浪徒處分

泰西諸國が浮浪徒を處分するや、其方法一ならず。

第一、浮浪徒を管轄外に放逐するにあり。こは恰も現下我國にて施行せられつゝある警察處分にして、所謂「臭い物の上の蠅を拂ふ」と同樣、勞して更らに効なき也。米國の或市の如きは、我國と同じく之を管轄外に追ひ拂ふことあるも、時として養育院又は救貧院の一部に此等追ひ拂はれたる浮浪徒を收容して救養するの場所あり。

第二、浮浪罪を以て見付次第、之を逮捕して處罰し禁獄するに在り。

第三、浮浪徒の要求する儘に區別なく救助を與ふるにあり。現今英國に行はるゝ Casual Ward. 窮民臨時保護場は即ち是れなり。

第四、現今理想に近き處分法としては、米國費府其他の都市に行はるゝものなるが、其勞役場には（一）若干の建築物及び土地を占有し、嚴重なる勞

働の試驗を爲し、且つ一身上の調査を遂ぐる迄勞働に就くを許さず。此等の調査終結して、試驗に及第せば、勞働を與へて、自活せしむるにあり。

(二)輕便なる方法を以て、食物と寢室とを供給するにあり。(三)浴室洗濯所を備え、以て彼等をして自營自活せしむるにあり。此處分法は米國にて、最も進歩せる方法にして、余の視察せるニウヘヴン市の如きは此方法に於て最も進歩せる處たり。

第五、刑罰的に浮浪徒を處分せんと欲せば、刑罰機關として不定刑期に基せる行刑場に收容せざる可らず。米國にありては各州多少の異なる處あり と雖、浮浪罪は十日以上九十日以下の禁獄に處するは、餘に刑期短縮に過ぎて、效果を收むること能はざる也。故に不定刑期を以て處分せざる可らざるの理茲に存するあるを知るなり。

以上は泰西諸國に於て行はるゝ制度にして、此れとても完全なりと言ふ可くもあらざれど、一道の燈火暗夜に投せられたる程の價値あるは疑ふべからず。吾人は更にこれ以上の考案に依つて以て、社會的「ミアズマ」を掃蕩せんこ

とを欲するもの也。

▲我國現下の失業者問題

失業者と云ふも、一概に論下し去る能はざれども、兎に角此失業者をして、其職を失ふたる當時に於て、何の方法も講ぜず、其儘放擲し置く時は、恐る可き社會的恐慌を來すこと あり。失業者と浮浪徒とは、要するに境を接するものにして、一歩を轉ずれば失業者は變じて、即ち浮浪徒となる也。之れと同じく浮浪徒と犯罪者とは、是亦密接なる境域を爲し、時としては相互領域を混同することなきにあらず。故に浮浪徒にして犯罪者たるものあり、犯罪者にして浮浪徒たるものあり。かく考へ來らば失業者の措置は、浮浪徒を豫防する所以にして、浮浪徒を好適に處分するは、犯罪を豫防する所以なり。

我國平時に於ける失業者の數は、勞働統計の不完全なるが爲めに、其正確を知るに由なきも、刻下の問題として、是非共講究施設せざる可らざるものは戰後失業者の處分なり。新聞紙の傳ふる處に據れば、凱旋兵士の除隊後、職を失ふもの廿萬人、軍需品の製造、其他之に關係して經營せる勞働者にし

て、事業收縮の爲に解傭せらるゝもの五十萬人、總計七十萬人は戰後失業せしものなりと云ふ。こは餘り過大に失したる計算に似たれども、近き將來に於て夥しき失業者の生じ來るは、爭ふ可らざることにして、而かも之を如何に措置す可きかは、實に緊急問題中の最も大なるものなる可し。若し該問題を等閑に付し去るが如きことあるに於ては、其報酬として國民は最後に監獄費なる重稅を負擔せざる可らざるに至る可し。余が一昨年英國に在りて調査したる處によれば、從來文明各國に於て犯罪の減少しつゝありしは、獨り英國のみなりしが、南阿戰爭後英國の犯罪者は、頓に增加したるの事實あり。監獄學者は其原因を調査して曰く、是れ全く南阿凱旋の兵士が亂飮且つ失業して路頭に彷徨したるに由れりと。之を思へば我國失業者に對し、特に凱旋兵士に對し、國民は須らく愼重の態度を以て、其措置を講究經營する處なかる可らざる也。之に就き差し當り施設せざる可らざるものは、

監獄費なる重稅

勞働紹介所

第一、勞働紹介所の設立なり。之は公私の團體に於て勞働紹介所を設立するを要とす。東京、大阪、京都、神戸、橫濱、名古屋等の都市に於ては、

是非勞働紹介所を起して、失業者に職を授けざる可らず、都市は此點に於て田舍よりも遙かに多くの效果あるを疑ふ可らず。特に此際愛國婦人會、軍人援護會、及軍人遺家族救護義會の如き、有力なる團體にては、各官衙と聯絡を取りて、凱旋兵士の業務に就く能はざるものを、或は書記に或は守衛に或は受付等に紹介するの勞を執るは、正に爲す可き措置にあらずとせんや。

第二、土木並に農業的工事の企畫なり。之は市町村の自治團體に於て、社會一般が勞働的需要の稀有なる時に於て、土木及農業工事（耕地の整理、荒蕪地の開墾等）を起して、失業者に職業を授くるは一擧兩得の利益たるを失はざる可し。仮令ば獨逸ダルムスタッド市にては、冬期に於て失業的勞働者多數なるが爲めに、道路水路其他の土木工事を起して、失業者を使役せるが如く、近くは我宮城縣に於て今回の凶饉を機とし、之を救濟するの一策として、農民を使役し、多年企畫せる耕地整理を斷行するが如きは、眞に好適の例證として見る可きなり。

第三、失業者殖民制度なり。此際多數の失業者並に凱旋兵士にして、就業すること能はざるものあらば、團體移住として、或は樺太に或は滿韓の原野に殖民するも亦確に其一法たり。移住、殖民の事たる、平時に於ては容易に行はれ難きものなれども、非常の時は即ち能く決行し易きものなり。水出ていこそ船は能く浮ぶなれ、漁夫は此時舵を操るを忘る可らず。

第四、失業者保險金庫の設置なり。此制度は既に獨逸や瑞西等の各國に實行せらるゝ處にして、職工をして毎日相當の保險料を支拂はしめ、彼等が失業せし場合に於ては、該保險金庫より規定せし時限、日々相當の金額を給與するものにして、獨逸の如きは保險金庫と勞働紹介所と氣脈を通じ、失業者の爲に職業を發見するに眴めつゝあるなり。今我國の現狀を見るに多數の失業者を生せんとするの恐れあるを以て、斯機會を利用し、失業者の爲に保險金庫を設置することを得ば、將來勞働者を稗益するに多大の効果あらん。

▲浮浪徒及失業者を適當に處分するの利益

（一）盜難を減少し

（二）無益有害者を化して世益を圖り

（三）荒蕪地を開拓して生產を興し

（四）都市及村落より浮浪徒を掃攘すること

（五）人道擁護に貢獻すること多大なり

以上列擧したるの方法と利益とは、其梗概に過ぎざる可しと雖、之を行ふに敏ならば、開物成務を資するに於て、豈寸効なしとせんや。二十萬の大軍を指揮するに比して、二十萬の失業者を善導誘掖するは、更らにより多くの難事なり。吾人は吾が同胞が協同一致して明白なる解決を之れに與ふる日の近からんことを希望して止まざるもの也。

八、救世軍現時の成功

絕後は知らず、少なくとも空前也●社會的にして兼れて宗教的●善良なる天分と基督の血液●ブースは監督教會より大也●攻撃と非難は彼を祝福しぬ●自然の要求、天の配劑●神の人格●實際的にして且つ科學的●

救世軍は一面非常に社會的慈善的の働きであると同時に、又一面には非常なる宗教的道徳的の働きである。非常なる社會的である者は、之と同時に非常に宗教的でなくては、以て有終の美を收むることは出來ない。救世軍今日の成功は、基督教主義の社會事業としては、絕後とは云はれないが、少なくとも空前である。此の空前の成功をなしたる所以のものは、社會的であると同時に宗教的であつたからである。尙細かに其成功する所以のものを分析すれば、

第一、ブース大將の天分が非常に多量なりしこと。ブース大將の天賦の性格が普通人よりは、偉大なりしことである。

第二、此多量の天分が基督教の如き、偉大なる宗教の爲に聖別せられたることこと。即ち語を換へて云はゞ、多量の天分を聖別して、其渣滓を取り去り、善良なる天分を、基督の血液を以て潔め、而して之を養成したるとにある。

第三、英國は『エスタブリシュド、チヤーチ』、即ち監督教會を以て國教として居る。この嚴しい儀式と格式ある教派は世襲的流儀を以て、社會に臨みしが爲に、該派より異りたる光彩を放つ者に對しては、國教の威光を以て抵抗する樣になり、抵抗の末は遂に抗擊をなす樣になつた。故に如此場合には兩者の間、衝突の起るは數の免れないとである。バリサイ宗派の人々に基督が容れられざりしが如く、ブース大將は愷に國教徒に容れられなかつたに相違ない。ブース大將は、容れられざりしが爲に、彼等に誹謗せられ、攻撃されたのである。この攻撃や非難は、愷にブース大將の人格と事業とを偉

大ならしむるに與つて力あつたのである。

第四、は近世都市の發達は實に驚くべきである。倫敦程發達したる大なる都市は世界にない。此大なる都市は、善惡二樣の發達を遂げた。故に世界廣しと雖倫敦程、善事に志す者の多い所もないのであるが、又倫敦程惡い者の多く住で居る所も尠ないのである。余曾て倫敦地下鐵道に乘つた時に倫敦人と同車して種々の物語をした。其時の話に倫敦は尨大の發達を遂げたるを以て一種の『モンスター』であると云つた。『モンスター』とは怪物であるの義である。如何にも其通りでロンドン程、貧民や罪人の多い都は世界に絕えて其例がないのである。『モンスター』とは少くとも斯樣な所を云つたものであらう。此の怪物的都市に、ブース大將の如き人格の生れ出たのは、自然の要求である。天の配劑即ち神の攝理であると云はねばならぬ。かゝる罪惡に充滿して居る都市は所謂ブース大將の『ダークェスト、イングランド、スキーム』(The Darkest England's Scheme. によらざれば救濟することは出來ないのである。故に救世軍はロンドンの罪惡に應ずる所の神の策戰計畫なりと云はねば

ならぬ。斯る意味よりしてブース大將は倫敦の深酷なる罪惡に抵抗せんが爲めに、生長發達したる神の人格である。

第五、救世軍の斯くも發達したることは雷にブース大將の人格が偉大なりし而已ならず、ブース大將の如き同主義、同思想、同信仰の人々が、數多くあつて大將の働を補助したからである。今日も尙補助しつゝあるのである。

第六、ブース大將並に救世軍士の多數が英語國民であつたからで。英語が商業界を一統した如く、救世軍は將に世界を一統せんとするのである。斯くも年月の經ない割合に迅速なる發展を遂げたる所以の者は、其語が英語であつたからであると思ふ。

第七、交通機關の發達である。ブース大將の事業が著しく發達進歩したる所以の者は、交通機關の自由に發達したお蔭による所も多い。如何にブース大將及同主義の人々が、熱心奮鬪されても、交通機關が發達しなくては、今日の如く救世軍が成功を見ることは出來なかつたであらう。

過古に於ける、基督敎の博愛家と異つてブ

宗教的にして且科學的

第八、救世軍の方法が實際的であると同時に科學的であること。大將の名著『ダーケスト、イングランド』を讀んで見ても、其遣り方が頗る實際的であると共に科學的である。全體宗教家の遣口は、情に馳せ易いから非科學的に陷り易い傾がある。然るに救世軍の遣口は、頗る科學的である。又學術的に力瘤を入れると、動もすれば實際的に遠ざかり易いものだが、救世軍はそうでない。實際と學術との調和が、其事業に歷々と顯はれて居る。此點は救世軍を論ずるに看過てはならない點である。

以上八ケ條はほんの頃日私の心に浮み出でたるまゝを列擧したのであるが、尙此外にも多くの成功する點があるに相違ないことは論ずるまでもない。

九、都市と公園

都市の膨脹と公園の發達●都市人口の暴殖●之を歐米の都市に見よ●驚くべき事實●都市の危機●公園の歷史●自然の要求●保健の實は公園に由つて擧げらるべし●公園も亦一種の學校●軟派的教育●小公園の設備●盛んに公園を設備せよ●是れ都市發達に伴ふ必要條件●

公園の發達は都市の發達と形影相伴ふものにて、都市の發達に連れ、公園は自ら發達せざるを得ざるものあり。泰西の俚言に曰く、『神は村里を造り人は都市を造る』と。文明の未だ極端に發達進歩せざるや、社會は自ら村落と小都會とを以て組織さるゝと雖、文明極端に進むに從ひ、人々次第に村落より都市に移殖して、都市は膨大なる發達を遂ぐるもの也。於是乎惡漢と不良少年。淫賣婦と相場師。病弱者と窮困者は都市の四隅に横溢して以て社會の安寧秩序を害せんとす。近世文明に於ける都市の發達より釀生する弊害は實に驚く可き者あり。今歐米各國に於ける都市人口の暴殖せる大勢を考へ見る

に概ね左の如きものあり。新約克は一千八百七十年には其人口僅かに九十五萬なりしに、廿年の後即ち一千八百九十年に至りては、百五十一萬五千三百○一人となれり。伯林は一千八百七十年其人口八十萬なりしに、一千八百九十年即廿年の後に至りては、百五十七萬九千二百四十四人となるに至れり。

アルバート・ショウ著「大英國の都市行政」なる書中に佛國を叙するの一節あり。曰く

佛國に於ては一千八百八十六年より、一千八百九十一年迄の統計を見るに、之を佛國全體より論ずる時は、人口の增殖せること僅々十二萬五千人なり。然るに人口三萬以上を有する五十六市及町に於ける其が增加は實に三十四萬人の多きに達せり。

と。佛國を通じて十二萬五千人の增加なるに其市町に於ける人口の增加は三十四萬人となるが如き、畢竟佛國都市の人口增殖して、村落に減少せるを示すに足るものにあらずや。大英國亦此理に洩れず。第十九世紀の初頭蘇國並に英國北部にありては、人口百六十萬人中、僅少の數のみ都市に棲住したり

しに、千八百九十一年の統計に據れば、人口增加して四百萬以上となるに係らず、九十二萬八千人は町村に棲住し、殘餘の二百六十三萬千三百人は都市にありては、僅々四十六萬五千人而已能く村落に棲住せるを見る。然らば則ち大英國にありては、千八百八十一年以降即ち十年間に於て村落の人口は百分率の五十一强減少せるを見る。都市の發達して村里の衰微せる、洵に驚くべき者にあらずや。

人口の同一個所に增殖するは戶數の稠密を意味し、戶數の稠密は身體の不健全を意味し、身體の不健全は精神狀態の不良を意味し、斯くして都市が極端なる發達を遂ぐるに至るは、物質的文明の怖るべく又悲しむ可き狀態に沈淪しつゝあるを示す「バロメートル」にあらずして何ぞ。於是乎社會改良家なるもの經營慘憺の末、各種の改良案を畫し、以て不調和なる物質的文明を救濟せんと欲す。公園の設備は即ち其一たるを失はざるなり。

公園の歷史を案ずるに、昔バビロン、アッシリヤ、ペルシア、フィニシア、支那、希臘、羅馬に於ては其名稱の如何を問はず、公園の設備は或は都市に、

或は王公貴人の邸宅に、或は寺院の境内に築造せられたりしは、疑はんとして疑ふ可らざるものあり。況んや其遺跡の今尙存置せるものあるに於てをや。

以上列擧したる各國園苑の如きは、遠き古のとなるが故に、審に探り求めて其の實景を書くに由なしと雖も、近世的意義に發達せる公園 Public Park. の歷史は審に講究して之を讀者諸君に報道し得るものあり。一千八百五十一年新約克市の人口五十萬に達したりし當時に於て、同州の立法部は早く既に市內に公園を設備すべき法律を制定したり。此結果として後年中央公園 Central park. は完成するに至りぬ。而して同市の之が爲に費したる經費の如き、實に五百萬弗以上に及べりと云ふ。又以て其盛なるを知るに足るべき也。一千八百五十四年佛國巴里も、亦市內に公園を設備すべきの法律を通過せり。巴里公園制度の法律に先つもの數年、英國に於ては三公園を經營すべき議あり。斯く世界の大都府が、期せずして公園の設備に、急速の歩を轉せし所以のものは之れ取りも直さず、世界の都市が人口の增殖を來したりし徵證にあらずして何ぞや。『必要は發明の母なり』と。公園の設備豈其れ此理に洩るゝものならんや。爾來接踵文明各國に於ては公園を設備して其必要に應せり。今其地名、名稱及地積を列記して讀者の便覽に供せん。

費府	「フェーアー、マウント」公園	二千六百四十八「エーカー」
巴里	「ボアード、ブーローヌ」公園	二千百五十八「エーカー」
ウインナ	「ブラッター」公園	二千「エーカー」
倫敦	「セント、ゼームス」公園	一千七百五十二「エーカー」
新克約	「ペルハム、ベー」公園	一千七百「エーカー」
セント、ルイ	「フオレスト」公園	一千三百七十二「エーカー」
新克約	「セントラル」公園	八百四十「エーカー」
デツロイ	「ベル、アイスル」公園	七百「エーカー」
伯林	「チーヤー、ガルテン」公園	六百三十「エーカー」
シカゴ	「ジヤクソン」公園	五百八十六「エーカー」
ブルックリン	「プロスペクト」公園	五百十六「エーカー」
倫敦	「リゼント」公園	四百七十二「エーカー」

ボストン	「フランクリン」公園	四百六十七「エーカー」	
シカゴ	「リンコルン」公園	四百「エーカー」	
倫敦	「ハイド」公園	三百八十六「エーカー」	
同	「ケンシントン、ガーデン」公園	二百十「エーカー」	
シンシナチー	「フェーニックス」公園	九十一「エーカー」	
巴里	「バルク、ド、ショウモン」公園	六十二「エーカー」	
ボストン	「ジー、コンモン」公園	五十「エーカー」	
同	「パブリック、ガーデン」公園	二十四「エーカー」	

保健の實は公園によつて擧げらるべし

公園も亦一種の學校

公園設立の目的夫れ何くにありや。都市發達に伴ふ人口の增殖は、遂に住民の體質を弱め、健康其宜を得ざるが爲めに、廣濶なる地積を卜し、之を蓊鬱たる樹林及び麗々たる花卉とを以て蔽はれたる爽快なる樂土となし、以て保健の實を全ふせんとするにあり。然るに社會の進運は公園の目的をして單に保健の一事に制限するを欲せず。公園元來の目的たる保健は更に進化して或は娯樂、或は美術、或は敎育の要素を加へ、公園も亦一種の市民を訓育する

インスチチユーション學校とならんとするに至れり。之を以て吾人は公園を名けて社會的敎場なりと謂はんと欲す。如何となれば園裡に各種の敎訓的設備をなして以て市民を敎ふる所あればなり。吾人は公園の娯樂たり、美術たり、敎育たるが故に我國の將來に於て造築せんとする公園は少くとも、左の要素を加味して、以て公園其物の目的を完うせんことを望まざるを得ず。

（一）動物園
（二）植物園
（三）圖書館
（四）博物館
（五）演劇場
（六）講演館
（七）音樂堂
（八）寄席
（九）運動場

（十）遊戲場

（十一）料理店

以上列擧したる者の或要素の如きは、素より歐米各國に於ける或公園に於ては實行せるものありと雖、其は單に動植物園、音樂堂、運動場、遊戲場等に過ぎず。吾人は更に進んで圖書館、博物館、演劇場、寄席等をも附設して以て、盛んに庶民の敎育に從事せんことを望まざるを得ず。如何となれば現今の敎育制度は餘りに六ケ敷過ぎるの嫌あるを以てなり。敎育は必ずしも四角四面にあらざれば爲し能はざるものにあらず。或は談笑の裡に、或に飮食場裡に、或は抱腹絶倒頤を解く場合も、亦事と品とによりては能く人を敎育訓練し得らるゝものなり。かるが故に若し敎育は學校、敎會、寺院等に於てし、軟派的敎育公園に設備したる音樂堂、劇場、博物館、動植物園、寄席、圖書館、遊戲場に於てせんことを希望せざるを得ざるなり、是れ庶民の敎育としては入り易くして行ひ易きところあればなり。

吾人は如上開陳したるが如く公園の起原、並に其社會的位置に關しては略ぼ云はんと欲する所を盡したり。然り而して公園の發達は遂に小公園の設備すべきことをも誘發し來りぬ。

英米の所謂小公園即ち「コンモン」Common. なるものは敢て新奇なるものにあらず。米國ニューイングランド各州の如きは、既に十七世紀に於て其存在を見るを得たり。小公園は元、家畜を放牧するの場所として使用し來たりしが、都市の發達と共に後には市民の爲に用ひらるゝに至れり。「フートボール」競爭、網引、角力等は多く茲に於て試みられ、特別なる設備は、未だ此の小公園に施されざりしが、最近三十年以來都市の發達と共に公園の改造行はれたりしかば、暫く忘れられたる小公園も世の注意を喚起し來り、今日となりては公園設備は鉅資を要するを以て到る所に造營する能はず、之れが爲に小公園は到る處、殊に貧民部落に必要條件として、附設せらるゝに至りぬ。一千八百八十七年、新克約の市長ヘウィット氏は公園を設備するに法律によるが如く、小公園をも亦法律を以て設備せんことを注意し、爾來歐米各都市に於

ては小公園の設備は必ず公園の造營に隨伴するの一事業となるに至れり。小公園の法律保護の許に初て造營されしは千八百八十七年新克約市マルベリー小區劃にして、爾來斯の如き區劃の小公園は、貧民部落の隨所に設備せらるるに至りぬ。貧民の至樂豈其れ之に過ぐるものあらんや。

盛んに公園を設備せよ

小公園の發達は竟に遊戲園 Play ground. の設備を誘發せり。此の運動の盛んなるは英米獨を以て其最となす。新克約の如きは一百を以て算立するに足り、遊戲園並に之に類似する設備の爲に要する經費の如きは、毎年夏季中のみを以てするも、概ね四萬七千百十一弗に及べり。其壯觀洵に羨望するに足るものあり。

吾人は我東京市に於ても公園を發達せしむると同時に小公園並に遊戲園の設備の完からんことを囑望せざる能はず。蓋し人力車、自轉車、馬車、電車の絡繹たる我東京市の如きは、兒童の樂土たる遊戲園の設備は、之を保健上より云ふも將又娯樂、敎育の點より論ずるも、一日を緩うす可らざるの急務

是れ都市の發達に伴ふ必要條件

たり。吾人は日露戰役の餘榮を擔ふ我國家の發展に伴ひ、社會的經營の一として公園、小公園、並に遊戲園の設備に全からんことを囑望す。蓋し如上の設備は我國都市の發達に伴ふ必要條件たるを以てなり。

十、公園の道徳

自ら樂むと同時に自ら備ふ●お國自慢の大和民族も亦拒むに由なし●歐と米との公園の異なる所●巡査の立番は國家の恥辱●惡魔の廣告●

自ら樂むと同時に自ら備ふ

公園を組織する要素は種々あれども、最も多く人の耳目に觸るゝものは娯樂の分子なり。目を以て青草綠樹扱は園内に飼育する珍奇なる動物を眺め、耳を以ては嚠喨たる音樂を聞き、鼻を以ては珍草奇卉より放射する芳香を嗅ぎ、手の動くところ、足の達するところ、一として人を喜ばしめざるものなし。是れ公園の特色なり。然れども樂まんと欲するものは、豫め已に備ふる所なかるべからず。如何となれば自由意志の活動するところ、動もすれば我儘となり、放縦となり、其の結果は花卉を折り、池水を汚がし、道路を破損し、公共の營造物に向つて損傷を試むることなしとせず。是れ入園者の自から戒めざるを得ざるところなり。若し此頃流行するところの言葉を以て、如

お國自慢の大和民族も亦拒むに由なし

上述べ來りたる自戒すべき事項を言ひ表はすときは、公徳の二字に縮寫せらるべし。泰西文明の輸入と共に工夫せられたる新しき道徳語數ある中にも、公徳の二字の如きは屢〻繰り返さるゝ言葉にして、而も實行の困難なるものなり。吾人は歐米各國の公園を參觀して、彼國の人々が如何に公徳に發達せるかを感ずること轉た切なるものありき。此點に關しては、我邦人の短所にして彼の國人の長所たると、如何に國自慢の大和民族も、最早之を拒むの餘地なかるべし。

今後市行政の改善せらるゝと共に公園の設備は、到る所に行はるべし。隨て公園を利用するもの日々に多きを加ふるは自然の結果にして、寧ろ大に喜ぶべきことたり。然るに纔かに發達せんとする今日の公園すらも、入園者の多くが花卉立木に對して、惡戯を試むるとの多きは言はずもがな。更に進んで公園の影暗き所に、曰く紫式部、曰く書生體のもの、隱顯出沒するとの噂は吾人が日々の新聞紙上によりて知るところなり。勿論此の如きの報道は誇張の言に過ぎざるべしと雖も、煙のなき所に火は起らず、狐の尾の在る所に

は必ず狐の伏在するものなり。吾人は腐敗の程度甚しからざる今日に於て、此等の事項に就ては、充分に注意し置くの必要を感ず。加之公園は一人の公園に非ざること、を記憶せざるべからず。衆と共に樂しむと云ふ言葉は、文明の道德にして、別ても公園に於て其の然るを見る。然るに己一人樂まんと欲して多數の人に不快の感情を與え、倘進んでは他人の娯樂を妨害するが如きことありては、公園道德に反すること最も大なりと謂ふべし。之を以て公園に樂まんと欲するものは、見苦しからざる容姿をなし、惡感を與へざる言葉を交へ、共に樂しみ得る丈の資格を備ふることに注意し、又實際に之を行ふところなかるべからず。

歐米公園の異なる所は、其公園の取締最も寬大にして、入園者が自由に青草の上、又は綠樹の蔭に橫臥睡眠し得る歐に反し、米國に於ては、公園巡査なるものありて、頗る其の取締を嚴重にするが故に、公園に一夜を明かして眠るが如きは斷じて許さざるところなり。斯の如く歐米の差異數へ來らば種々あるべしと雖も、米の公園に巡査を配置して、歐の公園の巡査の立番なき

は漫遊者の目に着き易きところなり。吾人が栖息する社會に窮屈なる法律の必要ある所以は、畢竟罪惡の存在するあればなり。罪惡の存在は心の慾より發す。吾人若し今にして警戒する所ろなくんば、任意の娯樂に供せられたる公園は、遠からざる將來に於て巡査の立番を以て滿たさるゝに至るべし、樹木の立番は公園の特色なれども、巡査の立番は國民の恥辱なり。吾人の斯く謂ふ所以のものは、過る日、終日淺草公園を社會的に視察したりしに、元來娯樂を衆人に與へんが爲めに起りたる同公園は、今や魔窟と變じて妖魔の跳梁する所ろとなれり、見よ凌雲閣の周圍に於ける光景を。曰く銘酒屋、曰く新聞縱覽所、曰く何々醫師出診所等名稱に於ては毫も差支へざる仰々しき看板を掲ぐるも、其實は惡魔の廣告なり。最早警察官すらも手の施すべきなきに到れり。吾人が公園道德を唱道する蓋し已むを得ざるに出づ。公園は市民が疲勞を醫するの場所にして、之と同時に精神を高調し、心志を發揚するの閑地なり。然るに我東京の公園が今日既に其の歷史の一頁を汚されたるを見れば、將來のこと轉た深憂に堪えざるも

のあり。吾人は當局者に對して公園の設備を奬勵すると共に、市民自が公園道德を養成するに吝ならざらんことを望むや切なり。

健康は人類の最大恩惠・飲食の快樂・睡眠の快樂・勤勞の快樂・健康は人を樂觀せしむ・

十一、健康は賜なり

神より人間が賜りたるものは、數へ盡すことの出來ない程多いが、別けても健康は賜中の賜である。人間としてこの世中に生れ出でたる以上は、一生を樂んで暮すと云ふことは、大切なる生存の條件である。然るに如何であらう、身體が惡るかつたならば、必ず他の人の樂しき現世は、自分に取りては不愉快の極である。凡の人世を悲觀するのも、將亦樂觀するのも、其の原因を繹ねて見ると、身體が健康であるか否かと云ふことに大なる關係がある。斯う考へて見ると、身體が健康であると云ふことが分かる。一度健康が神の特別なる賜であると云ふことが分つたならば、必ず人はその健康を害はないやうにするであらう。然るに世人はこ

の道理が分らないで、放蕩に身を持ち崩したり、不養生に身體を害うたりして、遂には貴き人生を悲觀するやうになり、失望落膽の結果は、自暴自棄して、現世を終るのは洵に慨嘆すべきことではあるまいか。

健康が產み出すものは、幾何もあるが、自分は特に三つを算立しやう。

第一、は飲み食いの快樂である……飲み食いすることを云ふと、世人は卑しいやうに思ふかは知らんが、自分は決してさう思はない。人世の快樂の內、飲食の如きは樂中の樂である。而かも絕へず、毎日繰り返へす樂である。飲食を樂むと云ふことは、舌に卑からざるのみならず、有益に活動する人間には、之を樂むやうでなくてはならない。然るに少くとも毎日三度繰り返へす斯樂は、如何にして得らるゝかと云ふに、先づ身體の健康より來るのである。身體の加減が惡くては、樂んで飲食することは出來ない。之は予一己の私言でない。米國に於て大統領ルーズヴェルト氏と其人格と學識とに於て相拮抗して居る『ハーバード』大學の總長エリオット氏も此ことに就ては左の如く言つて居る。

吾人は飲食よりも高等なる快樂あるを認めたるも、亦之と同時に毎日三回の食事は、常に新なる無害なる滿足を吾人に與ふると共に、他のあらゆる滿足の必要なる基礎を供するを認めざる可らず。健全なる人に對しては、飲食は大なる快樂にして、飲食の滿足を樂み得ざる人の擔當力を有せざるなり。

人は、如何なる種類の快樂をも十分享け得ざるのみならず、何等有用の事に對しても、多く

尙進んでエリオット氏は、食慾の如何は、身體健否の如何に存することを說きて、左の如く言へり。

何人も森林若しくは山野又は海上等に於ける粗食は、夫の屋內の最も贅澤なる飲食よりも、遙に美味なるを感ずべし。而して食慾の如何は、健康の強弱に由るを以て、青年諸君は須らく齒と胃とに十分の注意を拂はざる可らず。諸君は食事より快樂を得るを恥づることなく、寧ろ之を得ざるを恥ぢよ。

如上の如き理由は、吾人に食物を樂んで食し得る丈の健康を持ねばならぬことを敎ふるのである。必ずしも卑しいことゝして擯斥してはならぬ。

第二、は睡眠ることの快樂である……人間は一晝夜二十四時間を八時間勤勞いて、八時間休憩み、八時間睡眠るといふのが、先づ普通の規則である。

然るに睡眠ることが出來ないで、困つて居るもの、多いのは何たる變調であらう。身體が常の如くあつたならば、何人も夜の十時頃になると、自づと睡眠を催ふすのである。終日強く働いた者には、夜具の硬軟や、寢場所の如何に係らず、熟眠を催ふすことが出來る。其れが出來ないで徹宵苦悶し、其苦しさの餘り「モルヒネ」でも呑まなければ、睡られないと云ふのは、身體に缺點があるからである。健康體は啻に食事を進めるのみならず、睡眠を催さするのである。健康なる人には食物の快樂なるが如く、睡眠も亦實に大なる快樂である。睡眠る時の難有さ、睡眠つた後の快心なこと等は、少くとも人生の快樂でなくてはならぬ。斯る快樂は健康の賜なりと謂はねばなるまい。

第三、は勤勞の快樂である……世には勤勞すると苦勞なりと思ふ人と、勤勞ほど愉快なるものはなしと觀ずる人とがあるが、この差違は如何にして生ずるであらうかと云ふに、精神上より見れば、人生觀の相違によるのである。世人は勤勞の大切なることを知ないでもないが、病弱の人には勤勞は苦痛なるものはあるまい。之と

反して身體强健の人には、有益なる仕事に從事する程愉快なることはなからう。人生を悲觀するも、亦樂觀するも、人の健康によることの多きを知らば、神より賜りたるこの健康を、常に失墜せざるやうに注意し、賜りたる健康によりて人を助け、邦に益し、其人の働によりて、少しにても人間の幸福を增進することが出來たならば、これ程愉快にして面目あることはあるまい。

之を要するに人世の最大要件たる飮食、睡眠、勤勞の三つを、快樂として享受するに至るのは、主として健康の如何に依ることであるから、修養を重んじて、人格を造り立てると同時に、身體を訓練して、健康を增進することを夢忘れてはならない。

十二、學生風紀問題

學生墮落何等厭ふべき聲ぞ●之を改善する道具備せず●第一の誘因は下宿屋●直接の原因●間接の原因●紳士の墮落●然らば之を矯正するの道ありや●中學生を東京に遊學せしむるを避けよ●家庭的寄宿舍●取締を嚴重にす●教會又は學會に關係をつけよ●官學者流の措置●

學生墮落の聲は、數年來吾人の屢々耳にする所にして、余輩亦留心苟もせざる問題なり。而して余が東京に於ける學生社會の狀態を研究するに至れるは、專ら消極的方面より來れり。蓋し平素監獄改良の必要を感じ、犯罪の卵子なる不良少年の感化は、一日も輕忽に附す可らざるを認め、如今親しく斯業に從ふが故なり。

不良少年なる者が、下等社會と貧民部落に多きことは多言を要せず。故に先づ芝新網、四谷鮫ケ橋、下谷萬年町等の探究を爲したり。試に是等の部落

に至れば、五六歳より十二三歳のもの此所彼所に彷徨し、掏摸窃盜となりて社會に害毒を與ふるもの、其の幾百人なるやを知る可らず、斯くて余は感化事業の要を感ずること益々切なるを致しぬ。之と同時に府下數萬の學生の狀態奈何を究め來りて、其間實に由々しきものあるを知るに至れり。彼の白袴隊、芙蓉義團の如きを始め猥褻、破廉恥の行爲を敢てする者少なからざるを見、遂に警視廳、及び警察署等に就て調査する所ありしが、以下記す所は實に其の大畧なり。

方今、書生中、所謂墮落したるもの、種類は、私塾及び中學程度にある十六七歳より二十歳迄の青年に多し。抑も習慣犯者の多數は、十八九歳頃の墮落より來るものなれば、此際に改善し得るの道を講ずれば、大に犯罪を減少し得べし。然るに當今十八九歳の青年を驅りて、之を墮落せしむる機會多く而して未だ之を改善せしむるの道具備せざるは痛嘆の至りに堪へざる也。昨年末の調査によれば、本郷區内の學生數は下宿屋に居住するもの四千五百人、一私人の家庭に寄宿する者千五百人、總數約六千人なりしが、其他神田を始

め各區を總合すれば數萬人に達すべし。是等學生をして墮落せしむるものは、抑も何者ぞ。

第一の誘因は下宿屋

先づ下宿屋其物の不完全なるは、何人も容易に認むる所なるが、又下宿屋に於て飲酒を自由にして、隨意に酒を飲ましむるとも墮落に導く一因なり。次は高利貸業者數多ありて證人を立つれば漫りに借金することを得しむることなり。次は骨牌の遊戲盛んに行はれ、宛然賭博に均しきことなり。次は女義太夫の寄席に入りて、精神柔弱となることなり。次は不潔の文學なり。若し夫れ團體を造りて猥褻の所業を爲すに至りては言ふに忍びざるもの、甚だしきは不品行を爲すに適應せる器具を販賣する者あり。次は下宿屋の下婢たる者、往々利益問題より不潔の振舞をなすあり、又下婢と云ひ、主人と稱するも、皆孰れも人情輕薄にして、萬事算盤上より云爲するものなれば、學生の精神上に好ましからざる影響を與ふるに至る、是等は則ち直接の原因と見做すべし。

直接の原因

更らに間接の原因を見るに、今日上流に位する紳士の不德不義の行爲は新聞紙上、毎日讀下する所にして藝妓、蓄妾等に對する所謂紳士の記事は日として之を見ざるなし。故に不義を爲す者は、其伴侶の多きと、實例の數多あるとに慣れ來り、遂に毫も疚ましからざる者と爲す。又一般に師弟の情誼失せ去りて月謝を得れば敎へ、授業料を拂へば習ふとを得べしと爲し、殆んど物品交換の狀あり。是れ又墮落を助くるに大なる力なりと謂ふべし。更に其道に通曉せる人士の談にによれば、看護婦會と稱する者の中には、學生を墮落せしむる設備少なからずと云ふ、蓋し看護婦會なるものは幾多の妙齡なる女子を養ふ所なれば、斯かる關係なしとは斷ずべからず。又女學生にして下宿するもの、近時漸く多きを加ふるに至りたれば、規律なき下宿生活が、遂に相互の身を誤らしむるに至るは、屢々吾人の見聞する所なり。

然らば如何にして之を矯正すべきや。

始め有志の者、地方的感情を利用して一團體を造り、自ら矯正の必要を感じたるもの、數種現はれしが、奇怪にも其團體自ら一層腐敗し去りたるを見る。故に地方的團體のみを以てしては未だ容易に滿足すべからず。

間接の原因

紳士の墮落

然らば之れを矯正するの道ありや

余の所見を以てすれば、中學程度の學生は精々地方より東京に遊學せぬやう、父兄に於て注意せざる可らず。（東京在住は勿論止むを得ざること也）年齢十七八歳の時分は、最も危險なる時代にして、二十歳以上に至れば思慮稍定まるものなれば、十八九歳の青年は可成丈上京せしめざるを上策となす。

中學生を東京に遊學せしむるを避けよ

家庭的寄宿舍

第一、家庭的寄宿舍を造り親切なる主婦之に當ること。茲に適當なる遊戲の方法を設け、外出して女義太夫及寄席、芝居等に赴くの感を起さしめざるを要す。蓋し今日の下宿屋に在りて娯樂の設備少なきは、青年を墮落に導く最大原因なれば也。又食物の不充分なるは學生に不平を起さしむるものなれば、家庭的寄宿舍に於ては、利益のみを專務とせず、這般の消息に注意し、情誼を以て待遇せざる可らず。夫れ學校の教育如何に完備するも、各自の居住する所にして冷淡酷薄以て情感を破壞せんか、到底好結果を得るの時非ざるべし。之には從來の舍主會長となり、慈善的精神を以て計畫するに如かず。

第二、未丁年者をして上京せしめざること。是れ前述せる如く未丁年者は最も身を誤り易きが故なり。

取締を嚴重にす

第三、警視廳の權力を假つて、一層嚴重に取締り各學校と聯絡を取ること。去る二月中、吉原に嫖客となりたる學生數は一千〇七十七人なりと云ふ。而かも實際を調査すれば三千人以上あるべし。されば是等學生の姓名を明記して警視廳より月表として毎月各學校に報知し、其增加と減少との割合を示して學生監督の責任を問ふの必要あり。

教會又は學會に關係をつけよ

第四、教會又は學會等と關係をつけしむること。則ち學生をして宗教的團體、教育的團體の一員たらしめんか。不潔の場所に出入することは自ら止まるに至らん。之には校長始め役員等の盡力を希はざるを得ず。

宜學者流の措置

要するに學生の風紀は昨今喧しき問題にして、世上種々の計策を立つるものあるが如し。當局者も夫々注意せざるに非るべけれども、文部省と云ひ、各學校長といひ、系統的學校以外の學生に對しては其措置頗る冷淡にして、

對岸の火災視するの觀あるが如し。試に思へ教育の道豈に獨り學校の教育のみに限るべきものならんや。學校教育は完備せりとするも、常に出入する學生の居住が不道徳と不潔とを以て滿され、一日暖めて十日冷すが如きことをなさば其効果何れにか認め得べき。學校の規則や建築等に注意が行き届きて、其根本たる被教育者の身上、品性に無頓着なるは、畢竟半身不遂の畫策たるを免れざるべし、思はさるべけんや、

十三、誰れか最善の教師たる

人生師なかるべからず・一經驗是れ最善の教師・

我れを生みしものは父母也。我れを第二の人に作り出だせしものは師なり。父母ありて我れ世に出で、師ありて我れ人となる。人生誰れか父母なからん。左れど人生師なきものあり。最善の教師なきもの、不幸は、幼にして父母を失ひたるもの、不幸に優る。人生師なかるべからざる也。

然らば誰れをか以て最善の教師となすべき。人か否らず。書か否らず。山に非らず。水にあらず。曰く唯だ一の經驗にあり。吾人は多くの意味合より論じて、經驗を以て、最良最善なる教師となす。健脚家たらんとせば、先づ歩まざるべからず。雄辯家たらんとせば、先づ說かざるべからず。著述家たらんとせば、先づ書かざるべからず。書く、云ふ、歩む、是れ皆實驗にあらずや。

人生師なかるべからず
一經驗是れ最美の教師

語に曰く『獵は鳥が教へる』と。洵に然り。『都をば霞と共に出でしかど』と歌ひし法師の如く顔ばかり日に乾して居ては、色が黒くなるかは知らねど、歩まねば白川の關は愚かのこと、村の外づれ迄も旅は出來ぬ譯なり。鳥に教へられつゝ幾重の山野を跋渉し、初めて最良の獵師たることを得べしと云ふ右の古語は、洵に能く經驗の大切なることを教へたる明言と謂ふべし。豈に獨り獵のみならん。人事百般、概ね斯の如し。

十四、傳道の姉妹事業

基督教の丸呑●基督教徒の謬想●教育と慈善を以て傳道の姉妹事業となす●二者は鳥の兩翼也●僧侶無學の罪●傳道師却つて時勢に後る●智識の欠乏●其基礎は尚頗る薄弱●識見の狹小眞に驚くに堪へたり●慈善事業の黒幕●基督教の力を事實に証明せよ●乞ふ少しく歐米の例を見よ●

基督教の傳道されし以來、日尚淺いが、約四十年の歳月を經た。之を人間に喩へて言ふと、則ち初老である。比較的傳道事業は成功しつゝあるには相違ないが、吾人の希望したる程に傳道事業が成功しないかと言へば、それには種々の原因があるが、就中基督教を丸呑みにしたと云ふことが、大に進歩を障礙する基となつたものであらう。丸呑みしたとは、如何なることかと言へば、明治初年我邦の舊文明は輕蔑せられ、單に新文明と云ふものが、深き考も何もなく時

勢の發展に伴ふて歡迎され、隨つて歐米の物は何でも善く、日本殊に東洋の物は總て宜しくないと云ふことを深く感じた餘り、日本の善き事も打忘れて、西洋なれば何事でも宜いと思つて居るところへ、風姿も變り、人種も異なり、言語も違ひ、習慣も違ふ宣教師が出て來て傳道したのであるから、溜まらない。彼等は西洋人そして西洋人は善きことを教へるものと、斯う云ふ極く單純な考へから、丸呑みに向ふの習慣、風俗、其儘の基督教の傳道を受けた。而して其の傳道をするには日本人の性格とか、日本人の狀態等には毫も考へ及ばず、一も二もなく、西洋の事なれば宜い、と云ふやうな考が、傳道事業に對しても、傳道の精神にも、亦充滿して居つた。尤も今日は大分變つて居るやうで、稍や日本的になつては居るけれども、兎に角從來は其樣な風でやり來つたものであるから、一言で言へば基督教の丸呑み、他の言葉で云へば日本の生活狀態に、外國直輸入の基督教が適當うて居らなんだとが、傳道事業に思はしき成績を擧げなかつた原因である。斯樣に言ふたのみでは話が能く分るまいが、傳道して居る者は勿論、即ち信者と教役者とを問はず、唯だ傳

道さへすれば、日本國は基督教化される者であると云ふ考を、長い間持つて來た。幸に今日に於ては多少悟つたかの容子であるけれ共やはり其樣な考を有する者が多い。それが傳道の成功せざる所以であらうと私は思ふ。而かも基督教が日本の生活狀態の中に喰入つて往かなければならぬと云ふことに就ては、是れはなか〳〵廣い問題である。譬へば政事の方面、實業の方面、文學の方面、其他種々なる社會の方面がある。斯かる多方面の生活狀態に喰入ると云ふことに付ては、問題が餘りに廣漠であるから、今爰に之を論ずる譯に行かない。けれども少くも傳道事業を豫期の如く成功させるに付ては、是に伴ふ事業を遂行しなければならぬ。言ひたい。即ちそれは何かと云ふに教育と慈善事業とである。自分は之を名づけて傳道の姉妹事業と云ふ。大凡人の情として物に熱心する餘りに自分の爲して居る事だけが善く行けば、『キングドム、オブ、ゴッド』即ち神の王國が此の世の中へ來るやうに思ふ。それは熱心の餘りであるから、敢て咎むべきことではないけれ共物を成功させることに、到底一方のみの熱心ではいかないやうである。詰り傳

道事業のみが宜く往つても『神の王國』なるものは、日本に來はせないと思ふ。だから此の傳道事業と最も密接なる關係を有して居る所ろの、敎育及び慈善事業が能く往かなければ、決して基督敎は日本のものとなることは六ヶ敷いであらう畢竟するに傳道事業の思ふ程、效果の擧らざる所以は、即ち此の二つが能く行はれないからである。譬へて見れば鳥が如何して、空中を高く遠く翺翔ることが出來るか、と言へば強き胴體に、健かなる兩翼があるからである。其兩翼が強く健全であるから、空氣を搏て何百里何千里と云ふ遠き空中を翔ることが出來る。傳道の天下に行はるゝのも亦斯樣な譯のもので、鳥の兩翼の如きものがなければならぬ、其兩翼となるべき者は何であるかと云ふと、即ち敎育と慈善である。此二つの事業に依りて傳道も、天下を橫行濶歩することが出來る。然るに敎役者たる人々は、此の方面を打忘れて居らるのではなからうか。忘れざるにしても、我等が重んじて居る程、而か重んじて居らないのではないかと自分等は心竊かに案じて居る。若し此等の方面を熱心に考へて居らるゝならば、今少し敎育事業、慈善事業に對して慥かな

る見識もなければならぬし、趣味も出て來なければならぬ。自分の見る所は謬であるかは知らぬが、どうも多くの敎役者たる人は、其方の考が餘程薄くはあるまいか。要するに傳道事業を有效ならしめんと欲せば、傳道事業と共に敎育慈善の兩事業が、足竝を揃へて健全なる發達を遂げなくてはならぬ。左もなければ決して『神の王國』を我國に來たすことは覺束ない仕事だと思ふ。今日では大分僧侶社會も、敎育と云ふことに重きを置き、一定の敎育を受けなければ、住職にはなれないと云ふ政府の法律も出て居るやうなことであるから、自から其子弟も敎育を受け、又好んで敎育に從事すると云ふやうな傾向になつて來たので、多少名譽も恢復されたやうであるが、今から十年二十年前の坊さん達が、世間の有力者から、顧られなかつたのは、一に僧侶の無學と云ふことに歸著するのである。世間普通の學問は勿論のこと、自分の本業たる經文すらも能く讀めないと云ふやうな坊さんが澤山あつた。而してそれらの人の品行が惡いとか、模範的行爲を示すことが出來ないとか云ふことのみでなく、智識の點に於て、將亦見識の點に於て社會の信用を失ひたる所以であ

傳道師却て時勢に後る

る。自分をして憚なく言はしむれば、今日傳道に從事する教役者諸君も、亦其やうな覆轍を幾分か蹈んで居りはせぬか。と云ふのは今日の傳道が當初豫期したる如くに振はない所以を探るに、どうも教役者たる者が、時勢に後れては居ないかと云ふとにありはせぬかと思ふ。私共が今から三十年前に基督教を信じ、何も分らないのに傳道をして、幾分の信者を造り得たと云ふのは、何であるかと言ふと、其時は萬國史位のものが讀めれば、先づ英學者と云はれ、其當時は社會に無學の人が多かつたから、隨分それだけでも相應の尊敬を受けて傳道が出來た者である。然るに今日は時勢が一變して普通教育なり、高等教育が非常に進歩普及し、日本の文明の中でも教育は最も進歩した者の一つである。官公私立學校の設備、又教育に關する法律行政などゝ云ふものも餘程整頓して、一般に教育と云ふものが進歩した割合に教役者が進歩して居るかと云ふと、さうではないやうである。一二の例を云ふと三千戸や四千戸位の町では、大抵中學校のやうなものがあり。師範學校があり、從つて中學校の校長、師範學校の校長がある。そ

習識に缺乏

れらの校長は如何なる人であるかと云ふと、大學若くは高等師範等を卒業して數年間教育界に働らき、比較的人物にして學識のあるやうな人を校長に推薦し、又其下には文學士、法學士、農學士と云ふやうな人達が何人も居て、中學校や師範學校が組織されて居る。而して其學士の多くは英佛獨の孰れかが出來る、能く出來るものは二ケ國や三ケ國の語學には長じて居る。然るに同じ土地に住んで居る教會の牧師を彼等に比較するに、果して其だけの學力があるかと云ふと、遙に學力の點に於て劣つて居る者が多いと言はなければならぬ。既に教育の點に於て教役者たる者が、其土地の智識界から後れて居る。然らば教育は後れて居ても、人格なり信仰なりが、高く且つ深いかと言ふに、夫れも甚だ疑問である。

夫れから基督教徒の機關たる學校にしても、今日は餘程一般の教育に比して後れて居るやうで。基督教主義の學校が、今から二十年前に歡迎された如くには、中々社會から歡迎されない。却つて基督教主義の學校には、學力劣等にして、品行の惡い者が多く居ると云ふやうな噂がある。それが虚説にもせ

よ、少なくとも惡評を受けるやうに成て來て居る。人々が基督敎を信せないのは當に世の中の人が罪が深くて基督敎に入れないのみならず、又傳道に障碍が多いから傳道が效を奏せないのみでない。敎役者たるものは少なくとも傳道が思ふやうに出來ないとに就ては、深く考へて見ねばならないことがあ

其基礎は尙頗る薄弱

りはせぬかと思ふ。

慈善事業のことに就ても少しく論じて見やう。日本の慈善事業は一般から云へば甚だ幼稚な者である。其幼稚なる慈善事業の中に於て、基督敎の慈善事業は比較的宜いと云はなければならぬ。併ながら是も今日に於て大に警戒を加へなければならぬ必要がある。と云ふのは宜いと言はれて居る其の慈善事業の基礎は、隨分薄弱なものではあるまいか。非常に盛にやつて居た慈善事業が、失敗に歸したと云ふ例は一二にして足らない。又社會には慈善事業を遣て居る人の人格に付て、兎角の批評を試むる者もある。『自ら立てりと思ふ時は倒れざるやう愼むべし』で、我黨今日の慈善事業に就ては、大に警戒しなければならない必要がある。是は慈善事業を行つて居る者の內部を言ふ

識見の狹小眞に驚くに堪へたり

たのであるが、慈善事業をやらせる敎會なり、或は又敎役者は如何なる考を有するかと云ふと、慈善事業に就ての考が極く幼稚で、之に對する同情も甚だ薄いやうである。勿論傳道者又は傳道會社に自費を投じて迄も、慈善事業を助けるとか、或は慈善事業を爲すべき基礎を作り出せとか云ふやうなとは、元來無理なる注文であるが、傳道の爲に巡回した折などには、慈善院を訪問するとか、或は慈善事業を經營し居る者に聲援を與へるとか、精神を鼓吹するとか位のとは、金がなくとも心掛一つで出來ることである。其樣なことに付ても傳道に從事して居る人に、一向考へが乏しいといふとは誠に歎しい次第である。甚しきは聞く所によると慈善事業の爲に音樂會を催すとか、各種の方法を以て、慈善事業を助けんとして集金でもするとあらば、敎役者の或る人々は、敎會の寄附金に影響せずやと杯と考へて、其美擧を贊成せない人もあるとのことである。洵に小さき池中の魚みたやうな考で、廣き趣味、深き同情を以て善き事業を何處までも助け、出來得る限りに於て此等の事業を發展せしむるといふ考のないとは、實に歎はしきことではあるまいか。自分の希

望する所は教役者たる人は、慈善事業の黒幕となり、併せて之を助くるに信仰と精神とを與へて、誠意誠心其事業が健全なる發達を遂ぐる樣に盡力して貰ひ度いとである。斯樣にして行く時は、傳道は即ち最上の慈善事業であり、慈善事業は即ち傳道であり、傳道は即ち教育であり、教育は即ち傳道であつて、此等は相互に原因結果となりて思はざる邊に傳道の門戸が開けるものである。

一體基督教の宜いといふことは、何に由て證據立てるかと云ふに、善い行ひをするといふことに依りて、證據立てるより外はあるまい、「惡き樹に惡き實を結び、善き樹に善き實を結ぶ」と言ふやうに、其實に依りて其樹の善惡を知らすることが傳道の祕訣である。眞に基督教の善き實を見やうとするならば教育や慈善事業の如き有益なる仕事を見なくては何が善であるか、サッパリ譯が分らぬ。何も見せずに決して傳道の出來るものではない。それで私共が昔神學校に居つた當時、學んだる書籍中に、紐育（ニューヨーク）の慈善界の泰斗でチャールス、ローリング、ブレースといふ人があつて、其人が人道の發展即ち『ゲスタ、クリスタイ』といふ書物を書いた。この書は基督降誕後千有餘年の間に於て、基督教の感化に由りて、慈善事業が發展したと云ふことを證據立てた書物であります。それを私共が神學生の時に基督教證據論の參考書として用ひ、又其れを讀んで基督教の感化の偉大なることに感奮したのである。此等は即ち基督教の社會を改良するに、與つて力あることを示す所の有力なる傳道である。故に斯樣な意味に於て自分は傳道の姉妹事業として慈善事業、教育事業を盛んに起さなければならぬと考へるのである。例へば夫の教育の大家たるペスタロッヂの如き、當時は兎角の批評もあつたが、彼は熱心なる基督教徒である。更に或る意味に於て偉大なる慈善家である。又十七世紀には有名なる教育家であるコメニオスと云ふ人があつた。此コメニオメと云ふ人は墺太利匈牙利に生れた「モラビヤ」教派の牧師であつた。彼は非常な力を以て、當時の教育を改革し、其主義精神は、今日二十世紀の教育上に偉大なる力を現はして居る。其他傳道者にして教育家たり、慈善家であつた人は、枚擧に遑まなき程である。之を要する

乞ふ少しく歐米の例を見よ

に基督敎主義の敎育事業、慈善事業と見て差支ない。私共の今日慨みとする所のものは何であるかといへば、日本の敎役者たる者が、敎誨のみすれば宜い、傳道さへして往けば宜いと云ふことにのみ眼を注ぎ、敎育と慈善の方面には、餘り力を入れないといふことである。故に自分は傳道政策として『神の王國』を日本に建設する上に於て、傳道事業に關鍵して、敎育と慈善事業を盛にしなければならぬと思ふ。又敎役者たる者は此點に於て現在及將來を考へ、心靈界の『キングドム』を建設する上に於て、充分の考慮を要さなくてはならないと思ふのである。今や我國の社會は『廻り舞臺』となつた。之が爲め、社會を敎化せんと欲する者は、とくと此邊に熟慮を要さなくてはならぬ。然らずんば我國を敎化することは到底覺束ないと思ふ。

十五、大阪府圖書館

讀書と旅行・人類は時間の中に棲息す・富豪住友・以て洪恩の萬一に酬ひんとす・

馬琴曾て長途の旅行を試み終りて『羈旅漫錄』なる一書を著はし、其卷末に敘して曰く「萬里の道を往く能はずんば萬卷の書を讀め」と。凡そ人智を開發し、見聞を博大ならしむるに於て、偉大なる勢力を與ふる者は、旅行ならずんば讀書なり。蓋し近世的文化の粹は、讀書を通ふして來るものゝ如し。於是乎人文を進め、民福を增進せしめんとには、讀書の習慣を勸奬せざる可らず。然り而して讀書の習慣を勸奬せんとせば、圖書館の設備なかる可らず。此故に歐米文化の粹を競へる都市に於ては、市政の一として圖書館を設備せざる者なし。夫のボストン市に於ける公立圖書館。グラスゴー市に於ける「ミツチエル」圖書館の如き其一例證に過ぎずと雖、歐米各國何れの都市に於ても無料圖書館又は公立圖書館の設備なきはなき也。苟も國家が都市的文明の

健全を保たんとせば、清健なる職業制度に加へて無料若くは公立圖書館の設備なかるべからず。畢竟都人士をして、不健全なる娯楽に、沈湎せしむるに至る原因、一は以て都人士其人の罪に在りと雖。翻て考ふる時は都市に於ける清健にして、而も愉快なる社會的設備の闕如せるが爲なり。猶の水に棲むが如く、人類は時間中に棲まざる可らず。而して個人を幸福ならしむるも滯た又不幸ならしむるも、一に斯時間を有益に利用すると害用するとにあるのみ。健全にして而も有益に時間を消費せしめんと欲せば、圖書館中の生活は慥かに其一たるを失はじ。社會一般の人々が墮落して、人生的破船を爲す所以のものは、職として剰餘的時間を害用するに由らずんばあらず。此消息を了解したるジョン、ラボックは左の如く云べり。

然れども餘裕の時間と、懶惰の時間とは之を同一に論ずべきに非ず。人に餘裕の時間あるは最大恩惠にして、之に反する懶惰の時間は、最大仇敵なり。前者は幸福の淵源にして、後者は不幸の源泉たり。試に想へ一賤民が數日間徒手にして空費すとせば、彼は何事をか爲すべき。如何なる事柄に

其時間を使用すべきか、若し彼にして其時間を、圖書館に於て使用したりしならんには、最早徒に時間は消費せられざる可し。

と圖書館の利益豈其れ數へ盡すべけんや。今夫れ住友吉左衛門氏が建築費貳拾萬圓と、圖書購入費五萬圓とを醵出して、之を大阪府へ引渡したる所以のものは、少くとも此間の消息を了解したるに由るならんか。其府知事に差出したる願書中、左の如き語あり。

熟ら全般の事物を視るに府民の便益を計り子孫の教育を扶くるの方法に關しては尚闕如する所少からざる樣相覺え窃かに遺憾に存居候。近頃閣下大阪府の爲めに子弟教育の大計を立てられ府民をして永く其惠に賴らしむるの御盛德にて圖書館設置の事も亦御企畫有之候趣、側かに傳承仕御深慮の段誠に感佩の至に堪へず候。吉左衛門豫て是等有益の事業を裨補し以て祖先以來大阪に荷へる洪恩の萬一に酬ひ度平素希望罷在候處、今や幸に素望を達するの好機會と存候に付乃ち別紙記載の要領に基き圖書館建物一式幷に圖書購入基金として金五萬圓を大阪府に寄附し一は以て目下極めて多端

なる市部府費の一部を補ひ一は以て府民の爲めに最有益なる御盛擧を贊助仕度奉存候幸に願意御採納被下徴志貫徹致候はゝ本懐不過之候仍て前顯寄附の義御許可被成下度別紙相添此段願ひ奉り候也。

と。而して府當局者と、住友吉左衛門氏とは、六ヶ條の契約を締結して、之れを永遠に府廳に引繼ぐことゝせり。斯事業たる菊地知事が在職中、所謂十年計畫の一として經營したる結果に外ならず。

一圖書館の構造　圖書館は大阪市北區中之島公園内に建設せられ敷地總坪一千坪、總建坪二百四十九坪八合二勺にして、去三十三年九月起工、同三十七年一月竣工せり。軒の高さ地盤より四十九尺中央半圓形屋根頂上まで七十七尺也。基礎は割栗及「コンクリート」地形にて、壁の外面は總て花崗石を以て築造し、裏積み煉瓦を用ゆ。床梁は總て鐵材を用ひ、半圓形屋根は鐵骨なり。

全體の構造は書庫を除くの外、總て三層より成り、其第一層は製本室、荷解室、食堂、喫煙室、小使室、物置、便所等なり。

第二層は玄關、廣間、新聞雜誌閲覽室、應接室、事務室等なり。

第三層には紀念室あり。此紀念室の壁上に四種の油繪を掲ぐ（一）は本館の寄附者住友吉左衛門氏の肖像にて（二）は林間に鹿の逍遙する所、即ち奈良を代表し（三）は牧場の溪畔に牡牛の佇立する所、即ち大阪を代表し、三都何れも特性を發揮する點、頗る興味あり。其次室には普通閲覽室、特別閲覽室、女子閲覽室及豫備室あり。

普通閲覽室は八十四人、特別閲覽室は四十人女子閲覽室は十六人を容るゝに足るべし。現時幼年者の爲めに別に一室を設けたり。

而して新聞閲覽室は巾三十四尺長さ四十二尺にして、新聞及雜誌見臺を備へ、室の一隅に出納所を設置す。圖書の捜索は「カード」に依り、未だ圖書目錄なし。

書庫は五層より成り、全然耐火的構造にして、約書籍八萬卷を收藏し得るに足る。書庫の各層と連絡して二ヶ所に圖書運搬用として「リフト」を供し又各層より普通閲覽室及新聞雜誌閲覽室の圖書出納所に通ずる談話管を設け

て圖書の出納を便にす、本館の東北隅には別に汽罐室を設けて、冬季本館暖房の用に供す。

一建築費　總額約貳拾萬四千圓にして、起工より竣工に至るまで使役せし諸職工及人夫、總計七萬七千五百有餘人なりと謂ふ。

一開館時間　十一月一日より二月末まで、午前九時開館午後九時閉館、三月一日より十月末日まで、午前七時開館午後十時までなり。

一休日　歲末十二月二十八日より、一月六日までを休日とす。

一掃除　館内の掃除は、毎月末日之を行ふ。

一閲覽者種類　閲覽者を分て二種とす、普通閲覽者及特別閲覽者即ち是なり。

普通閲覽者は一回閲覽券貳錢、十回券拾貳錢（有効期限六十日間）三十回券拾貳錢（有効期限百二十日間）也。特別閲覽者一回券五錢十回券參拾錢（有効期限百二十日間）なり。

一貸付書籍の數　普通閲覽者に貸付する書籍は同時に三種以内、和裝書十五冊、洋裝書四冊、和洋兩裝書を併借する時は、十冊を以て定限とす。特別

閲覽者に貸付くる圖書は、同時に七種以内にして、和裝書五十冊、洋裝書十冊、和洋兩裝書を併借するときは、三十冊を以て定限とす。

一閲覽人の數并種類　學生最も多く其次は實業家也。實業家の多きは大阪の特色にして、内には丁稚番頭等數多あり。從て執務時間以外の時間は清健にして而も高尚なる娯樂即ち讀書に耽る者とすれば、冥々の裡各商店の利益も亦自ら大なるべし。本年七月中の統計に據れば、學生三千六百七十三人。實業家一千七百三十五人なり。次に來るべきものは女子五百四十六人。官吏二百〇八人。軍人三十六人。其他雜種者二千五百六十八人なり。閲覽者中比較的女子に閲覽者多きは女學生と看護婦とあるが爲也。

十六、社會と警察

學問の弊か●前途遼遠●部分を以て全體を忘るゝ勿れ●特別に大切なるは警察官の常識●獨逸の警官●英國の警官●タラツク氏と常識●比して我國を見よ●英人成功の理由●近來の傾向●メツロンの書翰●警察の命令と人民の自助力●我國警察の一進歩●警察の本義及び理想●滋賀縣長濱の警察署長●之を是れ眞個の慈善とは云ふなり●

左に掲載するものは、岐阜市議事堂に於て同縣警察官の爲に講演したる梗概を、記憶のまゝ筆記したるものなり。看官其れ之を諒せよ。

▲●●●……過去十年以來宗教、政治、文學、教育何れも之を社會的に論ずるやうになつた。その理由は社會の爲めの學問であるから、それが政治、宗教、文學、教育何れであらうとも社會の爲めにならぬならば、寸分の益にならぬからである。併しながら段々物が綿密になつて、專門々々と云ふ

ことになると、自然部分を重んじて全體を忘れるやうになる。此の弊は物が專門になるに付いては、十分に注意を致さねばならぬことである。教育の如きも人間の爲に教育をするのであるから、餘り專門になり過ぎると社會の爲にならないのである。近來「ソシアリゼーション、オブ、デー、スクール」といふことが流行するが、それは一體如何いふことであるかといふと、學校が餘り專門的になつたので、夫れでは爲にならぬから學校風になり過ぎた處を社會化すると云ふことである。監獄と警察は密接なる關係を以て居るが、過去五十年間に監獄の改良は、著しき進歩發達を遂げたのである。併し乍ら餘りに監獄制度が監獄的になつたので、罪人を捕へて之れを懲罰し且つ之れを感化して社會有用の人間にするには、前途頗る遼遠である。故に監獄を社會化して世の中の爲になるやうにするのには、如何いふ風にしたら宜からうか乎といふことは、監獄改良家の苦心する處である。警察も亦過去五十年間に長足の進歩を爲し、殊に我國の警察制度は世界各國に於て最も善き處の一つであると云ふことは、誠に喜ばしき事であるが、用心しないと警察の爲に警

察が存在するやうになつて、國家の爲にならぬようでは、幾許進歩した警察でも、本來の目的を達するとは出來ないのである。近世文明の一特徴は、何事にも專門が出來るとである。夫の醫者の事を見ても、段々分科といふものが出來て、內科、外科、眼科、齒科、耳鼻咽喉科といふやうに專門々々になつて來ることは、確に醫術の進歩を顯はして居るには相違ないが、しかし部分を完うして、全體を殺すやうなことがあつてはならぬ。例へば鼻の療治は完全に出來ても、此の療治が出來上ると共に死んで仕舞うては役に立たぬ。故に專門家は銘々膝手な事を遣らずして、身體があつての鼻であり、目であり、口であり、手であるから、部分を大切にすると同時に全體のことを考へなければならぬ。警察もその通り、國家を安泰になし、人民を保護する處の行政的一機關に過ぎない。ダカラ警察の爲に警察をやらずして、國家や人民の爲に警察の職務を勵行することが必要である。故に予は警察の職務を完うすることに付き、左に感ずることを述べて、研究の一端に供したいとおもふ。

部分を以て全體を忘るゝ勿れ

▲警察と常識……苟も人間が此の世に生存する限りは、常識の發達は何人にも必要である。特に警察官は尙更ら健全なる常識が發達して居なくてはならぬ。何故かといふに、一局部の人だけを相手にするならば、常識の發達は左程にも要らないかも知れないが、社會全體を相手とする警察官の如き職務は、常識が遺憾なく發達して居らなくてはならぬ。然らざれば罪なきものを罪人にしたり、罰しなくとも宜いものを罰するやうになつて、人民の保護官である職責を完うすることが出來ないやうなことになる。獨逸人は腦髓が緻密で、何事も規則的であるが、餘り規則的であつて、且つ法律的なるが故に警察官の如きは、時々奇態を演ずることがある。斯ういふ談がある、伯林市內で掏摸に「ポッケット」を拔かれた者があつた。所で近くの交番に之れを屆けて云ふのには、今彼處に泥棒が逃げて居りますから、どうぞ捕縛して下さいと。すると、受持の交番巡査が云ふやう、「今逃げ居る所の區域は、管轄外であるから、他の警察官の支配すべき區域を侵すとは法律の許さぬ所である」とて、みす〳〵其泥棒の逃げるのを見て居つたといふことである。之は極端の例であるが、獨逸流の警察官が持つて居る缺點の最も大いなるものを指摘

獨逸の警官

特別に大切なるは警察官の常識

したものとおもふ。ソコになると、英吉利人は最も常識に富んで居る。警察制度及び警察官は、世界で一番英國が宜いといふことであるが、之れは法律の完備して居るといふよりは、寧ろ法律を勵行する警察官が、常識に富んで居るといふことを顯はすのである。尤も警察官ばかりではない。英吉利人は一體に常識が發達し、且つ又常識の發達せんことを努めて居る。爰に面白き逸話がある、今は退職したが、數年前迄は老體にも拘らずロンドンに在つて盛んに監獄改良を唱へ、且つ世界に重きをなして居つたウ井リヤム、タラックといふ有名な監獄學者があつた。此の方とは予は多年交際をし、且つ彼の國に往つた時にも屢々面會をしたが、此のタラック氏は監獄の改良進歩に關しては、最も有力の機關である『ロンドン、ハワード』監獄改良協會の主幹者である。此の監獄改良協會は、毎年報告書を出し、且つ世界に有名であるから、定めて其事務所は大厦高樓であらう、と思つて尋ねて往つた處が、恰度ロンドン市中我が領事館の在る處の眞向にその位置を有して居る。普通西洋では數階の上に事務處を設けるが如きは、最も盛大な事業を行つて居る處でない。數

階の上に住む程、それ丈家賃も安ければ、それ丈住んで居る人も、貧民である。然かも數階を上つて行つて見ると、八疊程の室のグルリに書物を置いて、極質素に事務を取つて居る。然るにその事業たるや世界の監獄思想を動かすが如き勢力を有して居るのである。予はタラック氏をその事務處に訪問し、且つ色〳〵の話の折からタラック氏に問うて曰く『足下の從事せらるゝ協會は、世界有名な協會であるが、何か規則樣の者はありますまいか』と。處がタラック氏の曰はれるのには、『規則といふやうなものは少しもない』と。故に予は推し返して、『それでは何で會の事務を進歩せしむるのであるか』と尋ねた處が「サウンド、コンモンセンス」即ち健全なる常識といふ事であると答へられた。若し之が我國に於て、あれ位の協會を設くるならば、何々伯爵を會頭に何々を名譽會員にと、其他規則書や何にかも堂々たるものを作るであらう。然るに英吉利人は規則や、名文には拘泥しない。實際の仕事をやるのが主眼で、而かもその仕事は健全なる常識を以てやるのであるから、餘り六ヶ敷事は言はない。これが英吉利人の實際仕事を成功して行く所以の要素

である。警察事務を厲行するにも、寧ろ規則といふよりは社會の出來事に遭遇して、其都度活きたる判斷と、健全なる常識とを以て處斷して行く事が大切であらう。死んだ法律ばかりに拘泥して、活用が出來ないとすると、警察の職務を厲行することは頗る六ケ敷い。

▲法律と道德……政治を爲すのに法律は勿論大切である。併しながら法律が道德と聯絡を取らないといふことになると、却てそれ丈の効力がない。其處で道德と法律とは、或程度まで提携して往かなければならぬ。又法律は道德の根底に立つて始めてその作用を完うするのである。處が過去二三十年前までは、その聯絡に就いて頓と氣が付かなかつたので、法律は法律一偏でやらんとし、道德はある程度まで法律の力を借らんければならないのに、一方向きに行きたるが爲に、兩方互にその力を逞うすることが出來なかつたのである。然るに近來の傾向は法律も好んで道德の助を歡迎し、又道德も法律の内に這入り込むやうになつて來た。その一二の例を擧ぐれば、英米各國には警察署の内に「メツロン」といふものがあつて、その「メツロン」なるも

のは宗教的思想を以て滿ちて居る處の宣教師のやうな婦人である。此の者が泥醉者なり、博奕打なり、泥棒なりの間に這入り込んで、一方政府の役人として、半面は個人的友愛を以て彼等を敎戒する。其お蔭で惡人も化して善人になるやうである。又過去十年間に發達した刑の執行猶豫、それに伴ふ試驗官の如き制度は、慥かに道德と法律との提携を意味するのである。我國の執行猶豫には、試驗官なるものはないのであるが、米國の猶豫制度には、此の試驗官なるものが骨子である。そも〳〵此の試驗官は如何なる性質のものなるかといふに、裁判官見たやうなものでもあり。且つその犯罪者を善導する上からいふと、敎育者ともいふやうなものでもある。而して其試驗官は有給のものもあり、又名譽職のものもある。名譽職の試驗官には、軍人の未亡人もあり、金滿家の奥さんもあり、牧師又は敎育家の妻君もあるといふやうに、兎に角特志の人によりて不幸なるものを救はんとするのである。法律で規定した政府の事業に、無給なる義勇兵の如きものがあるといふことは、慥に法律範圍内に、道德の要素が這入り込んだ一

適確なる証左

證である。又監獄の方でいへば、監獄制度の内に教誨師といふ一機關があつて、道徳宗教に據りて彼等を改善に導かんとし、又監獄から出た刑餘の免囚者に向つては、保護會社といふものがあつて、これを善導保護するといふことは、偖に監獄改良は法律一偏では行かぬ、といふことを立證する一例である。斯様に論じて見れば法律は嚴父で、道徳は即ち慈母である。兩者相提携して法の違犯者又は犯罪者を救濟し得るのである。

法律は嚴父道徳は慈母

警察の命令と人民の自助心

▲警察と命令の徹底……前にも述べし如く、總て學問は社會的になりつつあるといふことを一言したが、法律を厲行したからといつて、決して警察の目的が達せられるものではない。本當をいふて見れば社會が總の點に於て發達進歩しないと、警察の目的を達することは出來ない。ロンドンの警察が世界第一といふのは、警察制度其ものも、宜いには相違ない、又警察官その人も進歩して居るにも依るであらうが、幾許警察官が進歩して居つても、人民が進歩し社會が一般に發達しなければ、警察の命令は行はるゝものでない。片手を擧ぐれば、如何に雜踏せる繁華の場所でも、警官が意の如く人民を指

我國警察の一進歩

導し得るのは、元より警察官の訓練が行屆いて居るからではあるが、警察官の命令に服從する人民も亦豪い者である。予の警察眼を以て言はしめば、人民は一人々々即ち警察官である。事茲に至りて乃ち好く警察命令が行はるゝのである。人民の側から喜んで法律に從ふ思想がなくして、如何して警察の命令が行はるゝであらうか。して見ると警察計りが進歩しても、社會が進歩しないと、警察の目的を達することは出來ぬのである。故に警察當面の事務よりいへば、間接も間接、非常な間接であるが、警察官たる者は社會事業や教育事業抔に大に同情を持ち、或點に於ては餘力を以て、此等の事業に聲援を與へて貰はねばならぬ。近來我邦に於ても此處其處に餘力を以て社會教育や、慈善事業に同情された事に依り、風俗を矯正し、犯罪者を減少しつゝある實例は、枚擧に遑ない程である。之は我國警察の一進歩と謂はなくてはならぬ。犯罪者を探偵して之を檢擧するのみが、決して警察の能事ではない。苟も刑事に關係を有するものは、『刑は刑なきに期する』といふことを以て、その理想としなくてはならぬ。今警察官が社會事業或は慈善事業に關係して

警察の本義及び其理想

犯罪者を減少したり、或は風俗が矯正されたりした一例を言はん、滋賀縣長濱警察署長辻雅俊氏は、實に其一例である。これは予が本年四月長濱に至り調査した所であるが、元來長濱町には屑物商に從事する者、約百餘名あつて、彼等の風俗は全體からいふと非常に惡い。或は喧嘩をし、博奕を打ち、或は酒を飲み、其取締には同署長も困難したといふことである、單に取締のみでは最後の處分がつき惡いといふ所から、彼等をして善き仕事に從事せしめたならば、彼等の惡風を矯正することが出來るであらうといふので、昨年函館の大火災を機會とし、二三の屑物商を選拔して、車二臺を作らせ、旗を立てさせ、村落に屑物即ち紙屑、空壜、ボロ、傘の骨といふやうなものを貰ひにやつたのである。尤も毎日といふではない。月の朔日と十五日と、斯う日を定めて村落へ貰ひに出した所が、案外にも世の同情を得て、暫くやつて居る間に、貳百圓足らずの金が出來たので、其金を函館の火災や、福知山の水害、その他少々の額ではあつたが、各種の慈善事業に寄附せしめた。尤も車を押し立てゝ出る屑物屋には、四拾錢なり、五拾錢なり、相當の日給を支給して

屑物を無代價に貰はせるのである。始の程は警察にて證明も何も與へなかつたが、その後必要あることを認めて、一冊の帳簿に署長の證明を與へ、その帳簿は『廢物蒐集長濱慈善會』と稱して、開卷第一の頁に左の趣意を記し署長が捺印したのである。その趣意に曰く、

人生の快事慈善を行ふに過ぎたるはなしと雖、餘裕なきを如何せん。本會茲に相謀り、毎月二回の休日を利用し廢物を募集し、其物品を警察官立會の下に賣却し、賣得金より實費を控除し、各地の慈善團體及び清貧者に寄贈するを以て目的とす。之れ本會の趣意たり。

明治四十一年一月八日

屑物同業者慈善會

廢物募集人　辻村友三郎
外十九名

右事業の正確なるものたることを證す

一月八日

長濱警察署長　辻　雅俊　印

斯様な風にして導いた處が、案外にも警察の保證があるといふので成績宜しく、當に屑物を呉れるのみならず、米穀等を喜捨するやうになり、寄附も次第に集つて來るのみならず、既に從事したる屑物屋が喧嘩をやめ、酒を禁じ、眞面目に働くやうになつて來て、此等の企が當に慈善事業を完うしたるのみならず、取締に苦しみたる屑物屋等を矯正することを得たのである。又集めた殘餘の金を以て、昨年十二月の如きは屑物屋を警察署に集め、巡査の指揮命令の下に餅を搗かせ、約五錢位の餅を袋の中に入れ、それへ五錢銀貨を添へて、百十二名の貧民へ配布せしめた所が、貧民は意外の感に打れて、其餅の分配者を掛け取と誤解して、逃廻る者があるやら、又中には落涙して好意を感謝したものもあつたといふことである。又本年元旦には屑物屋を招いて慰勞會を開き、大に彼等を慰め、且つ諭したといふ。斯う云ふで官民協同して、一の慈善事業を爲したる爲に、長濱町及び其附近の人氣も善くなれば慈善心を鼓舞奬勵するの一助ともなり、萬般の上に非常に利益があつたと云ふことである。斯る實例は他の府縣に於ても、決して少からぬとである。例へ

之を是れ眞個の慈善とは云ふ也

ば警察官であつて新平民部落の改善に從事し、又は貧民夜學校を設け、或は青年團體を善導する等、一々枚擧に遑ない程であるが、斯様な善い事業を爲して思はざる邊に、警察本來の目的を達したる例洵に少からず。以上演べ來りたることは、首尾徹底せざるの感はあるが、警察が社會的になりつゝあるの例證ではあるまいか。又かゝる出來事は將來起らんとする警察の新傾向ではあるまいかとも思ふ。前述したる如く警察と社會との關係は、極めて密接なるものであるから、斯る邊に留意することは、時代の要求を知る所以であらう。予は以上の所感を陳述して、本日の責を塞ぎたいと思ふのである。

十七、休暇の利用

人生は勤勞と休暇とを以て織り爲すもの・尙潮汐の干滿の如き乎・詩人の警句・

人生は勤勞と休暇とを以て織りなしたる錦繡の如きものなり。勤勞は人生の縱絲にして、休暇は其橫絲なり。縱絲と橫絲とを程能く配合調和すれば人生の一生は麗はしき錦繡となるべし。若し此配合其宜しきを得ざらんか、尊き人生は、支離滅裂するの恐れなからずとせず。世人多くは勤勞の切要を說くも、休暇の利用を知らず、一恨事と云ふべし。人の平生を知らんと欲せば、多くは儀式の日に見る能はずして、寧ろ其家庭に籠居せる休養の日に見るを得可し。故に休暇を有益に利用する人は、深き修養ある人なり。吾人は社會狀態を視察せん爲め、全國各地に於ける町村を調査したることあり。年中如何なる時期に於て、警察事故最も多きかと云ふに、盆正月又は氏神祭禮其他休暇の日に於て多きを見たり。是に於て人の多くは休暇の日に於て、人格を壞

尙潮汐の干滿の如き乎

詩人の警句

崩するものなるを認識せり。休暇豈忽にすべきものならんや。

百病の原因種々ありと雖も、氣根弛み、體力崩れかゝる時に於て、疾病は釀さるゝものなり。弛みなき精神、隙なきの身體、何せう疾病を起すの理あらんや。然れども一張一弛は、天地の法則にして漲りたる潮は退かざれば止ます。退きたる潮は再び漲り來らざるを得ず。氣候も亦斯の如く、嚴寒數日に亘らば、必ずや其後の數日は暖かなるべし。寒暖互に相來往して、萬物育ち、人體發達するものなり。斯の如く勤勞は人生の漲る半面にして、休暇は人生の退く他の一方面なり。兩々相竝んで一生は完成せらるゝなり。

今や春既に過ぎて、夏正に半ばならんとす。而して學校、會社、さては人事百般の事務、或は之を半減し、或は之を全廢して海に往くものあり、山に隱るゝものあり、交通來往日に增し般盛ならんとす。この秋に際して休暇をめざるの謂にあらず、泰西詩人の警句に言はずや『休暇とは變りたる仕事の別名なり』と。常務を背後に殘して、新らしき休暇に入るは、言ひ換ふれば抑休暇なるものは、萬事を放棄して勤

別種の仕事に打かゝることなり。故に悠々爲すなきの休暇は、眞正の休暇にあらざるなり。是を以て歐米人の休暇を迎ふるや、或は旅行を試みて未見の地を探り、或は山川地理を踏察して、學界に資し、或は平素讀まんと欲して、未だ讀み能はざりし書籍を讀破し、而して其學識を廣むる等、其種類千態萬狀なるべしと雖も。彼等が休暇を利用して、新生面を拓くに怠らざるの一事は、殆んど我邦人の思ひ及ばざるものあり。之を要するに休暇なるものは、常務の多忙に遮られて、完成し得ざりし事物に向つて、其完成を遂ぐる者也。然らば休暇は舊來ありふれたる意味のものにあらざるや知るべきのみ。吾人は常務を中止して、夏季休暇を迎へたる凡ての人士に向つて、偏に休暇を利用せんことを勸告するものなり。徒らに酒をあぶり、賭具を弄び、色を獵りて時を害用するは、斷じて其の本旨にあらざる也。

都會は一見光の中にあるが如し

醜惡見るに堪へず

十八、都會と田舍

都會は一見光の中にあるが如し●醜惡見るに堪えず●田園の光景●單純無垢、率直眞率●

人、都門に入りて、先づ其外觀の美に驚く。電燈輝き、電車馳り、煉瓦日光に映じて燦たり、爛たり。馬車行き、自働車行き、人行くこと忙はしく、行く人悉く皆美はし。都會は宛ら光の中にあるが如し。

然れども仔細に內部を研究するに至りて、誰れか又其醜惡の甚だしきに驚かざるものぞ。之を譬ふれば尙ほ醜婦白粉を施して、夜間街道を歩むが如きか。一たび太陽に照らし見るに至りて、愕然自失せざるもの殆んど稀れなり。よし多くの除外例はありとするも、今極端に都會の內容を曝露せば、親切に見ゆる人が、山師にして、詐欺を是れ事となし、美人が賣春婦にして、鼻下長者の生血を絞る白面鬼たり。高帽の紳士が輕薄男子にして、人の風上に置

けぬ人物たるが如き、蓋し長き生活を都會に續けたるもの、常に目撃する所の實例也。知らず斯の如き都會に於て、果して能く健全なる社會的空氣を作り、剛健なる人物を養成し得べき乎。

吾人は敢て都會を敵視して、獨り田舍に味方せんとするものに非ず。左れど事實に基きて、是非の判斷を下すべしとせば、吾人は止むなく多くの愛著と、多くの趣味を田舍に寄せざるを得ざる也。足を都門に拂つて、一たび村閭に入らんか。吾人は早くも人をして向上せしめ、安神せしめ、慰撫せしむる空氣の充滿しつゝあるを感ぜざる能はず。靜寂なれ共、寂寞人を殺すが如くならざるは、田舍の狀態なり。荒涼なれども、凄慘人に迫るが如くならざるは、田舍の光景なり。靜寂の中に、ふわりと頭を撫づるが如き優かなる所あり。荒涼の中に、ぢつと心を落著かしむる餘裕あり。而して一二泊足を停むるに從つて、更らにより多く吾人を愛著せしむるものは何人ぞや。一に曰く人間の善良なること。二に曰く天然の美麗なること。三に曰く周圍の狀態の休息せるが如きこと是れなり。

此頃社會學の大家英人ブレーが著はしたる『都市の兒童』と名づける一書を繙けるに、氏は村里否な村里を圍める周圍の狀態に三個の特性を擧げ、一は靜寂、二は休息、三は美麗にして、此の三狀態は、人類を向上せしめ、修養發展せしむる必要なる條件なりと說けり。吾人亦實に此說に同するを躊躇せず。都會は一見美麗なれども、再見醜惡面を掩ふべきに反し、一見粗雜にして而も雜駁極まるが如きも、二見三見其多きを加ふるに從つて、彌〻其美を加へ來る村落の、如何に慕ふべく、又愛すべきかを思はずや。更らに科學的眼光を放つて、其一木一草を研究するに至つては、ソロモンの榮華も及ぶべからざるの美を看取せざるを得ざるべし。若し夫れ精神的領域に入りて、農夫の胸を敲かば、都會に於て聞くべからざる單純にして無垢なる、卒直にして眞摯なる聲を聞かん。然り此聲こそ田舍をして生命あらしむる原動力たるなれ。豈に山と河と、田と畑と、森と林と、桑廠と茅屋とのみ獨り田舍の價値ならんや。クーパー曰く『都會は人の作る所、左れど村落は神の作る所也』と。吾人は其果して然るや否やを知らず。即ち知らずと雖、少なくとも

田舎は健康、精神、活力の宿る所。之れに親しむ多ければ、即ち其人は健康、精神、活力の三徳を受べし。換言せば田舎は體力の敎養、精神の鍛練場なり。之を活用せしむるは、固より都會の天地に求めざる可らざるべしと雖。根柢を田舎を置かざる今人が、都會に入りて忽ち其健康を傷ひ、其精神を碎き、其活力を失ふは、固より其所にして、深く怪むに足らざる也。今や暑期漸く來り、綠蔭清晝、田舎を想ふの時となれり。久しく紅塵の裡に沒頭して、心身俱に綿の如くなれる都人士は、宜しく芳草を趁うて、水村山廓に吟詠する所あれ。

十九、山と人

山居の徳・山家壽多し・

山と人との二字を並び書きて仙と云ふ。何等美はしき文字ぞ。山居の徳は、古人の既に推奬する所、獨り推奬する所たるのみならず。古來山林に入りて、所謂山水泉石を俱にしたるもの、擧げて數ふ可らず。山林は靈の鍾輿するところにして、兼ねて又肉の長養に最も適する所なり。之を以て山中に棲息せる人々は、其壽命多くは長し。素門にも『山家壽し、海濱夭す』とあり。是れ殆んど動かす可らざる事實の如し。詩に曰はずや『白雲似レ帶圍二山腰一、青苔如レ衣負二巖背一』と。白雲を帶となし、青苔を衣となす。人斯の如き境遇にあらば、其人は既ち山の如く巖の如くあるべし。其人既に山の如く、巖の如くあらば其心暢かに、其身も亦胖かなるべく、壽求めざるも長からざるを得ざる也。故に農村の生活を以て悉く無意味なりとするも、此の一事は、然り此

一事は、確かに農村唯一の特權なりと謂はざる可らず。何ぞ況んや農村の生活は、悉く意味あり、價値あるに於てをや。

二十、教育家の社會的任務

教育は凡てを醫やす所謂萬能藥なるもの即ち是●權威の一●常住教育家たるを要す●大學移殖事業と貧民救助の完備せる獨逸●五人組制度●一擧兩得の道●多額の教育費●十二萬の教育家●基督の教育法●風俗改良會●出監學校●道樂仕事●親孝行と師弟の情誼●月給制度の弊●教育を以て世界を統一せよ●

左に掲載するものは山形市に於て縣教育總集會の席上著者の講演したるもの

教育界の泰斗ペスタロッチは『教育は凡ての不完全と罪惡とを醫療する萬能藥である』と申しましたが、これは諸君が日々實驗せらるゝ所であると思ふ。教育萬能主義が一時非常に盛でありましたが、其の反動として、色々な反對説が現はれました。即ち『クリミナル、タイプ』Criminal Type. と申して、罪人は先天的に罪人であるとか、又遺傳の勢力は強くして、到底人力を以て、打ち勝つことが出來ないとか云つて、教育は凡ての不完全と罪惡とを醫す萬

能藥でないとて、之を駁した人々もありましたが、私の實驗によれば敎育によつて醫されないものは一つも無いと信ずるのであります。元來私は監獄の敎誨師として犯罪者を敎誨したり、不良少年の爲に學校を建てゝ敎育して居る者ですが、今では最早や十年も經ました。此の間に於て、私はペスタロッチの言葉が眞理であると云ふことを實驗致しました。

敎育は實に太洋の如きものであつて、その研究すべき範圍は廣く且深いのであります。廣く且つ深きが故に研究すべき方面は、一にして足らない。假令ば法律と敎育との關係、倫理と敎育との關係、哲學と敎育との關係、行政と敎育との關係、宗敎と敎育との關係、文學と敎育との關係と申すやうに、實に多方面に渡つて居りますが、今日は以上の諸問題を論ぜんとするにあらずして、吾人と最も深き關係を有する社會と敎育とのことにつきて、少しく平素考ふる所を述べんとするのであります。さて敎育を社會の上より見る時は、先づ社會は敎育によつて、如何になりつゝあるかと云ふこと、及敎育家は社會に對して、如何なる任務を有して居るかと云ふことを研究するのが大

切であります。

今より十年前に米國ニューヨーク市にある『コロンビヤ』大學師範部長チヤールス、ダットン氏と云ふ人が一書を著し名けて『Social Phases of Education』即ち『敎育の社會的現象』と申して居りますが、之は確かに今日の敎育の特徴、ダットン敎授の論は、學校の内部を、如何にして社會的に仕組むことが出來るかと云ふことに就て說いたのであつて、歐米人は大抵此の事を論じて居りまする。私は此のことに就て述べやうとするのではない。敎育者は社會に對して、如何なる任務を有して居るか、と云ふことを研究して見たいと存するのであります。顧ふに從來の敎育家は、餘りに敎育家たりしを以て、社會の爲には却て有益なる仕事を爲すことが出來なかつたのである。私は常に『敎育家たり』と云ふことを考へて居るのであります。卽ち敎師は啻に學校に居る時計りでなく、學校の外に於ても亦敎育者たるべき者であると云ふ意味であります。社會の進步し發展するにつれ

て、二三十年以來最も強き傾向の一は、敎育が學校の棚外、卽ち社會に溢れ出やうとするとであります。恰も宗敎が寺院に計り籠城して居ないで、寺院から社會に溢れ出たと同樣に、敎育も亦比較的靜なる學校の範圍より繁劇なる社會に溢れ出たのであります。

扨此の敎育を社會に溢れ出すと云ふ考は、何時頃から起つたかと云ふに、今から四十五年程前に英國に起つたのであります。卽ち『ケンブリッヂ』大學及び『オックスホヲルド』大學に於て『大學移殖事業』（ユニボルシチー、セツルメント）と云ふものが起りました。此の事業は大學の敎授や學生等が、曾に智識を學校內にのみ籠城させないで、社會の內、最も迷信や、無學に充ちたる貧民窟に移殖し、夜學會や、講演會等を催して貧民を敎育するのである。之を大學移殖事業卽ち "University Settlement" と申すのであります。又色々の講義も大學內のみに限らないで、廣く公衆に傍聽を許すのであつて、通俗講談會の如きものを開くやうになりました。之を大學擴張事業（"University Extension" と申して居ります。英國チャーレス、ブースの統計によると、英國に於ける富豪者は、僅かに百分の十だと申して居ります。扨して其他の百分比例の九十までは、中產以下の者である。若し學問も亦此富の分配のやうに、一方のみに偏したならば、それこそ大なる危險ではありませんか。ペスタロッチは『人間は生れながらにして上尊きより、下卑しきに至るまで、敎育は平等に受くべき者である』と云つて居りますが、實に此語は動かす可らざる眞理だと思ひます。義務敎育の普及せるは、卽ち其理想が歐米各國に於て實現されたからであります。そこで私が云はんと欲するのは、敎師は學校ばかりの敎師でなくて、學校を一步外に踐み出しても、餘力があるならば、夜學校や補習敎育及慈善事業等の爲にも、力を盡して貰ひたいと云ふのであります。

貧民救助の方法が世界で最も完備して居りますのは獨逸であります。夫の國には『エルベルフエルド、システム』と云ふものがある。これはエルベルフエルドと云ふ市に於て發明せられ、爾後良好なる結果が現はれましたから、斯く名づけたのであります。私は數年前公用を帶んで、同地に參り、其實況を調査致しましたが、其の方法は同市を十有餘區の救貧區に分ち、一區毎に